

目次

A . 第 43 回京都大学 11 月祭環境対策委員会総括	4
B . 全体に係る事項の報告	1 1
a . スタッフ募集・シフト管理等に関する報告	1 1
b . 本部運営に関する報告	1 4
c . 後片付け日に関する報告	1 5
C . 総合啓発部門	1 8
a . 総合啓発部門総括	1 8
b . 広報担当	1 9
c . 調査担当報告	2 2
d . 企画担当「レストスペース」について	3 6
e . 企画担当「エコスペース」について	3 9
D . ごみ減量部門	4 2
a . ごみ減量部門総括	4 2
b . 集積場全般報告	4 3
c . 洗い皿報告	4 8
d . ごみ分別・リサイクル	5 1
e . 生ごみ堆肥化について	6 4
E . スタッフの感想、エピソード集	6 9
a . スタッフアンケート集計	6 9
b . 当日スタッフの感想	7 2
c . エピソード集	7 3
F . 編集後記	7 8

はじめに

この冊子は
第 43 回 11 月祭における 11 月祭環境対策委員会の活動報告書です

内部資料としての役割もあるため
若干読みにくいところがあるかと思いますが
ご了承ください

まず、次項の
「第 43 回京都大学 11 月祭環境対策概要」
を読んでもらえますと、当委員会の活動の概要が理解できるかと思えます

詳細につきましては、次項が示します各項をご覧ください

それでは
やや長い報告書ではありますが
最後まで目を通していただければ幸いです

第43回京都大学11月祭環境対策概要

文責 松山直樹

今年度の11月祭環境対策の活動の概要を、当日の活動を中心に報告する。詳細については各担当の項を参照していただきたい。

1、第43回京都大学11月祭について

実施日 2001年11月22(木) 23(祝) 24(土) 25(日)に渡って行われた。

21日(水)前夜祭、26日(月)後片付け日

天候 4日間全て晴天

備考 160もの模擬店が軒を連ね、他にも様々な教室企画、グラウンド企画、講演企画等が行われた。

2、11月祭環境対策委員会について

11月祭環境対策委員会は「11月祭での実質的なごみ減量・環境負荷の削減」「11月祭を通しての環境意識の啓発」を目標に、1994年度以来活動を続けている。今年度は、ごみの減量とともに、できる限り多くの関係者、即ち来場者、諸企画、スタッフ等を巻き込んだ活動を行うことを重視し、活動を行った。なお、当日に関わったスタッフはのべ53人となっている。

詳細は4ページ

3、11月祭のごみについて

<今年度のごみ分別>

「紙ごみ」「ビニール・プラスチック類」「缶・びん」「発泡トレー」「PETボトル」「割り箸」「生ごみ」「廃食油」「段ボール」

以上9分別。

ただし、会場内については「廃食油」「段ボール」をのぞく7分別のごみ箱を設置。

それぞれのごみは再資源化及び適正処理に回される。

詳細は51ページ

<ごみの総量>

毎日のごみの量を全て計量した結果は下記の通り。

紙ごみ	約1500kg
ビニール・プラスチック類	約750kg
缶・びん	約400kg
生ごみ	約550kg
PETボトル	約3500本
割り箸	約34000膳
発泡トレー	約38000枚

(うちリサイクル約12000枚)

廃食油 約120L

他に後片付け日で排出され、未計量となったごみ及び段ボールを加算するとごみの総量は4トンを下らない。

また、当委員会の11月祭に関する調査は総量のみではなく、他にごみの組成を調べる組成調査等も実施している。

詳細は22ページ

4、ごみの発生抑制・リサイクルに関する活動について

(1) 洗い皿企画

模擬店にプラスチックの皿（洗い皿）及び箸（洗い箸）を貸し出し、それを洗浄し使いまわすことで、使い捨て容器の削減を図る企画。なお、洗浄には京都大学生生活協同組合吉田食堂の洗浄機を使用した。

洗い皿企画参加模擬店 13

洗い皿使用枚数 のべ5970枚

使い捨て容器換算量 ごみ袋（90L（市販より大型））約30袋分

洗い皿を使うことで、ごみの削減だけでなく使い捨て容器に比べ見た目が良くなるといったメリットもある。

詳細は48ページ

（2）分別・リサイクル

分別は前述の9分別。それぞれ再資源化・適正処理が図られる。

また、会場内ごみ箱については11月祭において多くごみを排出する模擬店がそれぞれごみ箱の管理を担当し、その設営・再分別等を責任をもって行う。特定の団体のみを負担を強いるのではなく、排出者と処理者の一致を試みた点で特徴的なシステム。また、全模擬店は同時に発泡トレーの洗浄作業を行い、洗浄されたトレーはリサイクルに回された。

詳細は51ページ

（3）生ごみ堆肥化

11月祭で排出された生ごみは、ほぼ全て京都大学有機農業研究会の協力のもと、堆肥として再生利用される。今年度は有機農業研究会に加え、京都市立高野中学に一部を譲り渡し、園芸用として使用してもらうこととなった。

詳細は64ページ

5、広報・啓発に関する活動について

11月祭環境対策委員会のみが活動するのではなく、その意義等を来場者や諸企画の方に理解してもらい、協力していってもらう、また11月祭を通して少し環境問題に興味をもってもらうことは重要な活動である。今年度は当委員会の活動の広報として下記のものを実施した。

（1）広報活動

レストスペース

休憩場所が少ない11月祭において、グラウンドの各所に机・椅子を設置した「レストスペース」を行った。単なる休憩所の提供だけでなく、その場を用いて当委員会の広報物などを置き、広報を行った。

当日は非常に多くの人々が利用してくれた。

公式パンフレット

11月祭公式パンフレットにて11月祭のごみ分別、当委員会の活動を3ページにわたって紹介した。

立看板

11月祭当日において「11月祭におけるごみ分別の紹介」「洗い皿の紹介」「洗い皿参加模擬店紹介」「生ごみ堆肥化についての紹介」の各種立看板を会場の随所に設置し、来場者の方にも当委員会の活動を知ってもらえるよう努めた。

詳細は18ページ

A . 第43回京都大学11月祭環境対策委員会総括

代表 松山直樹

1、ごみ問題と11月祭

近年、環境問題に関わる事例は世間を騒がしているが、ごみ問題もその例外ではない。現在、1年に日本全国で排出されるごみの量は一般廃棄物（家庭ごみと一部の事業ごみの合計）で5000万t前後、産業廃棄物（事業活動で生じたごみ）で4億t前後となっている。これらごみは焼却・破砕化・再資源化等の中間処理を行った後に、最終的には埋立地で処分されるが、それでもその処分量もまた膨大であり、一般廃棄物の最終処分場の残余年数は約8年、産業廃棄物のそれは約3年とされている（2000年現在）。国土の狭い日本にとって、ごみの大量排出によって引き起こされる、処分場確保の問題は、日本国内だけでなくとどまらず海外へも波及する正に焦眉の問題と言える。

また、ごみ問題は処分場の確保の問題に限らない。ダイオキシンという言葉が市民権を得てから久しい。減容化に効果的であるとして一般廃棄物の75%が処理されている焼却処理であるが、それによって生じるダイオキシンを始めとした有害物質の排出の問題もある。焼却場に限らず、最終処分場よりの汚染物質の漏出は事例に事欠かない。ごみとなった物に含まれる希少金属・有害金属の回収もまた今後ますます重要となるだろう。ごみも元々は資源であったという観点に立てば、資源の大量消費・ごみの大量廃棄という構図は有限な地球資源を枯渇へと向かわせているということであり、今後我々が生活していくうえで避けて通れない問題となる。

現在、日本においても各種環境・リサイクル関連法が整備されつつあり、企業も廃棄物搬出の点で環境に配慮することが求められている。こういった行政・企業の努力も重要であり、それは社会的潮流となつつある。しかし、ごみ問題に取り組む上では、全てのごみのうち家庭からの排出が少なからぬ割合を占めており、また全ての個人が何らかの企業・行政・団体等に属していくことを考えれば、同時に我々の自覚と行動が重要となってくることは言うまでもない。

さて、11月祭は例年4日間にわたって行われる、関西の学園祭の中では最大規模といえる。当日は幾つもの講演・教室展示・模擬店が軒を連ね、多くの来場者が訪れる。しかし、その裏では使い捨て容器類を中心に膨大なごみが排出されており、その総量は4t以上となり、現代の大量消費・大量廃棄の縮図とも言えよう。11月祭は学生の手によって作られる学園祭という、言わば非日常の空間である。しかし、同時に社会の中においては一つの事業体と等しい立場であると考えられる。それらの点を考えた時、社会の一つの場である11月祭がごみ問題という観点から何ができるのかを検討することは必要と言える。

2、11月祭における環境対策の意義と11月祭環境対策委員会

前述の通り、11月祭におけるごみの排出量は膨大なものである。よって、ごみ問題やそれに関する対応等の近年の社会的潮流を鑑みて、11月祭においてもごみ対策を行うこと、すなわち、ごみの発生抑制・再資源化・適正処理をすることは、十分意義のあることと考えられる。また、11月祭という場で、適切なごみの処理システムを構築することは、社会に対するモデルを示唆することであり、11月祭に関わる模擬店・企画・来場者を通じて、新たな社会の潮流を創り出すことができる。したがって、11月祭における環境対策の意義の一つとして、実質的なごみの減量・環境負荷の削減が挙げられる。

しかし、11月祭において一部団体により、仮に素晴らしいシステムが創造されたとしても、周囲の意識が変わらなければ本質的な問題の解決とはなりえない。そもそも、11月祭は高々4日間にわたって行われる時間的にも空間的にも限定されたイベントであることを忘れてはならない。しかし、同時に11月祭は、来場者や企画等で非常に多くの人のごみと関わる、ある意味特殊な場であることもまた事実である。そんな場における環境対策は、工夫次第によっては絶大なアピール効果を持つことが考えられる。11月祭を通して、来場者や諸企画等がリサイクルやごみ減量を自然なものと受け止める様になり、自覚と行動をもって日常の生活に反映させることができれば、11月祭における環境対策の意義は十分見出せる。11月祭で活動を行うが、その影響が11月祭期間内だけに留まらないことが重要となる。これが11月祭で環境対策を行うもう一つの意義と言える。

こういった観点に立ち、実質的に11月祭において環境対策を行う団体として、有志により11月祭環境対策委員会が構成され、存在する。ごみは放っておいても自然と減ることはなく（むしろ増えるの

だが、実質的なごみ減量を図るのなら、明確なイニシアティブをとらねばならない。そのための諸提案をする必要があり、同時に単なる掛け声に終わることなく、自らが実践と行動に努める必要がある。また、前述の通り 11 月祭環境対策委員会だけが奔走するのでは、本質的な問題解決にはつながらない。よって環境対策委員会は、自分たちはもとより、11 月祭に関わる事務局・諸企画・来場者等できる限り多くの関係者を巻き込んでの活動が求められる。

3、今年度活動方針とその総括

以上、ごみ問題にまつわる現状を認識し、11 月祭において環境対策を行う意義を踏まえた上で、今年度 11 月祭環境対策委員会の活動方針の確認とその総括を行いたい。

(1) 11 月祭環境対策委員会の活動理念・方針

第 43 回 11 月祭 3 環境対策委員会が結成される際に理念として次のものを掲げた。

11 月祭環境対策委員会は、ごみ問題を始めとする環境問題が重要な問題であることを認識し、現実問題として環境負荷が著しい 11 月祭において、環境に配慮した総合的な活動をする

言い回し・語句の用い方等、気になる点があるかもしれないが、それはあまり本質とは関係ないので議論は割愛する。こういった理念にあたるものは、ともすれば中身の無いもの、実務とは違うものと敬遠される傾向があるが、やはり最低限度は確認すべきである。それはすなわち、ごみ問題を始めた環境問題及び 11 月祭で環境対策を行う意義等を十分確認せぬまま、11 月祭環境対策委員会の活動に臨むことは、非常に危険だからである。11 月祭環境対策委員会は創造的な活動も重要だが、やはりある面では事務作業・ルーチンワークと言えるものをこなさねばならぬ一面がある。また、模擬店を始めとした諸企画に対し、何らかの作業を課すときがある。そういった際に己の中に確固たる（又は明確な）基準が存在していない場合、時として空しさを感じる時があり、また 11 月祭で環境対策を行う責任に耐えられない可能性がある。

こういった理念・基準と言うのは外部から押し付けられるものではなく、各自が自発的に見出し、目的意識を持つことが望ましい。しかし、そのために何らかのアプローチを行ったかという今年度に際しては十分とは言えない。環境対策委員会の活動を進めていくうえで、勉強会や議論といったものを通して、こういった理念に当たる部分を字面だけでなく、実感していけたらよいと考える。そのためには 11 月祭を経験し、他の部分でも知識が豊富な上回生の役割が大きいのは言うまでもない。

さて、更に活動基本方針として次の二つを掲げた

11 月祭において、実質的な環境負荷を削減する活動を実施する

11 月祭において、事務局・企画・来場者を巻き込んだ活動を行い、環境問題についての意識啓発を行う

これらは 2 で述べた 11 月祭で環境対策を行う意義の 2 点を反映させた基本方針である。この基本方針の下、主に前者を中心とした活動を行うものとして「ごみ減量部門」を、後者を主とするものとして「総合啓発部門」を立ち上げ、その実施にあたった。詳細は各部門総括に譲るとして、ここでは全体の総括のみを行う。

また、今年度の重点項目として「関係者全員を納得させる環境対策を行う」を掲げた。

この重点項目は今年度文字通り重視したかったものである。ここで挙げた「関係者」とは、11 月祭環境対策委員であり、事務局であり、来場者であり、11 月祭に関わる諸企画全てである。これは基本方針の後者に通じるものであるが、現実で考えられる限りのシステムとごみ処理ルートを構築したとしても、それに関わる人がその意味も知らず、また実施する者もなぜ行うのか知らなければ単なる苦役であり、11 月祭を終えた後にそれが日常生活の中へと発展することは考えられない。

(2) 主に啓発に関する活動について

上記方針、特に「関係者全員を納得させる環境対策を行う」を受け、今年度は特に広報・啓発面や意義・目的の確認を重視し、例会に提出される企画書やマニュアルについては、目的・意義の項目の明確化に努めた。しかし、やはり経験の少ない 1、2 回生では結果的に実感がわからないことが見られる面が多々あった可能性があり、11 月祭を終えてから各企画の意義や目的を実感し始めたと思える。

とは言え、企画段階で目的等をないがしろにするのは環境対策を行う上では、全くの本末転倒であるので注意したい。今年度感じたことは次年度の企画において有意義となるだろう。また、当日スタッフに対する説明が不十分であった点も次年度改善が望まれる。

また、模擬店企画に対しては、昨年度から改良した「環境虎の巻」の配布や11月祭後に11月祭で出たごみのフローについてのピラを配布するなどして、模擬店作業の意義の伝達を図った。どれくらいの模擬店がその内容を理解してくれたかは測る術がないが、作業に関わる人への広報活動は今後忘れてはならない。今後の課題としては、当日、特に直接作業に携わる人たちに理解を求めるといった広報が必要だろう。POPや集積場でそういった情報を提供しても良いし、来場者への広報活動と兼ね、屋外に一大パネル展を展開しても面白い。

最後に来場者であるが、来場者に対しては過年度より多い種々の立看板、3ページに増量していただいた公式パンフレット及び今年度初めて企画した休憩所「レストスペース」でそれぞれ広報を行った。11月祭での環境対策を成功させるためには、来場者の協力が不可欠なわけであるが、来場者に対する広報はまだまだ改善の余地がある。11月祭におけるごみのフローの紹介や洗い皿参加模擬店・生ごみ堆肥化参加模擬店の店頭POPの活用などが挙げられよう。

上述の通り、広報・啓発の果たす役割は大きく、今後の改善が最も望まれる箇所の一つである。システム・実務に傾倒すると、どうしてもそういった面が疎かになるだけに、今年度総合啓発部門の果たした役割は小さくなかったと認識している。部門・組織のあり方については4に譲るが、少なくとも実務やシステム運営の片手間で広報を行うようなやり方への後退だけは絶対に避けなければならない。

(3) 主にごみ減量に関する活動について

さて、他方ごみ減量部門であるが、その活動は過年度の蓄積があるものが多く、また蓄積がないものであっても今年度スタッフがシステムの明確化・改善に努めたため、細かい点を除けば概ね満足に機能したといえる。諸システムについては次年度以降も当日のスムーズな運営を視野に入れた更なる改善を進めていくことを忘れてはならない。

次年度の課題を挙げるとすれば、企画（特に模擬店企画）との関係及びスタッフの意識に関わる点であろう。この部門の活動（洗い皿、分別・リサイクル、生ごみ堆肥化）は企画と関わることで、それも企画に対して実際に、具体的作業の協力を求めるという点で、共通している。企画にしてみれば、11月祭はいわゆる「お祭り」であり面倒なごみ処理や分別、作業などは敬遠したいものであることは十分想像できる事であり、それに対しこちらが、環境対策のためとはいえ作業をいわば「強制」することは、する方としても気持ちのいいものではないし、不満等を言われて楽しいわけではない。しかし、黙っていてもごみが秩序だって処理されるわけではなく、ましてやごみが減ることなどありえない。1970年代に全国に先駆けて静岡県沼津市がごみの分別収集を始めた時は各所より非難の嵐であった。しかし、今となっては分別収集をしない自治体の方が非難されている状態である。別に11月祭環境対策委員会がパイオニアを気取るわけでもなく、ましてや自分たちのしていることは正義だと凝り固まることなどあってはならない。しかし、ごみ問題を認識し、また11月祭での環境対策の意義を少しでも感じられるのなら、11月祭で環境対策を行うにあたって環境対策委員会がイニシアティブを取るとは、恥じることで遠慮することでもなく、ある種の自信をもってよいと考える。そのためには、環境対策委員会はごみ問題・環境問題に対する幅広い理解と11月祭で環境対策を行う意義を十分に考える必要があるだろう。その上で諸企画の意見を真摯に聞くことができればよい。具体的には、11月祭に限らず幅広く各種リサイクルやごみ問題それによって派生する問題等の勉強会や簡単なレポートを例会時に発表するなどの取り組みができるだろう。

4、環境対策委員会組織とその課題

今年度環境対策委員会組織としては、代表の下、総合啓発部門とごみ減量部門をおき、それぞれの部長の指揮に従い、前者は広報担当・調査担当・企画担当をおき、後者は洗い皿担当・分別リサイクル担当・生ごみ堆肥化担当をおいた。各部門・担当の活動について詳細は其々の項を参照していただきたい。今年度は基本的に前年度の組織を踏襲したが、特筆すべき点として広報担当をおいたところがある。広報担当の是非については後に述べるが、広報担当は、例年他の担当は、実務に終われ広報手段まで考える余裕が

ないことを鑑みて、広報物全体のマネジメントを担当すべく設置した。そのため、前述の様に幾つもの場面で過年度より広報を充実することができたと認識している。しかし、そのことが広報を一つの担当として設置することを是としているとは限らない。

以下、ややテクニカルな話となるが、今年度の組織について総括と課題を述べる。

まず、部長制度についてだが、部長は点となりがちな担当を分野内で結びつけ、点を線・面へと発展させ、同時に全般的な仕事等に当たってもらう予定であった。しかし、今年度に際してはそれに対する具体的な指針が欠如したために、部長は実質自部門の 3 担当を兼ねるという形で終わってしまった。部長は、代表に仕事が集中しないように各担当をつなぐ中間管理的な役割を担うべきなのか、3 担当の活動を熟知してどの場面でもバックアップできるべきなのか、または部長独自の活動を行うべきなのか、予め合意が必要である。さもなければ、部長が非常に中途半端な存在となる。この点次年度の組織構築の際に注意していくべきである。これはその時期のスタッフの数や経験にもよるため、一概にどの形態がよいとは言えない。次年度以降検討すべき課題として残す。

次に両部門の差異について述べる。11 月祭当日での実務を中心に活動することとなるごみ減量部門は、11 月祭中のもとより、11 月祭前より様々な実務作業・事務作業をこなす必要があり、またやや専門性が求められるためどうしても担当の負担が大きくなる。また、抜けているものがあつた場合当日等の運営に非常に支障をきたす。それに対して総合啓発部門は 11 月祭前の活動が中心となり、その活動についてもマネジメントや管理など（「環境虎の巻」の原稿振りや各広報物の原案作成者選出等）が中心となる。また広報の性質上、最悪広報が欠落したとしても対外的には（時として内部でも）それが欠落と認識されないことがあり、その効果も定量的、定性的にも測りがたい。したがって、両部門を等価とみなしスタッフを同程度配置するのが賢明であるとはいえないかもしれない。つまり、広報のマネジメントであれば部長クラスの間が一人いればできる問題であり、実際の作成作業はスタッフ全員で行えばよい。また企画についても同様で、誰かが主導権をとることは必要だが、その立案に際しては全員で議論した方が参画意識の点でも望ましいとも言える。調査に関しては、若干特殊な面もあるため別組織化した方がよいと言える。啓発活動が重要なことは言うまでもないが、その組織のあり方は議論の余地がある。

最後に代表のあり方について述べる。代表は「より全体をみる部長の延長」でもなければ「非常に活動を理解した担当の延長」でもない。確かに事務局との対応、企画担当者会議の調整、その他細々とした作業も重要であるが、最も大切なのはビジョンをもって示すことと必要に応じて軌道修正を行う決断力であると考え。今年度は代表自身が実務・作業を好むことがあり、この 2 点を行うことができたかは疑問である。しかし、他の人でもできることと、代表にしかできないことがある。ここでは詳しく述べないが次年度以降代表を務める人はこの点を必死に考えてもらいたい。

最後に、隣が何をやっているかわからない完璧な縦割りの組織は 11 月祭環境対策委員会の望むところではない。各人が何らかの目的意識をもって 11 月祭の環境対策に臨んでいる以上、全ての活動を理解し、参加し、経験することは必要である。

5、おわりに

今年度は 1, 2 回生が中心となり経験的な面で非常に不安な体制での活動となった。幸い今年度の 1, 2 回生は各人が予想以上の活躍を見せてくれ、また経験豊富な 4 回生からの的確な助言もあり無事に 11 月祭を終えることができた。

今年度の 11 月祭を経験して多くの人は思うところがあつたはずである。それを、できれば次年度の活動に活かしてってもらいたい。ある人の言葉であるが、11 月祭環境対策委員会は 1 年やって満足できるものではなく何年やってもまだやりたいことが見つかる、という。環境対策委員会は今年で発足から 8 年になる。その間次第に活動は改善と発展をたどってきた。1 年ごとに物事をリセットしては、我々は何年かけても前に進めない。先人たちの蓄積があり、それを利用してこそ始めて前に進めるのだ。今年度はその点を考慮して、あらゆる活動の明文化に腐心した。明文化から漏れたものも多々あるかもしれないが、全てを一から構築するよりは遥かに効率的である。そうした蓄積の上により面白い・創造的な活動が生まれてくるだろう。次年度、今年度を支えた 1, 2 回生がどのようなスタンスで関わるかは今後の議論をまたねばならないが、今年度を無駄にする形には絶対なつてはならないと思う。

最後に、半年前のレジュメを発掘していたら次のような文書がでてきた。

「新体制になったの11月祭環境対策委員会です。これに参加してくれる方は何らかの形で環対の目的や理念に共感を持った人であると信じています。しかし、思いも大切ですが、同時に技術的な成熟が求められるのも環対の活動においては事実です。つまり、自分の思いを具現化することが大切なのです。多くの人は昨年の11月祭やそれに至る過程を経験しています。したがって、今年になって、『知らなかった』『何をしたらいいかわからなかった』という言葉は通用しないでしょう。昨年の11月祭から既に半年。今年の11月祭まであと半年。知らないのなら知る努力をする。わからないのなら頭を使う。何でも使う。まだ、十分な時間があります。今年の11月祭環境対策委員会、面白くしていきましょう。前例にないことをやってみませんか。今年の皆さんの活躍に期待します。もちろん私も努力します。」

これは5月末に2回生で行われた11月祭環境対策委員会準備会議の時のものであるが、作成したものの気恥ずかしさからか配布しなかったものである。今読んで自分の人となりに合致しない文章だと思いが、確かに当時の想いはこのようなものであった。文章の時期よりは少し早いですが、来年度11月祭環境対策委員会の活動を担ってくれるであろう人たちに、この言葉を贈る。

最後に、11月祭環境対策委員会の活動は多くの方々に支えられて成り立っています。この場を借りまして、お世話になりました関係各位のお名前を記し、感謝すると同時に来年度以降の変わらぬご理解とご協力をよろしくお願いしたく思います。

京都大学11月祭全学実行委員会本部事務局

京都大学生生活協同組合本部及び吉田食堂・中央購買部の各店舗

京都大学学生部課外教養課担当

京都大学学生部厚生課

京都大学有機農業研究会

京都大学応援団（前夜祭実行委員会）

株式会社ホーム・ケルン

株式会社レボ・インターナショナル

有限会社トカイ・トータルパッケージ

京都大学総合人間学部事務部施設・管理掛

京都大学農学部等事務部経理課

環境ネットワーク4Rの会

京都大学生生活協同組合学生委員会

京都大学安全センター

当日スタッフの皆さん

B . 全体に係る事項の報告

a . スタッフ募集・シフト管理等に関する報告

文責 松山直樹

1、はじめに

11 月祭における環境対策は活動が多岐にわたる。したがって、当日の様々な活動については、毎回例会に参加するコアスタッフの他に、当日にのみ参加する当日スタッフの果たす役割が大きくなる。当日スタッフは、当日の諸作業に協力してくれると同時に、11 月祭の環境対策を通じてごみ問題等の環境意識を啓発していきたい存在でもある。

ここでは、スタッフの募集及び当日作業シフトの作成に関すること等、スタッフに関連することを述べる。

2、スタッフ関連の 11 月祭までの流れ

- 9 月 7 日 (金) スタッフジャンパーの原案完成
- 9 月 13 日 (木) スタッフジャンパー注文完了
- 10 月 2 日 (火) スタッフ募集ピラ作成、スタッフジャンパー完成
- 10 月 7 日 (日) スタッフ募集用立看板作成
- 10 月 20 日 (土) 京大生協学生委員会指導部会にスタッフ募集依頼に関する書類提出
- 10 月 22 日 (月) シフト票配布開始、当日マニュアル作成開始
- 10 月 22 ~ 25 日 学生委員会各サークルにスタッフ募集のお願いに
- 10 月 29 日 (月) 全シフト票提出締切 シフト表作成へ
- 11 月 5 日 (月) 当日マニュアル原稿 1 次締切
- 11 月 12 日 (月) 当日マニュアル原稿最終締切、仮シフト完成
- 11 月 15 日 (木) 当日マニュアル印刷・製本
- 11 月 19 日 (月) 個人別シフト配布、生協スタッフジャンパー借用、活動理解度テスト
- 11 月 21 ~ 26 日 第 43 回 11 月祭 (前夜祭・後片付け日含む)
- 12 月 12 日 (水) 生協スタッフジャンパー返却

3、各論

スタッフジャンパー作成について

(1) 目的

昨年度に引き続き、衣類を汚れから守るため、また活動場所において当日スタッフがコアスタッフを識別するためや来場者、企画及び事務局などから、どこの所属のものが活動しているか明確にし、トラブルを避けるため今年度もスタッフジャンパーを作成した。

(2) 内容

- ・混乱を避けるため、デザインは昨年度をほぼ踏襲し、色も青色と同じくした。
- ・製作スケジュールについては 2 で示すとおり

(3) 反省等

・企画担当者会議においても着用し、11 月祭において 11 月祭事務局や企画 (特に模擬店企画) に対し環境対策を行う者の認識を与えることができたと考える。しかし、活動の性質上、諸企画から「指導」「強制」を行うことの象徴ともとらえられることもある。スタッフジャンパーはその端的な例だが、11 月祭環境対策委員会コアスタッフとしての自覚や意識が求められるところであろう。

・ジャンパー自体は英語の綴りが若干間違っただけ以外は特に問題はない。ただし、保温・防寒等の役割はあまり期待できない。

・2000 年度作成分、2001 年度作成分の合計残余が 10 着程度あるだけに、資金回収の面から、できれば次年度は作成しないことを望む。

生協スタッフジャンパーについて

(1) 目的

スタッフジャンパーを持たない当日スタッフ等のために、スタッフ識別などの目的で使用するジャンパーを用意するため、生協よりジャンパー（蛍光黄）を借りた。

(2) 内容

- ・11月上旬に学生委員会全学学生委員長を通じ、スタッフジャンパーの借用を依頼。
- ・11月19日（月）にスタッフジャンパー二十数着を借用
- ・11月祭終了後、スタッフが手分けしてスタッフジャンパーを洗濯、12月12日（水）に返却した。

(3) 反省等

・借り物であるため、使用に際しては破損・紛失等に注意を払い、使用後は速やかに返すのが望ましい。今年度はやや遅かったか。

当日マニュアルについて

(1) 目的

当日マニュアルは、当日の活動が多岐にわたる11月祭環境対策委員会において、当日スタッフはもとより、コアスタッフも各活動の意義・目的を理解すると共に、活動内容をしっかりと理解するために作成する。また、マニュアルを作成すること自体を通じ、活動の確認を行う。

(2) 内容

- ・作成の流れについては2の通り
 - ・単なる活動の具体的な内容を知るだけでなく、当日スタッフに対して、11月祭環境対策委員会の意義や11月祭におけるごみの扱いを知ってもらうことも重要である。そこで、意識啓発のために実際に作業に関わる「マニュアル」以外の部分を用意した。具体的には、下記。
 - 「はじめに」 11月祭環境対策委員会の意義を伝える。
 - 「スタッフの心得」 スタッフの基礎的な知識、対応の仕方など。
 - 「11月祭におけるごみ分別について」 11月祭におけるごみフローとリサイクルの意義を記した。
- ・マニュアル部に関しては「目的・意義」「場所・時間」「具体的活動内容」を中心に作成にあたった。

(3) 反省等

・各担当とも検討を重ねよいマニュアルができたと考える。しかし、はじめての試みなどではマニュアルが十分機能しないことがある。その際は当日においては適宜軌道修正を行い、また次年度のために実際行った内容をまとめておくことよい。なお、今年度は11月祭後に当日実施内容 新マニュアルと言うべきものを作成した。

スタッフ募集について

(1) 目的

当日スタッフとして参加してくれるスタッフを募ると同時に、こういった広報を行うことで、11月祭環境対策委員会の存在を知らしめる。

(2) 内容

スタッフ募集については下記のものを行った。

(ア) 一般に対する広報

貼りピラの展開及び立看板を設置し、毎週月曜日 18:00 より安全センターで説明会を実施。

(イ) 生協学生委員会からの協力

以前、生協環境対策委員会が存在していた頃よりのつながりで、また11月祭に協力する京大生協との関係から、例年学生委員会にスタッフの協力をお願いしている。ただし、協力はあくまで各個人の自由意志であり、団体による協力ではない。

関係書類を予め提出し、代表が各サークルのミーティングで時間を頂きスタッフ募集の説明を行った。

(ウ) 知人からの協力

スタッフの知人や以前も当日スタッフとして参加した人などを中心にスタッフ協力をお願いを

行った。

(3) 反省等

(ア) 一般への広報

立看板は比較的早い時期に展開できたが、具体的な内容を伴ったビラの展開が不十分だった。例年このスタッフ募集は人が集まらないが、11月祭環境対策委員会の存在の広報、また人を受け入れる体勢があることを示すなど広報を怠ってはならない。

(イ) 生協学生委員会からの協力

11月祭中に他の企画もあった様であるが、今年度も特に問題はなく協力していただいた。

(ウ) 知人からの協力

この手法が一番スタッフを集めやすい。去年手伝ってもらった人や興味がありそうな友人がいれば、それを誘うとよい。これがきっかけでそれ以降環境対の活動に参加していった人もいることから、友人に積極的に声をかけるとよい。

後にも述べるが、今年度は若干スタッフが少ない時間帯・日があった。そういった時には必ずスタッフを募る努力をする必要がある。これを怠ると、他のスタッフの負担となり、作業が終了しないこともある。

シフト表作成について

(1) 目的

当日円滑に各活動を行うためには、よく考えられたシフト表の存在は不可欠である。

(2) 内容

・シフト表作成の注意点や具体的な部分についてはやや専門的すぎるため、ここでは割愛する。次年度以降作成にあたっては前任者（今年度は松岡・松山）から技術伝達してもらう必要がある。

・10月中に各企画の必要人員提出

・今年度は、各個人別・各活動別のシフト表を作成し、把握が容易にできるようにした。

(3) 反省等

・シフト票配布の時期がやや遅かったため、当日スタッフなどのシフト票は締切以降に回収することもあり、結果としてシフトの作成に支障をきたした。配布期間は最低2週間はとるべき。

・シフトの完成もやや遅い。余裕のある時期に完成し、各活動においてどの個人をどこにあてるかなどの検討もしたいだけに、11月祭1週間前に完成したい。

・個人別・活動別のシフト表は十分機能したと考える。しかし、シフトの変更があった際にそれを伝達することは手間であり、混乱も招くことから、できる限り完全に完成してから配布した方がよい。そのためにはシフト票配布から早目早目の行動が重要なのは言うまでもない。

当日シフト管理について

本部運営に関する報告の項を参照

4、まとめ・スタッフに関する事項についての展望

11月祭環境対策委員会は当日にのべ五十数名ものスタッフに関わる。それだけにスタッフの扱いは重要な問題である。スタッフも企画同様に物でもなければ機械でもない。各人が意志をもっている以上、どのような活動・広報等を行えば多くのスタッフが活動を理解して率先して取り組んでくれるかを考えることは必要であろう。

次に、スタッフ募集に関することであるが、11月祭当日の様々な活動において最も色々なことを思うのはスタッフ自身であるとする。より多くの人に関わり、何かしらの想いを抱くことは、それだけ11月祭環境対策委員会の目的が達成されることでもある。今年度は主に知人等のつながりで参加する人が多かったが、もちろんこれは今後大切にする必要があるだろう。また、例年スタッフ募集は時期の問題もあり、難しいところであろうが、例えば6月位に11月祭環境対策委員会が発足した時点で説明会を行って

みたり、また秋においては当日のみの参加だけでもよいといった広報を充実させたりすれば、より多くの人の知るところとなるだろう。

スタッフ募集に限ることではないが、内へ内へと傾倒することなく、常に周囲に活動の情報を発信していくことは大切である。

b. 本部運営に関する報告

文責 松山直樹

1. 本部の機能

今年度、11月祭環境対策委員会の本部は京都大学生協同組合吉田食堂1階に設置した。本部には、下記の機能が求められる。

物理的なスペースの確保

物品の保管場所、スタッフの荷物の保管場所、スタッフの待機及び休憩所、事務スペース、反省会スペース等。詳細な設置については、下記参照。

代表の常駐場所

11月祭本祭中には、不測の事態が起こる可能性があるため、代表は連絡が容易で素早く対応できる場所にいることが求められる。また、本部は対外関係（対事務局・対他大学等）の窓口としての機能ももつ。

シフトの開始と終了の管理

シフトに入る際は必ず5分前に本部へと集合となる。その場で簡単な説明をした後に、シフトに入り、終了後再び本部へ戻り報告等を行う。

本部にはこれらの機能を十分に活かせるように設置／運営していく必要がある。

2. 本部の設置形態

今年度本部は右図のように設置した。各スペースの役割及び設置状況は下記の通り。

(1) 物品保管場所

各作業に必要な物品を保管するスペース。今年度は企画ごとに箱をもうけ、物品の管理の向上に努めた。

(2) スタッフ荷物置き場

スタッフの荷物保管スペース。休憩所や本部スペースが圧迫されないように、荷物の置き場所は限定した。

(3) スタッフ休憩所

シフトの待ち時間や休憩のためのスペース。11月祭パンフレット、マニュアル、当日パンフレット等を置いた。

(4) 本部スペース

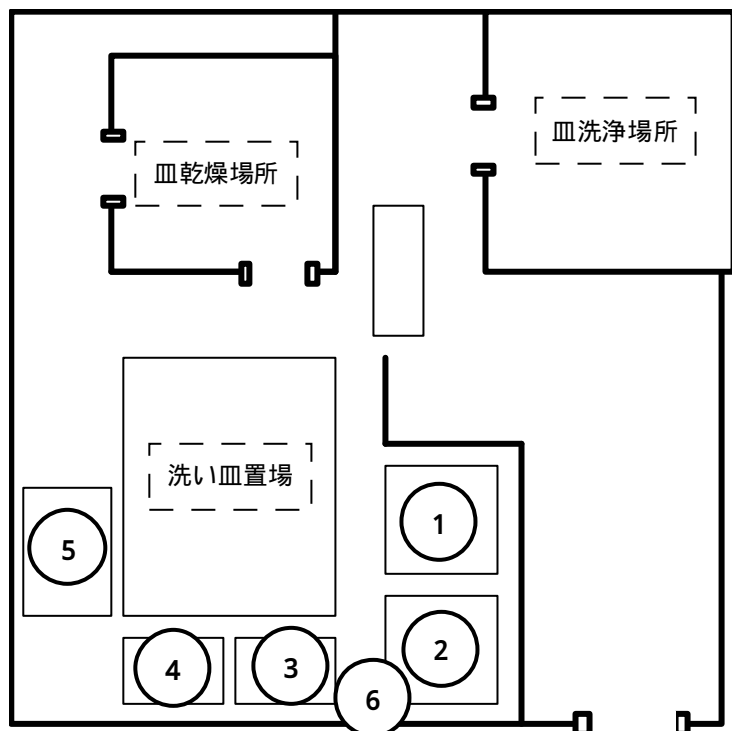
本部の事務を行うスペース。各種資料や文房具類、シフト表等を常設。

(5) 反省会スペース

1日の終了後の反省会のためのスペース。

(6) ごみ袋

本部でたごみ用のごみ袋である。当然分別は十分注意した。当初は洗い皿受付の後ろに設置したが、衛生面を考慮して、右図の位置に設置した。



3、必要物品

必要物品については内部資料として別途リストアップした。次年度以降の参考となるだろう。

4、今年度反省及び次年度への展望

(1) 各スペースの確保について

今年度は本部の設営時から、各スペースの区分けを貼り紙などで徹底し適時指示を行ったため、スペースの住み分けは上手くいき、機能的であった。スペースの区切りが曖昧となると、物品の管理が煩雑になり、また乱雑感が増すため留意すべきである。ただし、本部机に関しては若干乱雑であった。重要な書類・備品も多いことから、特に必要な書類(スタッフアンケート、閲覧用シフト表、模擬店マップ等)は別個の机を用意し配置すると機能的であろう。また、細かい文房具については基本的に本部で管理し、必要に応じて貸し出すとしたが、管理がずさんになりやすいため、こちらも別途机を用意し整頓するとよい。

(2) 代表の常駐について

本部では可能な限り代表が常駐しているのが望ましい。仮に外出することがあっても、必ず代替できる人を駐在させておく必要がある。その点では、今年度は可能な限り本部に常駐し、対応することができた。ただし、現場や会場内に目を配ることもまた必要であり、そのあたり適度に折り合いをつける必要がある。また、対外的関係的には鳥取大学(23日)、大阪大学(24日)、京都教育大学(24日)の方よりそれぞれ訪問があり、その対応を行った。別途報告する。

(3) シフトの開始と終了について

シフト開始時には、基本的に各シフトに責任者を配置しているため、シフトの説明については責任者に一任した。ただし、シフトの都合や集積場シフトの様に責任者がいない場合は代表やシフト管理が説明を行う必要がある。特に、シフトの開始時の説明は重要であり、説明が不十分である場合、各作業がスムーズに進まないのみならず、スタッフ(特に当日スタッフ)が目的意識を感じない恐れがある。

シフト終了時の報告・意見の回収に際しては特に注意した。当日にならねばわからない点も幾つかある以上、シフトに入った人の意見を回収し、必要に応じて各作業を改善することは必要である。スタッフからの報告については、各作業の責任者や反省会などで全体と共有した。

c. 後片付け日に関する報告

文責 松山直樹

1、後片付け日について

後片付け日は11月祭最終日の翌日に設けられ、各企画は撤収作業を行い、また全体で大掃除もある。当然、ごみが多く排出されるわけであり、11月祭環境対策委員会はそれに対応する必要がある。また、11月祭環境対策委員会も同時に、本部の撤収作業は物品の搬出作業等を行う。本祭は終了したが、後片付け日は本祭と比べ活動の比重が小さいわけではないので十分な計画と実施が求められる。

2、実施日時

2001年11月26日(月) 8:00 ~ 19:00

3、実施内容

実施内容を時系列にそってまとめると下記の様になる。

- ~ 7:00 紛失物(洗い皿・椅子) 搜索
- 8:00 レストスペース撤収開始
- 9:00 グラウンド集積エリア運営開始
集積場運営開始

	吉田食堂清掃開始
9:30	発泡トレ洗浄作業準備開始 会場内巡回(～10:00)
10:00	洗い皿搬出及び倉庫格納作業(～11:00)
12:00	吉田食堂清掃終了
13:00	グラウンド集積エリア運営終了 集積場運営終了 発泡トレ洗浄作業終了
13:00	昼休憩(～14:00)
14:00	校舎内ごみ箱現状復帰作業(～15:00) レスト物品返却作業(～15:00) ケルン受入(～15:00)
15:00	鉄製ごみ箱現状復帰(～15:30)
15:30	本部物品撤収作業(～16:30) 物品等整理作業(～19:00)
16:30	割り箸・トレ等搬出作業(～18:30)

各作業の詳細については各担当の報告書に譲るとし、それに触れられないものについて簡単に説明を行う。
なお、括弧内は今年度投入した人員数である。

- 吉田食堂清掃(5人程度 掃除についてはこれで十分。机・椅子を戻す時にはもう少し人がいる)
- (1) 机の上ののっていたものをすべてクイックに運び、机・椅子を端に寄せる
 - (2) ほうき、モップ、雑巾等を用いて床の掃除を行う。ごみについては、分別して集めておく
 - (3) 机の現状復帰に際しては青柳さんの指示に従う(今年度はコンパがあり大幅に机が動き、職員の指示をあおいだ。それ以外だったら自分たちで原状復帰に努める。)
- 本部物品撤収作業(3人程度 最低1人は吉田食堂で待機する)
- (1) 本部にある物品を全て(優先順位は集積場撤収より上)安全センターに搬出する。
- 物品等整理作業(5人程度 スペースから考えてこの程度が適当)
- (1) 安全センターで待機し、搬入される物品については確認し原状復帰する。
 - (2) 割り箸・発泡トレについては旧テント倉庫まで搬入する。

4、反省点

個々の作業についての詳細な反省点は各担当から報告されるため、ここでは全体の反省を行う。

大幅な時間の遅れ

当初の予定では、全体の作業は17:00程度で終了する予定であった。しかし、グラウンド・集積場共に12時程度で運営を終了する予定のところ、実際は、ごみの持参が断続的に続き13時での終了となり全体が1時間程度後ろ倒しとなった。この点、ごみの受入時間を明記するか、ある時点で作業を打ち切る必要がある。また、午後についても後に述べる人員の不足もあり、結果的に全体で2時間の遅れとなった。本祭を終え、スタッフも疲れがあるだけに早い時間で作業を終えるのが望ましい。

人員の不足

後片付け日は、特に午後において人員が不足した。したがって、諸作業と平行してできたであろう幾つかの作業(本部物品搬出など)が後回しになり、結果的に作業終了時刻の大幅な遅れとつながった。今年度は特に後片付け日における人員の確保を怠ったわけであり、次年度以降これについては努力する必要がある。

作業見通しの甘さ

後片付け日は本祭以上に幾つもの作業が並列して行われるため、全体を把握する者が必要となる。今年度はやや代表が現場に傾倒しすぎたため全体的視野を持ちえていなかった。特に本部物品の搬出に際

しては、1人でもいればリヤカーをひけるわけであり、予め各作業の見通しを十分にもち、同時に当日においても全体を把握しながら、遊んでいる人員やリヤカーを出さないことが重要である。

吉田食堂の管理

今回物品等の搬出にあたり、一時的に吉田食堂が無人となり、かつスタッフの荷物が放置されたままの状態となった。これは防犯上非常に問題となるため、後片付け日に限らず吉田食堂の管理は注意する必要がある。

5、次年度への展望

後片付け日は事細かに事態を想定しても、その通りになることは難しく臨機応変に対応することが求められるが、最低限各作業の人員と必要時間の見通しをたて、不足している部分は事前に努力することが求められる。内容についても、緻密さはかえって破綻の恐れがあるが、遊んでいる時間・人員（仕事をしていても、必ずしもその人数必要でない時もある）を作らないようにつとめるべきである。

後片付け日というと、本祭も終了し何となく軽視しがちになるが11月祭は後片付けが終わるまでが11月祭であり、ないがしろにしてはならない。

ところで、今年度は明確に「物品整理」の役割を設けた。作業終了の時間は遅れたが、物品の原状復帰は比較的早い段階で済んだわけであり、この点は次年度も参考にしてほしい。

C．総合啓発部門

a．総合啓発部門総括

総合啓発部門部長 兼松正和

今年度、昨年度の組織を踏襲するかたちで、「総合啓発部門」が設けられた。以下にこの部門が今年行った活動について記し、総括を行いたいと思う。

1、総合啓発部門の役割

11月祭環境対策委員会には総合啓発部門とごみ減量部門という2つの部門がある。ごみ減量部門は環境負荷の少ない学園祭を達成するために、実質的なごみの削減を目標として活動しているのに対し、総合啓発部門はごみ減量部門に含まれない活動、主として、同委員会の広報活動、調査活動、企画活動を担当する部門である。総合啓発部門には広報担当、調査担当、企画担当が設けられた。

広報担当

環境負荷の少ない学園祭を目指し、11月祭環境対策委員会は様々な活動を行っている。当然、その活動を一般の学生、企画団体、来場者、その他11月祭に関わる人々に認知してもらうためには広報活動を行うことが必要である。その広報物は洗い皿に関する物、分別・リサイクルに関する物、生ごみ堆肥化に関する物、その他様々である。これらの広報をそれぞれの担当が独自に行うことは困難であり同委員会の広報物を総合的にマネジメントする担当が必要なのではないかと考えの上、広報担当は設置されることになった。実際にどのような活動が行われたかは後の広報担当のページを参照されたい。

調査担当

調査担当は、11月祭における様々な環境に関するデータを収集および調査することで、今年度の活動を評価し、次年度以降の同委員会等の活動方針を決定する際の資料等を作成することを目的としている。同担当が行った活動に関しては後の調査担当のページを参照されたい。

企画担当

同委員会では、環境負荷の少ない学園祭を目指し様々な活動を行っているが、それらの活動を実際に一般の学生、来場者に知ってもらうという機会は多いとはいえない。そこで、11月祭に参加した人たちに身近なかたちで同委員会の活動を知ってもらったり、一般的な環境問題に対する関心を持ってもらう機会を設けるために、企画担当は活動を行った。詳細な活動内容に関しては後の企画担当のページを参照されたい。

その他の活動

この3つに含まれない活動として、スタッフ募集、スタッフジャンパー製作がある。

2、各活動の詳細

(1) スタッフジャンパー製作 P 1 1 参照

(2) スタッフ募集・・・10月初旬にポスター、及び立て看板を展開(総合人間学部仮正門前)した。

3、まとめ

私自身の勉強不足、経験不足のせいもあり、昨年度の「環境政策部門」を踏襲するかたちで「総合啓発部門」を設けるということに関して評価を行うことが出来ず、常に疑問をもちつつ活動するという事になってしまい、結果的に総合啓発部門の統率がうまくいかなかったように思う。広報部門に関しては、担当者との連絡は比較的取れていたほうであるが、調査部門は代表が昨年どこの担当の担当者であったた

め、代表に担当者の補佐を一任してしまった。また、それほど人数を必要とする部門でなく、そういう意味で、多くの人に迷惑をかけた気がします。先輩方、代表の助言のおかげで総合啓発部門全体として仕事はそれなりにこなせたと思いますが、納得の行く活動が出来たとは全く思っておりません。いろいろ思うところはありますが、11月祭環境対策委員会のメンバー全員が同委員会はどうあるべきかを考えなければいけないということ（組織面でも、委員会としての活動面でも、個人の活動の面でも）ははっきり言えません。当たり前のように、本当に難しいことです。

b . 広報担当

文責 宮川幸雄

1、環境虎の巻について

(1) 環境虎の巻とは

環境虎の巻とは、模擬店にごみ分別を指導し、11月祭においてごみ分別がなぜ必要なのかを理解してもらうために作られた冊子で、主に11月祭当日に何をすればよいかを書いてある。昨年度にこれが作られた理由は、2年前までのバラバラのレジユメで起こっていた、紛失しやすい、当日になって何をしたらいいかわからない模擬店がよく出た、といった問題を解決するためである。この冊子はしたがって、模擬店側に11月祭当日までに大切に保管してもらうことと、当日どんなことをすればよいかをなるべく簡潔に示すこと、という2点を主な目的として製作された。今年も同様の目的でこの冊子を製作することになった。

(2) 去年度からの改善点とその反省

文字数が多くて読みにくいという意見が出たので絵で説明を入れる箇所を増やし、読みやすくするように努めた。特に当日の作業内容には、昨年度よりも多くのページを使い、絵を入れた。その結果、読みやすさが上がり好評を得たそうなので、良かったと思う。

重要なものをなるべく前に、参考程度のものは後のほうに載せた。また、ごみ箱配置図を折込みでつけた。重要箇所は紙の色を変えるという案も当初はあったが、技術的困難さから見送られた。

事務局が発行する模擬店「虎の巻」と昨年は表紙の色が一致してしまったので、今年は事前協議で色の一致を防いだ。当然のことながら、色が違っていただけの方が冊子の説明がしやすい。

昨年度はフォントが不統一という指摘があったため、印刷する際にある程度修正した。特に明朝体と丸文字系は不統一感が強いそうである。

(3) 進行

- 7月 環境虎の巻の製作決定、および原稿担当者の決定
- 9月3日 原稿チェック、清書作成依頼
- 10日 清書チェック、追加項目作成（アンケート、ごみ箱配置図など）
- 17日 清書提出締切日
- 24日 印刷日決定
- 末頃 事務局に内容を確認してもらう
- 10月2日 印刷（180部）完成！
- 5日 第一回模擬店企画担当者会議にて配布

(4) 概要（カッコ内は使ったページ数）

- ・代表のことば（1）
- ・当日どのように分別するか（2）

- ・ごみはどのようにしてリサイクルされるか(2)
- ・ごみ箱の場所を示した地図(3)
- ・模擬店に割り振られたトレー洗浄の時間帯(1)
- ・リサイクルの重要性をアピールした文章(2)
- ・生ごみ堆肥化の説明と堆肥化に参加する模擬店の募集(1)
- ・洗い皿二次募集のおしらせ(2)
- ・模擬店アンケートと洗い皿のアンケート(4 ただし裏は未使用のため実質2ページ)
- ・今年度の売上をチェックする表(1)
- ・過去の食品ごとの売上データ集(3)

(5) 反省

環境虎の巻が今年度、どれくらいの模擬店の方々に目を通されたのか？当日、巡回指導などを通して模擬店に環境虎の巻を読んでいるかと聞いてみたところ、模擬店代表者のおよそ7割、それ以外の人のおよそ4割が読んでいると答え、内容も理解しているようであった。私的な解釈であるが、環境虎の巻の知名度および活用度はなかなか好調だと思う。しかし、それでも環境虎の巻の存在自体を知らない人、ひいては11月祭においてごみの分別が行われていること自体を知らない人が多いことも、同じ巡回指導の際に痛感させられた。環境虎の巻の知名度を上げる努力はまだまだ必要になってくるであろう。最後になるが、製作の際、事務局にチェックをお願いする時期が予定より遅れた。担当者の私が回収およびまとめを遅らせてしまったという不手際のためであり、色々な所で迷惑をかけたこととお詫びしたい。

(6) 今後に向けて

来年度の模擬店に対する広報がどのような形で行われるかはまだ決めるべきことではないものの、11月祭のごみ分別、および作業内容を事前に知ってもらうことは大変重要である。なぜなら、事前に知ってもらうことで初めて、模擬店側に心の準備がなされ、ひいては当日の環境対策委員会との円滑な関係を築くことができるからである。広報とは、本番の準備期間を担う重要部分なので、今後も環境虎の巻を上回る手段を考えるつもりで、力を注いでいってもらいたいと思う。

2、今年作成した立看板について

(1) 立看板中心の広報を展開した理由

視覚的効果を重視し、環境問題に興味の薄い人にも環境対策委員会の存在をアピールするのに最適な広報手段を考えた末、立看板を主に広報手段とした。また、何年間か使いまわせるのも立看板の大きな利点である。

(2) 各看板の概要と寸評(カッコ内は大きさ)

洗い皿参加模擬店2次募集(一辺180cmの正方形)

マスケットがうず高く積んだ皿を運んでいる絵の看板である。設置場所は東一条通正門前でかなりいい場所であると個人的に思う。通学する人にとっては目に付きやすい場所だからである。2次募集に参加した模擬店があったようなので、もしかしたら看板を見て参加を決めたかも知れない。また、2次募集終了後も来場者向け洗い皿看板として使った。

生ごみ堆肥化参加模擬店募集(縦180cm、横270cm)

生ごみのごみ袋が3つ並んだ絵の看板である。大きさとインパクトはなかなかのもので、宣伝効果は高かったと思われる。惜しむらくは、もっと使える機会があればという点である。

来場者向け洗い皿宣伝(一辺180cmの正方形)

擬人化された大きな皿が目を引く看板である。これももう少し使える場があれば、と思う。来年にもまた使えそうであり、使いたい。

当日宣伝用（一辺 180cm の正方形）

NF を環境問題から斬ってみようというフレーズの看板である。当日の来場者向け広報として本部キャンパス入り口に設置。カラフルな画調を避けて、白黒でその存在性をアピールした。

環境企画用 2 枚（2 つとも縦 90cm、横 180cm）

自転車発電と生ごみ堆肥化の人目を引くための看板である。今年の企画は目立たない場所ではないかという心配から、立看板の存在が重要視された。しかし、参加者は多かったのよかったです。看板もある程度の効果を発揮できたようである。

来場者向けごみ分別説明（縦 180cm、横 270cm）

11 月祭のごみの 7 分別に協力をお願いしますという内容の看板である。重要な内容なのでかなり大きめに作り、比較的一般客の目に付きやすいグラウンド南東口に設置した。

洗い皿使用模擬店紹介（選挙看板風で、縦 90cm、横 270cm）

洗い皿を使用している模擬店に自分の店を選挙ポスター風にアピールした看板である。

（作成方法）

まず、第 3 回企画担当者会議にて洗い皿参加模擬店にポスターの作成を依頼した。サイズは A 4 である。そして、第 5 回企画担当者会議までにそれを回収し、防水のためビニールで覆って看板に貼り付けた。作成しなかった模擬店には環境対策委員会がデザインした物を使用した。

（当日の展開とその後）

地区によって 2 枚に分けた。1 つはお祭り広場の中に移動させたため、なかなか目立っていた。しかし、模擬店間の不公平につながると事務局から指摘を受けた。

この問題に関して、11 月祭後の反省会では、物自体が広報物なので目立つのは当たり前と主張。事務局側も、事前にどういふものかを見せてくれれば検討できるとのことだった。この問題に関しては、今後も事務局との話し合いが必要と思われる。また、もう 1 つは吉田キャンパス仮門から少し入ったところに配置した。

模擬店に発泡トレーを洗浄する意義を説明したもの

集積場の、トレー洗浄を行う模擬店の人に見える場所に設置した。途中から、トレー洗浄の手順を示した張り紙も追加した。そこで作業をしていた方々によると、いずれも当日、役に立ったそうである。

（3）今後に向けて

広報を立看板にやや偏らせたが、既存の立看板の老朽化と今後また使える機会が訪れるということを考えればいい結果だったと思う。しかし、たて看板の難点としては、設置場所の困難さや製作に多くの人手がいるということが挙げられる。そのため、製作の決定は早めに行わなくてはいけない。また、先の事務局のクレームは 11 月祭において公平さを重んじる事務局と、知名度およびアピール度を上げたいこちらとでの考え方の食い違いの現れであって、今後も別の部分で出てくるであろうと思われる。あくまでも、事務局とは協力関係という前提で、この難題に柔軟に取り組んでもらいたい。



3、今年作成したその他の広報物について

(1) 各広報物の概要と寸評

パンフレット原稿(1ページ分、見開き2ページ)

パンフレットがどれだけ出回っているかはわからないが、ごみの分別種類と協力の呼びかけは今後も必要といえる。ただ、これは私が作成したのであるが、もう少し統一感を持たせた上で、環境対策委員会という名前を強調すべきだったと反省している。

スタッフ募集ピラ

今年は残念ながら、このピラで安全センターの扉をノックしてくれた新メンバーは現れなかった。この時期の新スタッフ加入の意義は大変大きいので、もっとこの分野の広報に力を入れるべきだったと思う。

模擬店用洗い皿選挙看板の説明ピラ

新企画だったので、洗い皿参加模擬店にわかりやすく説明するために作った。

レストスペースに設置した広報卓メモ

これはやや失敗だったように思う。作ってみて、完成品が思ったよりインパクトが薄かったのが原因ではないだろうか。しかし、レストスペースが誰にでも気軽に利用できるようにと、派手な広報は極力控えたため、多少は仕方のないことである。来場者の目線よりかなり低い位置になってしまったのも、目立たない原因の一つになったようである。

ライフステージに記事

ライフステージ編集局が環境対策委員会の活動を、11月号にて2ページの記事で紹介してくれました。

(2) 今後に向けて

これらの中で今後の重要な課題は、パンフ原稿とスタッフ募集広報だと思われる。広報は時期の早さが重要になってくるため、比較的余裕のある9、10月上旬頃が特に力の入れ時である。次回はこの時期に新スタッフ獲得を達成する、という目標でいくのも1つのスタンスのように思う。

4、総括

来年度はおそらく今年とは違ったスタイルの広報活動が展開されると思うし、そうしてもらいたいと思う。今年学んだことだが、今後の参考に少しでもなればと思い一言付け加えたい。宣伝といってもそのいい面ばかりを強調するのはあまり良くない。もちろんデメリットを強調しろという意味ではなく、企画参加者の獲得よりも、その企画を行う目的を優先、強調するような広報を手がけた方が、最終的には、良い結果につながるのではないか、という意味である。

c. 調査担当報告

文責 三木悠平

1、ごみ総量調査報告

(1) 目的

- ・ごみの分別形態別の総量を知ることにより、来年度以降の11月祭における、ごみ減量企画や公設ごみ箱設置数の参考にする。
- ・過年度の資料と照らし合わせることで、本年度のごみ減量企画や公設ごみ箱設置数が適切であったかどうか判断する。

(2) 実施日時

2001年11月22日(木)～25日(日)

(3) 実施場所

総合人間学部キャンパス構内吉田集積所

(4) 調査内容

集積場の項を参照

(5) 調査結果

	22日(休)	23日(祝)	24日(土)	25日(日)	26日(月)	合計
紙ごみ(kg)	185.5	382.42	359.75	585.63	-	1513.3
ビニール・プラスチック類(kg)	99.69	222.59	142.71	297.7	-	762.69
缶びん(kg)	44.08	64.03	101.51	186.63	-	396.25
生ごみ(kg)	125.05	151.08	200	69.9	-	546.03
PETボトル(本)	321	522	767	1285	583	3478
トレー(ビニ・プラ類として処理したもの)(kg)			38.36		55.24	93.6
トレー(リサイクルしたもの)(枚)	11400枚(推定)					
割りばし(膳)	34000膳(推定)					

(6) 検討・考察

紙ごみについては、前年度 1431.1 kg に比べ、82.2 kg の増加であった。また最終日の量が多いという傾向も変わっていなかった。少なくともここ 3 年間増えつづけているようである。

ビニール・プラスチック類については、紙ごみとは逆に前年度の 840.9 kg から、78.21 kg の減少であった。表示を変えたことにより、トレー、生ごみや PET ボトルがこの中に混入しにくくなったのではないかと。

缶・びんについては、前年度の 348.2 kg (あとかたづけ日除く) にくらべて、48.05 kg の増加であった。だが前々年度の 586 kg にくらべると、かなり少なくなってきているので、缶・びんの需要は減少しているといつてよい結果となった。

生ごみについては、水分を多く含んでいるせいもあってか、ごみ袋 1 つあたりの重量がとても大きかった。(逆にビニール・プラスチック類は少なかった。) また重量% に直してみると生ごみの占める割合が高いこともわかった。

PET ボトルについては、前年度の 3269 本に比べて、209 本の増加であった。PET ボトルの需要の上昇にあわせて、ごみの量も増えるようである。

トレー・割りばしについてはほぼ、去年並(去年は洗浄したトレーが 12000 枚、割りばしが 34000 膳だった。)を保っていた。ともにそれほど変化が期待できるようなものではない。なお、サンプル調査により、

トレーは 280 枚 / kg、割りばしは 5.4 g / 膳として計算した。

(7) 反省・来年度への展望

- ・調査用紙の不備があった。(PET ボトルの調査用紙がなかった。) どのような調査用紙が必要であるかの事前の十分な検討が必要である。

- ・一部ごみ袋があまりに重く、重さが計測できなかった。このようなときの対処法を考えておく必要がある。

- ・集積所の主な役割はあくまで、ごみの回収・分別である。ゆえに、調査はその次に位置するものであって、調査のため、ごみ回収・分別を妨げるということとはあってはならない。

- ・調査はおおむねうまくいったようである。これらのデータをうまく活用することが今後の課題である。

- ・そしてこの調査結果の広報についてだが、今年の場合、模擬店企画担当者会議にたよった。この結果はかなり有用だと考えられるので、他の広報についても模索したい。

2、ごみ組成調査報告書

(1) 目的

- ・11月祭中に出るごみのサンプルにおける、ごみの種類や量を調査することにより、11月祭中におけるごみ全体の種類別総量を把握する。
- ・上記の結果、過年度の結果を元に、今年度の11月祭におけるごみ分別が適切であったかを考え、来年度以降の参考にする。
- ・さらに異物混入率を調査することにより、今年度の11月祭環境対策委員会の来場者、模擬店に対するアピールが適切に行われたかを把握する。

(2) 実施日時

2001年11月23日(金・祝)～25日(日)

8:00～9:00

(3) 実施場所

吉田集積所南トイレ前

(4) 実施方法

前日のうちに各分別(紙ごみ・ビニプラ類・缶びん)のごみ袋をそれぞれ3袋ずつ確保し、集積所の脇に集めておく。

ごみ袋を開封して、組成調査分類にしたがって、それぞれの重量をはかる。

調査済みのごみ袋は縛ったのち、集積所に返還する。



(5) 組成調査分類

(1) プラスティック類

(a) 発泡トレイ

(ア) お椀型 (イ) 平型 (ウ) その他

(b) フードパック

(c) PET ボトル

(ア) 500ml (イ) 500ml 以外のもの

(d) 上記に属さないもの

(ア) プラスティックスプーン (イ) プラスティックコップ (ウ) 買い物袋・ごみ袋(包装含む) (エ) その他

(2) 紙類

(a) 紙トレイ (ア) お椀型 (イ) 平型 (ウ) その他

(b) 段ボール

(c) その他

(3) 木片

(a) わりばし (b) 竹串 (c) その他

(4) 金属類

(a) スチール缶 (b) アルミ缶 (c) その他

(5) 生ごみ

(6) びん

(a) リユース可能なびん (b) リユース不可能なびん

(7) 上記では分類できない

		紙ごみ		ビニールプラスチック類		缶びん		全体			
		総量 (kg)	1513.3	762.7	396.3	2672.2					
分類	項目	細目	重量 (kg)	重量%	重量 (kg)	重量%	重量 (kg)	重量%	重量 (kg)	重量%	
プラスチック	発泡トレ	お椀型	2.3	0.15	2.1	0.27	0.0	0.00	4.4	0.16	
		平型	5.4	0.36	6.7	0.88	0.0	0.00	12.1	0.45	
		その他	0.0	0.00	0.0	0.00	0.0	0.00	0.0	0.00	
	フードパック			2.5	0.16	173.7	22.77	0.0	0.00	176.1	6.59
	PETボトル	500ml		2.0	0.14	6.5	0.85	0.0	0.00	8.6	0.32
		500ml以外		0.0	0.00	4.4	0.58	0.0	0.00	4.4	0.17
	その他のプラスチック製品	プラスチックスプーン		0.5	0.03	9.4	1.24	0.0	0.00	10.0	0.37
		プラスチックコップ		4.2	0.28	71.0	9.31	0.0	0.00	75.2	2.82
買い物袋			7.9	0.52	56.9	7.46	0.2	0.05	65.0	2.43	
		その他	51.5	3.40	262.8	34.46	0.4	0.09	314.7	11.78	
紙類	紙トレ	お椀型	16.2	1.07	5.3	0.69	0.0	0.00	21.5	0.80	
		平型	6.5	0.43	0.3	0.04	0.0	0.00	6.8	0.25	
		その他	0.0	0.00	0.0	0.00	0.0	0.00	0.0	0.00	
	紙コップ			140.8	9.30	0.8	0.10	0.0	0.00	141.6	5.30
	段ボール			57.3	3.79	6.7	0.88	0.0	0.00	64.0	2.40
		その他	972.9	64.29	75.4	9.89	1.0	0.24	1049.3	39.27	
木片	わりばし		14.9	0.99	6.0	0.79	0.5	0.13	21.5	0.80	
	竹串		61.5	4.06	1.0	0.14	0.0	0.01	62.6	2.34	
	その他		5.6	0.37	1.0	0.14	0.0	0.01	6.7	0.25	
金属類	スチール缶		0.0	0.00	0.0	0.00	45.7	11.53	45.7	1.71	
	アルミ缶		0.0	0.00	1.8	0.24	93.4	23.57	95.2	3.56	
	その他		1.6	0.10	6.8	0.89	49.8	12.58	58.2	2.18	
生ごみ			113.8	7.52	22.8	2.99	0.1	0.01	136.6	5.11	
びん	リユース可能		0.0	0.00	0.0	0.00	25.1	6.33	25.1	0.94	
	リユース不可能		0.0	0.00	0.0	0.00	165.5	41.76	165.5	6.19	
上記では分類できないもの			45.9	3.04	41.0	5.37	14.6	3.69	101.5	3.80	

分類	項目	紙ごみ			ビニールプラスチック類			缶びん			
		重量比			重量比			重量比			
		2001年度	2000年度	1999年度	2001年度	2000年度	1999年度	2001年度	2000年度	1999年度	
プラスチック	発泡トレ		0.51	1.17	1.28	1.15	0.06	5.08	0.00	0.63	0.00
	フードパック		0.16	0.55	0.52	22.77	13.75	8.19	0.00	0.00	0.00
	PETボトル		0.14	0.00	0.21	1.43	17.36	19.69	0.00	0.40	0.00
	その他のプラスチック製品		4.23	1.88	8.32	52.47	33.15	19.99	0.14	0.73	0.10
紙類	紙トレ		10.80	11.70	19.73	0.83	0.17	4.13	0.00	0.48	0.00
	段ボール		3.79	3.49	2.32	0.79	0.00	1.19	0.00	0.00	0.00
	その他		64.29	63.26	52.74	9.89	9.68	13.18	0.24	0.16	0.03
木片	わりばし		0.99	1.61	3.03	0.79	1.40	2.87	0.13	0.00	0.06
	竹串		4.06	1.44	1.53	0.14	0.06	0.35	0.01	0.00	0.00
	その他		0.37	0.08	0.14	0.14	0.02	8.45	0.01	0.00	0.00
金属類	スチール缶		0.00	0.00	0.27	0.00	0.75	1.38	11.53	17.90	31.02
	アルミ缶		0.00	0.00	0.29	0.24	0.79	0.00	23.57	27.24	13.61
	その他		0.10	0.57	0.08	0.89	1.72	1.40	12.58	13.86	2.42
生ごみ			7.52	8.07	7.47	2.99	12.40	13.97	0.01	0.25	2.12
びん	リユース可能		0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	6.33	2.36	13.83
	リユース不可能		0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	41.76	22.12	36.79
上記では分類できないもの			3.04	0.98	2.07	5.37	0.26	0.13	3.69	0.00	0.00

(6) 結果

前項参照

(7) 検討・考察

過去との比較により、年々分別率が上がっていることがわかる。がいまだ、紙類がビニール・プラスチック類に入れられてあることがある。また、生ごみは分別率が低いように思われる。(生ごみを完全に分離することが困難であることは十分わかっているが...)

(8) 反省点・来年度への展望

- ・片づけ日の組成調査は開始予定時間に集まった人数の少なさ(2人)のため、中止した。もし、毎日の組成がほぼ等しいなら、計測するごみ袋の数をあらかじめ決めておくのも、いいと思われる。
- ・調査用紙に紙コップの欄がなかった。本年度の場合、記録はすべて集計者がとったので、修正が容易だったが、来年度もこのようになるとは限らない。調査用紙に関しても、チェックが必要である。
- ・じつは組成調査では、ごみのうち個数がわかりやすいもの(例えば、紙コップなど)では個数も計測した。だが、どの個数を計るといった基準が存在しなかったため、今回はこのデータを有効活用できなかった。このような死んだデータはないようにしなければならない。
- ・最後に、この組成調査は、非常に歴史のある調査である。来年度以降も、過去のデータを有効活用することが重要だと思われる。

3、模擬店実態調査報告書

(1) 目的

11月祭当日の模擬店の実態を調査することにより、環境対策委員会のアピールが行き届いているか調査する。そしてその結果を、来年度以降の環境対策委員会における資料とするだけでなく、模擬店関係者に何らかの形で配布して意識を向上させる。

(2) 実施日時

2001年11月22日(木)(1日目) p.m.1:30 ~ 2:30

(3) 実施内容

環境対策委員が模擬店の営業中に各模擬店を巡回し、所定の調査用紙に記入した。

調査項目は以下のとおり

擬店コード・模擬店名(あらかじめ記入)

メニュー

価格

使用容器(洗い皿・発泡スチロール・紙皿・フードパック・プラスチックコップ・紙コップ・紙・アルミホイル・串・その他・容器なし から選択)

はしなど(貸しばし・割りばし・スプーン・フォーク・つまようじ・その他・なし から選択)

油の使用

(4) 実施結果

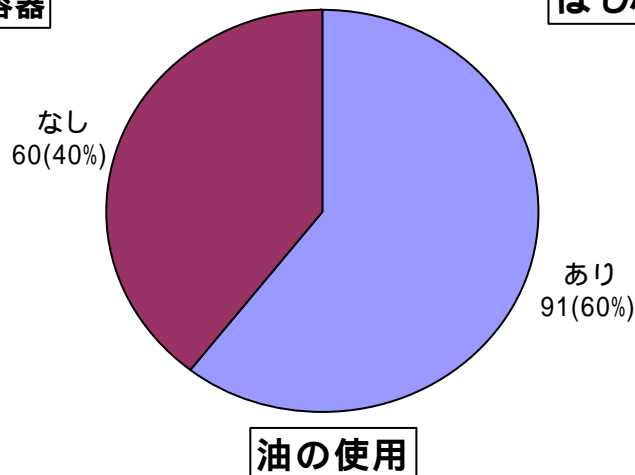
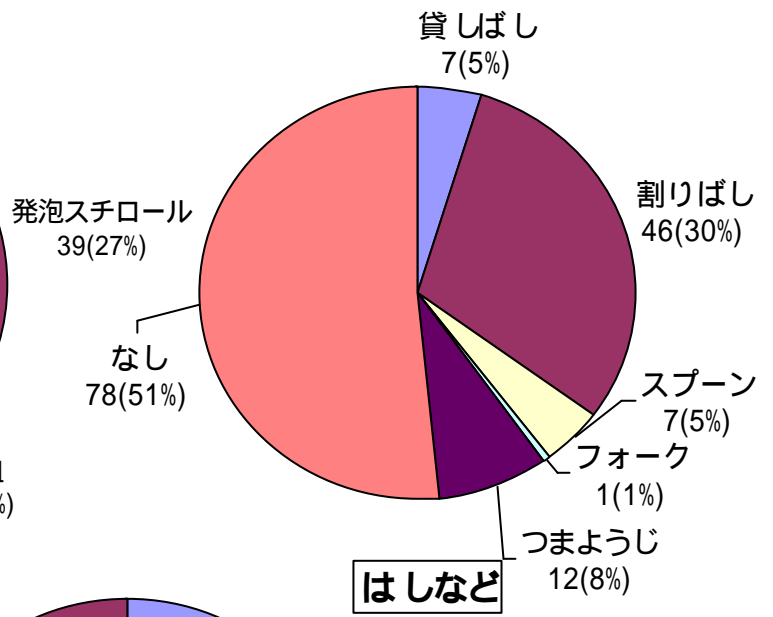
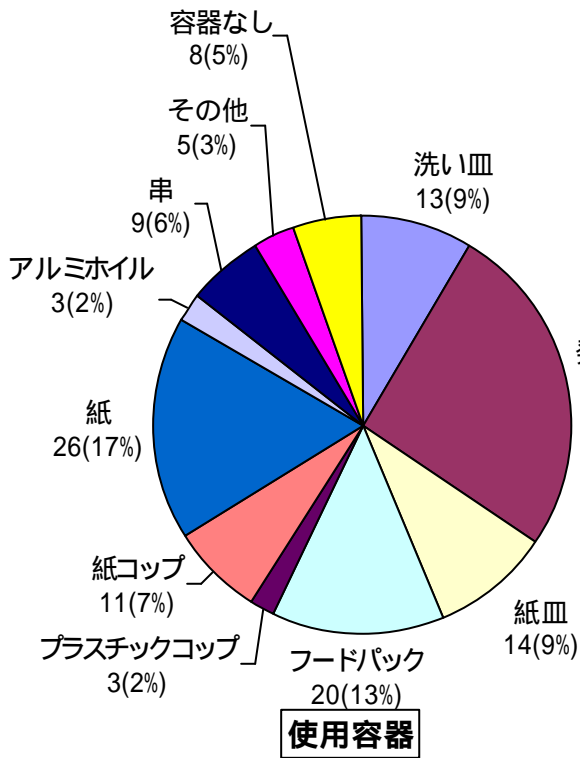
次項参照

(5) 検討・考察

・参考までに2000年度のメニューのBest 5はクレープ・たこやき・焼きそば 11、焼き鳥10、おでん9だった。今年も特定メニューに人気が集まったが、このデータを公表すれば、来年は分散するかもしれない。

・使用容器については、安価な紙を使った模擬店もしくは何も使わない模擬店が多く見られた。また、発

メニュー	店舗数	メニュー	店舗数	メニュー	店舗数
クレープ	14	やきいも	3	飲茶	1
やきとり	10	ぎょうざ	3	和食料理	1
やきそば	10	お茶漬け	2	ワンタン	1
たいやき	9	うどん	2	チョコバナナ	1
たこやき	9	そばめし	2	パフェ	1
ぜんざい	9	フライドポテト	2	じゃが春巻き	1
フランクフルト	7	なべ	2	ミルクティー	1
ワッフル	6	カレー	2	アイスクリーム	1
おでん	5	揚げたこやき	1	チヂミ	1
揚げアイス	4	ホットドッグ	1	バナナとりんごのてんぷら	1
お好み焼き	4	焼きおにぎり	1	チャーハン	1
もち	4	ソバセンベイ	1	チャパティ	1
ドーナツ	4	りんご飴	1	タコス	1
からあげ	3	カクテル	1	日本酒	1
豚汁	3	タイ料理	1	コロッケ	1
ホットケーキ	3	クリームシチュー	1	じゃがバター	1
沖縄料理	3	お雑煮	1	チュロス	1



- a. 学園祭は環境に配慮したものであるべきだ。
 - b. 学園祭はどちらかといえば、環境に配慮したものである方がよい。
 - c. 学園祭は特に環境に配慮したものでなくてもよい。
 - d. その他
- a. 16 b. 6 c. 7 d. 2

(3) 使い捨てでなく再利用できる、洗える皿を使っている模擬店があることをご存知ですか？

- a. はい、 b. いいえ
- a. 26 b. 5

(3) で a と答えられた方にお尋ねします。

(3 - a - 1) 洗える皿を使っている模擬店があることをどのようにして知りましたか？

- ア. 実際使用している模擬店を利用して。イ. 友人から。
 - ウ. ビラ、パンフレットを見て。エ. 看板を見て。
 - オ. その他
- ア. 12 イ. 0 ウ. 4 エ. 8 オ. 1 無回答 1

(3 - a - 1) 洗える皿を使った模擬店をすでに利用しましたか？

- ア. はい イ. いいえ
- ア. 10 イ. 15 無回答 1

(3 - a - 2) 洗える皿を使った模擬店を利用すると、食べた後、皿を所定の位置に返しに行かなくてはなりませんが、このことについてどう思いますか？

- ア. 面倒だとは思わない。 イ. 面倒だが、仕方ない。
 - ウ. 面倒すぎる。改善が必要だと思う。
 - エ. その他
- ア. 6 イ. 14 ウ. 4 エ. 2

(4) もし同じメニューなら、使い捨て容器を使った模擬店と洗える皿を使った模擬店のどちらを利用しますか？

- a. 使い捨て容器を使った模擬店
 - b. 味・値段などによるが、どちらかといえば使い捨て容器を使った模擬店
 - c. 味・値段などによるが、どちらかといえば洗える皿を使った模擬店
 - d. 洗える皿を使った模擬店
 - e. その他
- a. 9 b. 10 c. 4 d. 2 e. 3 無回答 3

(4 - a. b) (4) で a または b と答えられた方にお尋ねします。

使い捨て容器がよいと思ったのはどのような理由からですか？（複数回答可）

- ア. 捨てる時、便利だから。 イ. 清潔そうだから。
 - ウ. おいしそうに見えるから。 エ. 食べ歩きたいから。
 - オ. 持ち帰りたいから。 カ. なんとなく。
 - キ. その他
- ア. 10 イ. 8 ウ. 0 エ. 6 オ. 0 カ. 2 キ. 0

(4 - c. d) (4) で c または d と答えられた方にお尋ねします。

洗える皿がよいと思ったのはどのような理由からですか？（複数回答可）

- ア. 地球にやさしいから。 イ. 清潔そうだから。

は、よごれがひどく、見るに耐えないものだった。事務局テントには当日になって依頼した。事前交渉しておくべきだったと思う。)レストスペースは来場者からみてどのようなものだったのかという内容もこのアンケートが既存のものでは最も適切だったと思われる。洗い皿とレストスペースの関係についてももっと追求すべきだった。

5.、模擬店企画者アンケート(NF 前)報告書

(1) 目的

・模擬店担当者の、環境と学園祭に対する意識を調査する。

・企画担当者会議、環境虎の巻の効果が適切であったか調査する。

上記で行った調査の結果を、NF 事務局および環境対策委員会の環境政策改善の参考にする。



(2) 日時・場所

企画担当者会議になれる時間や環境虎の巻を読む時間を考慮して、第 4 回企画担当者会議(11/6)でアンケートを配布して、その場で回収する。

(3) 結果

(1) 環境と学園祭とのかかわりについて模擬店企画者としてどう考えますか？

- a. 普段から環境には配慮しており、学園祭でも配慮するつもりだ。
- b. 普段は、環境には配慮しているが、学園祭という場においてはそれほど配慮しないつもりだ。
- c. 普段は、環境にはあまり配慮していないが、学園祭という場においては配慮するつもりだ。
- d. 普段から環境にはあまり配慮しておらず、学園祭でもそれほど配慮しないつもりだ。
- e. その他

a. 54 b. 10 c. 24 d. 5 e. 1 無回答 6

(2) あなたの模擬店は洗い皿を採用しましたか？

- a. はい。
- b. いいえ。
- c. わからない。

a. 16 b. 81 c. 3 無回答 0

(2 - a)(2)で、はい。と答えられた方にお尋ねします。

洗い皿を採用したのはどのような理由からですか？(複数回答可)

- ア. ごみの減量化。
- イ. 皿代のコストダウン。
- ウ. 見栄えを考えて。
- エ. なんとなく。
- オ. その他

ア. 7 イ. 5 ウ. 4 エ. 3 オ. 1 無回答 0

(2 - b)(2)で、いいえ。と答えられた方にお尋ねします。

洗い皿を採用しなかったのはどのような理由からですか？(複数回答可)

- ア. メニューから不必要だった。
- イ. メニューが未定だった。
- ウ. 手間がかかりそうだった。
- エ. 不衛生そうだった。
- オ. コストがかかりそうだった。
- カ. 知らなかった。
- キ. その他

ア.40 イ.12 ウ.21 エ.2 オ.10 カ.2 キ.7 無回答0

(3) あなたの模擬店は生ごみ堆肥化参加模擬店ですか？

a. はい。 b. いいえ。 c. わからない。

a.16 b.65 c.19 無回答0

(3-a)(3)で、はい。と答えられた方にお尋ねします。

生ごみ堆肥化に参加したのはどのような理由からですか？(複数回答可)

ア.ごみの減量化。 イ.楽しそうだった。 ウ.なんとなく。

エ.その他

ア.10 イ.2 ウ.2 エ.2 無回答0

(3-b)(3)で、いいえ。と答えられた方にお尋ねします。

生ごみ堆肥化に参加しなかったのはどのような理由からですか？(複数回答可)

ア.手間がかかりそうだった。 イ.つまらなさそうだった。

ウ.知らなかった。 エ.不潔そうだった。

オ.危険そうだった。 カ.その他

ア.36 イ.2 ウ.15 エ.0 オ.1 カ.16 無回答0

(4) 会議における環境対策委員会の説明内容はどうでしたか？

a. わかりやすかった。 b. 普通。 c. わかりにくかった。

a,b地区 a.13 b.46 c.8 無回答2

c地区 a.9 b.19 c.2 無回答2

(5) 会議における環境対策委員会の進行はどうでしたか？

a. 満足した。 b. 普通。 c. 不満足だった。

a,b地区 a.10 b.46 c.13 無回答1

c地区 a.7 b.21 c.2 無回答2

(6) 何かほかに企画担当者会議についてなにかあれば、自由にお書きください。

後記

(7) もうすでに、「環境虎の巻」を読まれましたか？

a. すべて読んだ。

b. 一部分だけ読んだ。

c. まだ読んでいないが、これから読むつもりである。

d. 代表者でないのでわからない。

e. まったく、読むつもりはない。

a.34 b.50 c.8 d.8 e.無回答0

(8) ~ (10) は「環境虎の巻」を読まれた方にお尋ねします。

(8) 当日に行うことは把握できましたか？(p2~9の内容)

a. よく把握できた。 b. まあまあ把握できた。 c. あまり把握できなかった。

a.12 b.63 c.6 無回答4

(9) データ集は役に立ちましたか？(p14~16の内容)

a. たいへん役に立った。 b. 少し役に立った。 c. 役に立たなかった。

a.29 b.45 c.6 無回答3

(10) この中で、参考になった、よかったというものがあれば を、不必要ではないかというものがあれば をつけてください。(複数回答可)

- a. なぜ、ごみ分別をすべきなのか。(p10.11の内容)
- b. 洗い皿2次募集の説明。(p12.13の内容)
- c. 生ごみ堆肥化2001。(p17の内容)

a . 27 a . 8 b . 15 b . 9 c . 25 c . 4 無回答 50

(11) 「環境虎の巻」全体でなにかあれば自由にお書きください。

後記

(おまけ1) ところで、京大11月祭のごみ回収。何分別であるかご存知ですか？

- a. 8 b. 9 c. 10 d. 11 e. 分別は行っていない。

a. 7 b. 52 c. 12 d. 2 e. 1 無回答 27

(おまけ2) もしあなたの模擬店が本来100円で作れる食べ物を売るとします。ですが、環境に配慮したものをつくろうとするとどうしても100円で収まりきりません。さて、そのとき、環境に配慮したものが何円以下なら、「環境のためなら仕方ない」と妥協できますか？

- a. 一切妥協できない。 b. 101~105円 c. 106~110円 d. 111~115円
- e. 116 ~ 120円 f. それ以上(円) g. わからない。

a. 11 b. 20 c. 24 d. 5 e. 11 f. 5 g. 9 無回答 16

(4) 考察

(1) 普段環境に配慮していると答えた人が全体の78%。配慮の基準は個人によりけりだと思われるが、この数字はかなり大きいと考えられる。「環境に配慮する」ということが自然な時代になったのかもしれない。だが、“学園祭をするとごみが出て、環境を悪くするのは仕方ないことだ。”という意見もあった。(回答e)

(2) 洗い皿模擬店が22企画、非洗い皿模擬店が138企画であることを考慮すると、洗い皿模擬店のほうが、このアンケートの提出率が高いことがわかった。

(2 - a) 回答が全体的に分かれた。“局員のすすめで”という意見もあった。

(2 - b) 最も多かった回答はメニューに関するもので、メニューが異なれば、洗い皿採用も十分考えられたと思われる。がやはり、コストや手間を指摘する回答も見受けられた。その他意見は、“希望したが、落選した。”というのが2、“容器を持っていた”というのが2、“上回生のすすめで”というのが1“クレープをするため、容器は不要”というのが1(これは回答アの元だと思われるのだが...)“使用法が不明瞭”というのが1だった。

(3) ここにおいても(2)での傾向が見られた。また、洗い皿かつ生ごみ堆肥化という回答は意外に少なく、2つだけだった。

(3 - a) 楽しそうと感じる人は少ないらしく、理由はごみの減量化が中心だった。

(3 - b) ここも、「めんどくさそう」に尽きるようである。主なその他意見は、“生ごみが出ない。”メンバー”に徹底させることができない。“というものだった。

(4)(5) 環境対策委員会の説明はだいたい行き届いているようであった。

(6) 回答数は18。そのうち、時間に関する回答が4、部屋に関する回答が3、回数に関する回答が2で、

“もっとやわらかい口調がいいと思う”が2、

“喋りが速すぎる。もう少し落ち着いて喋ってほしかった。”が3、

“レジュメさえくれれば会議は不要”が1、“

“おつかれさまです。”が1、

“最近寒すぎます。...”が1、

“コップも貸してほしかった。”が1でした。この質問は問い方がまずく、企画担当者会議全体の意見が出てしまった。もうすこし、対象をしぼったものにすればよかったと思う。

(7)少なくとも1回は環境虎の巻を開いてくれている人は全体の84%。環境虎の巻は、十分機能しているといっ手よい数字だと思う。

(8)質問の内容が抽象的であったのにもかかわらず、題意を汲み取ってくれたようだった。環境虎の巻の説明で、理解できたようだった。

(9)これは(8)に比べると、回答aを選択する人の割合が大きかった。やはり理論より実践が好まれるようである。

(10)この結果から、環境虎の巻理論部分は参考になるという意見が得られた。しかし、この質問で少し気になる点は無回答がやや多かったのと、安易ともとれる「・・」 「・・」という回答が多かったことである。(特に、のほうが多かった。また、よくよく調べてみると、(3)でcと答えているにもかかわらず、この質問のcにがついているものというありえないはずの回答もあった。)もう少し、検討が必要ではなかったのではないだろうか。

(11)この質問は、(6)に比べて、「環境対策委員会」を強く意識させる問題であったので、より「環境対策委員会」とじかに関係のある回答が得られた。回答数は8。このうち「データ集」に関するものが半数の4。内容は“データ集の充実を。”が1、“データ集に値段ものをせてほしかった。”が2、“過去の模擬店のでーたしゅうは役に立つので、すごく便利だと思います。”が1。(3°でもうすこしくわしく)

“はじめの文章も代表の方の熱意が伝わって来、また分別の仕方も絵等をつかってわかりやすかったです。”

“訂正が多いと思った。特に、日付関係は正しくしてほしい。”

“メインの虎の巻といっしょにしてほしい。なぜ、わざわざ分冊にするのかわからない。”

“がんばれ俺”(?)

(おまけ1)この質問は予想より、誤答がかなり多かった。(解答を見てでも正解を書いてほしかった...)たしかに、分別形態さえわかっていたら、数はあまり重要でないと考えられますが...ちなみに正答率は、70%。おまけと書いてあったので、やや無回答が多かった。

(おまけ2)この質問は、内容が非常にわかりにくいにもかかわらず、非常に多くの回答を得られた。さて中身だが、やはり、一切妥協できないという意見もかなり根強い。ただ、一部で1行目の100円というのが、原価であると解釈された方がいらしゃって、「原価割れなんてありえない」と考えて、aを選択したということです。が、この100円は売値のことで100円の中にすでに利益は含まれている、というのが題意でした。少し説明不足であったと思っている。妥協できないも含んで全体に回答が及んでおり、現在の所、負うことのできる量は個人次第であるといえる。が、量はともかく負う事ができるという方が相当数いることは確かである。ちなみに、fの回答はすべて150円というもの。環境に全体の1/3のコストを費やしてもよいということである。

(5) 来年度以降への展望

(10)であったように、データ集のさらなる充実が必要であると思われます。実は今年度のデータ集

は 98 ~ 00 年度のデータを使って、作成しました。そのうち、値段が書かれたものの数があまりなかったのが割愛ということになってしまいました。が、来年度は今年度の売り上げ調査、模擬店実態調査で得られた、データをもとに値段をのせることが可能だと思います。また今年度の調査でも、環境に対する意識など、十分なデータが得られた。これらの結果を存分に生かせると思います。

6、模擬店企画者アンケート(NF 後) 報告書

(1) 目的

11 月祭全体における、模擬店からの環境対策委員会に対する、意見を得て、来年度以降の環境対策委員会の資料にする。

(2) 実施日時

12 月 3 日 ~ 7 日 事務局の保証金返還時間 (回収日時)

(3) 実施場所

事務局本部 BOX(回収場所)

(4) 実施方法

環境虎の巻末頁に添付し、11 月祭終了後に、模擬店側が事務局に保証金返還で訪れる際にアンケートを提出しても良かった。

(5) 調査結果

(1)NF が終了するまでに「環境虎の巻」をどの程度読まれましたか。

- ア . まったく読まなかった。(0) イ . 一部であるが読んだ。(9)
- ウ . すべて目を通した。(10) エ . その他 (0)

(2)NF を終えての「環境虎の巻」の評価はいかがですか。5 段階でおねがいします。

- | | | | | | | | | | | |
|----|-----|---|-----|---|------|---|------|---|-----|----|
| 悪い | 1 | ・ | 2 | ・ | 3 | ・ | 4 | ・ | 5 | 良い |
| | (0) | | (2) | | (12) | | (11) | | (4) | |

3. 来年度以降も「環境虎の巻」を作ることに對しどう考えますか。

- ア . 必要ないので作らなくてもよい。(0)
- イ . どちらでもよい。(1)
- ウ . 改良を加えて作ってほしい。(8)
- エ . 今年と同じものを作ってほしい。(10)
- オ . その他 (0)

(4)(5)略

(6)11 月祭環境対策委員会及びその活動について改善すべき点、ご批判、ご意見等がありましたら遠慮なくお書きください。

会場内のごみ回収について

作業負担はどうでしたか (大変 ・ やや大変 ・ 普通 ・ やや楽 ・ 楽)
 (3) (6) (7) (2) (1)

トレー洗浄について

作業負担はどうでしたか (大変 ・ やや大変 ・ 普通 ・ やや楽 ・ 楽)
 (6) (4) (9) (0) (0)

略

(6) 検討・考察

- ・1、2、3により「環境虎の巻」は十分機能していると考えられる。3で来年度も今年度と同じものをつくってほしいという意見も相当数見られたが、現在のよいところの評価もふくめ、来年度以降も改善が必要である。
- ・6により「会場内のごみ回収」「トレー洗浄」とともに大変だという意見が見られた。またトレーを使っていないのにトレー洗浄をするのはおかしいという意見があった。われわれはこのような意見を真摯にうけとめ、来年度以降の参考にする必要はある。

(7) 反省点・来年度への展望

回収枚数が19枚を昨年度の25枚よりもかなり減少してしまった。今年度の場合、第4回模擬企画担当者会議において、明確に提出場所・日時を示したにもかかわらずである。来年度はこのような配布・回収方法根底からみなおす必要があると思われる。

6、メニュー・売上げ及び容器・食材購入量調査報告

(1) 目的

模擬店のメニュー・売上げ及び容器・食材購入量を調査することにより、来年度模擬店を開く団体に対する資料とし、適切な食材購入量の把握に役立てる。

(2) 実施日時 (3) 実施場所 (4) 実施方法

これらは前述の「模擬店企画者アンケート(NF後)」に準ずる。

(5) 調査結果及び考察

これらのデータは直接本報告書に関連してこないなので、データ掲載を割愛する。

なお、これらのデータは来年度、資料として、模擬店側に適当な形で配布する予定である。

(6) 反省点・来年への展望

- ・回答量のむずかしさ(模擬店全体を把握しているものでないと回答できない。)などから、やはり回収枚数は少なく、回収枚数は21枚であった。このデータは、年度という概念が少なく、データを累積させていけばよいのであるが、やはりできるだけ多くの回収し、資料としての価値を高めることが、重要である。
- ・調査項目の価格の欄における、規格化を目指したのだが、今年度よい規格にめぐり合えることはなかった。データとして単価を求める声は大変大きく、よい規格を設定する必要があると思われる。(前述の「模擬店実態調査」においても同様である。)

d. 企画担当「レストスペース」について

文責 兼松正和

1、本企画の目的

洗い皿利用模擬店で商品を買ったはいいいけど、座って食べられる場所が無い。座れる場所に移動して食べ終わったはいいいけど、買った模擬店に洗い皿を返しに行くのはめんどくさい！ こう考える来場者は結構いるようです。そこで、洗い皿使用模擬店をより多くの来場者に利用してもらうためにも、座ってくつろぎながら商品を食べることのできる机、椅子を設置すればいいのでは？ という発想からこのレストスペースは生まれました。また、さらに、洗い皿使用模擬店で商品を購入された来場者に限らず、洗い皿を使用していない模擬店で商品を買った来場者にも何か訴えかけることは出来ないかと考えました。そこで、このレストスペースという場を11月祭環境対策委員会の活動を広く来場者に紹介する広報の場としても利用できるのではないかと思い、卓上メモを置くことになりました。

つまり、目的、意義は以下のとおりです。

洗い皿使用模擬店で商品を買った来場者が店の近くで食事をし、洗い皿を返却しやすくするため
洗い皿使用模擬店に限らず、お祭り広場で商品を購入した来場者にくつろぎながら商品を食べてもら
うため

2、本企画の内容

企画概要

(1) 展開日時

11月祭期間中、模擬店が開店している時間に展開した。

11月22日(木)～25日(日) 10:00～18:00

(ただし、最終日の25日に関しては、グランド中央で催されるキャンプファイヤーの邪魔とならないよう早めに撤去した。)

(2) 展開場所

洗い皿使用模擬店の前に展開することを基本方針とした。展開場所は以下のとおり。

(3) 作業の概略

< 物品借用及び輸送 >

作業時間 11月21日(NF前日) 13:00～15:00

作業内容 工学部8号館事務から長机12個、パイプ椅子48個を借用した。

< 初日設置作業 >

作業時間 11月22～25日(NF1日目) 9:00～11:00

作業内容 長机、パイプ椅子、卓メモ、台拭きで1セットとし、これを吉田グランド6箇所に設置した。設置場所は地図を参照。

< 2日目以降のレストスペース組立作業 >

作業時間 11月23～25日(NF2～4日目) 9:00～10:00

作業内容 前日に折りたたまれた椅子や机を組み立て、卓上メモ、台拭きなどを設置した。そして、ビニールシートを回収した。

< レストスペース撤去(折りたたみ)作業 >

作業時間 11月22～25日(NF1～4日目) 19:00～20:00

作業内容 卓上メモ、台拭きを回収した。そして、机を折りたたんでビニールシートをかぶせた。
長机、パイプ椅子撤去作業

作業時間 11月26日(片付け日) 8:00～10:30

作業内容 リヤカーで前日に折りたたまれた長机、パイプ椅子を回収し、工学部8号館まで返却した。机、椅子を拭く班の人は安全センターから雑巾、バケツを持ってきて、工学部8号館内で水を汲み、机と椅子を念入りに拭いて、工学部8号館事務に返却した。

3、気付いた点+反省点

予想以上の砂埃

こまめに拭くことが要求されるが、そのような余裕は殆ど無いに等しかった。また、大付記は比較的すぐに乾いてしまうという状況だった。机は工学部8号館事務からの借り物であるという点、そこで来場者が食事をとるといふ点を考えれば、やはり衛生面に問題があったであろう。もし、これからも設置するとすれば、どう管理していくかが問題となろう。

椅子の紛失

二日目に1つの椅子がそばの模擬店の店内に、3日目には3つの椅子がそばの模擬店の店内に、4日目には1つが行方不明になるという事態が起きた。今回、全ての椅子と机に説明を貼ったが、もしこれからも置くとすればより頑丈にかつシールを貼り付けておくべきであろう。

紙のガムテープ

一回位いいかと言って、紙製のガムテープで卓上メモを貼り付けてしまった。後でこびりついた粘着部分をはがすのが大変だった・・・反省。

ブルーシート

毎日、露に濡れてしまう事態となった。毎日洗うのは困難であるし、かといって洗わないと衛生面で問題がある。2日に1回くらいは洗うべきであろう。

レストスペースに設置したアンケート回収ボックス

回収されたアンケートの質はあまり良くないし、アンケートボックスに取り付けたアンケートがバラバラになっていて見栄えが少し悪かった。NF 2日目からは改善されたが、アンケートボックスを置くことは悪くはないが、それほどメリットがあるとも思えなかった。

大量のごみの投棄、放置

衛生面を考えれば対処しなければならない問題であるが、こまめにチェックしに行き管理するというような余裕はあまり無いし、不自然でもある。こればかりは来場者のマナーであるから難しい問題である。2日目から机に「後に座る人が気持ちよく座れるように心がけましょう」と呼びかける紙を貼り付けたが、あまり効果が見られなかった。

机の横の表示

今年初めて展開したものであるので、来場者が気軽に座ってもかまわないものであるということを示すために机の横に「ご自由にお座りください」と書いた表示を貼り付けていたが、邪魔ではないかとの考えから、二日目からは取り外した。(上図には表記していません)

4、当日のレストスペースの様子

こちらが予想していた以上に来場者が腰掛けていてくれたのには正直嬉しかった。特に、年配の来場者の方々にはゆっくりお祭り広場を楽しむことが出来たのではないかと思う。当初の目的の一つは、洗い皿使用模擬店で商品を購入した来場者が洗い皿を模擬店に返却しやすくするというものだった。当日、実際に洗い皿使用模擬店で商品を購入した来場者がレストスペースに腰を下ろしながら食事をしていた場面が見られたので、その目的はある程度達成できたと思われる。実際には、お祭り広場を歩き疲れた様子の来場者や、洗い皿使用模擬店以外の模擬店で買った商品を口にしている来場者、机を利用してノートに何かを書き込んでいる来場者、ピラを置いていく企画団体の人々など、様々な人々が様々な用途にレストスペースを利用していた。

5、これらのレストスペース

レストスペースは今年初めての企画であったわけだが、これまでに見られない光景をお祭り広場にもたらし、当初の目的がある程度達成されたので、ある意味成功であったと思われる。しかし、思いのほか机の搬出作業・返却作業が大変困難な作業であるということ、机の上の土埃など衛生面の様々な問題などの問題点も新たに噴出してきた。また、これから検討すべき根本的な問題として、これからもこのレストスペースを11月祭環境対策委員会の企画として続けていくのか、という問題があると思う。今回、来場者がお祭り広場をゆっくり楽しむのに役立っていたということは評価すべき点であるが、11月祭環境対策委員会はそれ自体を目標として活動してはいない。また、机や椅子の搬入搬出作業が困難である点を考えれば、うまく11月祭事務局と連携を取っていくことを考えていかなければならないであろう。

また、当初、レストスペースを用いて様々な広報活動を展開する予定であった。例えば、環境保全センターの高月紘教授が書かれたマンガ(環境問題などを風刺したもの)を板に貼り付けて衝立にしようとしたり、卓上メモなどを充実させる予定であったが、逆に来場者に敬遠されるのではないかと思い、卓上

メモを取り付けるだけにした。卓上メモに関しては、風邪で飛ばされたりする可能性を考えて、机に直接取り付けたが、来場者にとって見にくいものとなってしまった。レストスペースをこれからも展開するのであれば、広報手段の検討も必要となってくるだろう。

e . 企画担当「エコスペース」について

企画担当 兼松正和

1、本企画の目的

11月祭環境対策委員会では、環境負荷の少ない学園祭を目指し様々な活動を行っているが、それらの活動を実際に一般の学生、来場者に知ってもらうという機会が多いとはいえない。そこで、11月祭に参加した人たちに身近なかたちで同委員会の活動を知ってもらい、かつ、一般的な環境問題に対する関心を持ってもらう機会となればと思い、「エコスペース」なる場を設けた。これは昨年度の環境企画担当が行った「環境オリエンテーリング」を引き継いだものといえるが、色々な事情を考えて練り直したものと言えるだろう。

2、本企画の内容

企画概要

(1) イベント開催日時

11月祭3日目、4日目の昼頃(土、日であり来場者が最も多いと思われる日時)に狙いを定めて行った。

11月24日(土) 13:00 ~ 15:00

11月25日(日) 12:30 ~ 15:00

本来13:00 ~ の予定であったが準備が速やかに行われたため、30分早く始めた

(2) イベント開催場所

昨年度の「環境オリエンテーリング」は本部構内の時計台に自転車発電コーナー、生ごみ堆肥化実演コーナーをゲリラ的に展開したため11月祭事務局からクレームがついた。それゆえ今年度は少し早い段階で本部構内の工学部8号館前に場所を絞り、11月祭事務局に連絡した。

(3) 準備

11月24、25日ともに12:00から準備を開始した。24日は準備に1時間を要したが、25日は30分弱で完了した。

(4) 流れ

「エコスペース」を宣伝するビラとクイズコーナーの問題を表裏に載せた紙を「エコスペース」近辺で配布すると同時に、自転車発電コーナーで発電した電力を使ってマイクで宣伝することによって来場者にイベントの開催を呼びかけた。また、立て看板を設置することによって目立つようにした。

来場者がいずれかのイベントに参加する。

出来るだけ多くのイベントに参加してもらうために、スタッフが別のイベントにも参加していただきと来場者に呼びかけた。

3、各イベントの内容

イベントは全部で3つ用意した。昨年度の「環境オリエンテーリング」では全部で6つのチェックポイントが設置され、それぞれのチェックポイントが別々の場所に設置され、それをオリエンテーリングによって各々を関連付けるといった形であったが、今年度は全てのイベントを一箇所に集約することによって関連付けるといった形をとった。これは来場者の分散を防ぎ、より多くの来場者がより多くの企画に参加していただけるのではないかと、準備に要する時間が短縮されるのではないかと、との考えからである。

自転車発電コーナー

環境ネットワーク4Rの会による、自転車発電、およびその電気を使ったパフォーマンス(具体的には、

ラジカセ、テレビ、扇風機、スーパーファミコンを発生させた電力で動かす、マイクを電力で動かし宣伝する)。参加者は自転車をこぐことによって如何に電気を継続的に発生させることが困難であるかを実感することが出来る。自転車発電を体験した人にはイベント体験終了後に電力に関するピラを渡した。

生ごみ堆肥化コーナー

生ごみ堆肥化の流れを簡単に説明、実演した。具体的には、生ごみの入った袋、生ごみと米糠を混ぜた袋、霧吹きを用意して一連の作業を紹介した。一連の流れを来場者に見てもらった後に生ごみ堆肥化に関するピラを渡した。



クイズコーナー

11月祭におけるごみの問題、一般的な環境問題に関する事柄を来場者に知っていただくために設けた。クイズの問題は全部で7問用意した。全問正解者には景品(用意した景品は全部で絵葉書25枚、鉛筆2本で1セットを12セット)を渡すことにしていた。一日目は全問正解者が出ず、全くクイズの景品は来場者のものとはならなかった。二日目からは参加すれば参加賞として配布するというふうの方針を変更した。すると、後のほうで景品が足りなくなってきたので、微調整をした。クイズ回答者にはクイズの回答を渡し、よりいっそうそれらの問題に関する知識を深めてもらうように勤めた。

4、当日の「エコスペース」の様子

初日は事前準備が不備であったことや工学部8号館前が少し傾斜していて自転車発電コーナーの準備が遅れた上に本来予定していた会場のイベント設置位置を変更せざるを得なかったことなどにより、かなりドタバタしてしまい、来場者が気軽に参加できる雰囲気ではなかったと思う。また、当初予定していた自転車発電コーナーから他のイベントへという来場者の流れが殆どできず、1日目は生ごみ堆肥化コーナーが殆ど機能しなかった。また、スタッフがスタッフジャンパーを着用したままであったためか、なかなか来場者にとっては参加しにくかったであろうと思う。2日目は前日の教訓を活かしたためか、自転車発電コーナーで来場者の関心をひき、そのまま別のイベントにも参加してもらうという来場者の流れが比較的うまくでき、また、前日あまり機能しなかった生ごみ堆肥化コーナーもスタッフの頑張りもあってかなり好評であった。クイズコーナーではスタッフにも余裕が出てきたためか、クイズの回答を解説することまで出来るようになり、来場者にも好評であった。

5、反省点

上記のように初日はお世辞にもうまく言ったとはいえないが、2日目はかなりうまくいったと思う。しかし、それはあくまで当日のイベントとしてうまくいったということである。そこで、当日気付いた反省点、これからどういうことに留意して企画を行っていくべきかということ以下に記そうと思う。

準備段階での不備

物品管理が甘かったと思われる。これは担当者である僕自身の甘さからくるものであるから、来年以降も同じような企画を行うのであれば、それに携わる人は当日困らないように留意してもらいたい。特に当日不備があったのは、以下のとおり。

- ・問題兼ピラの枚数(予め200枚刷っておいたが、無くなった。)
- ・生ごみ堆肥化実演コーナーの生ごみ、霧吹き(すぐに用意できるだろうと思い込んでいたので、担当者を確認を取っただけだった。実施直前に不備が見つかり慌てたが、何とか間に合ったが・・・)
- ・クイズ問題の回答の不備(具体的には5,6番の回答が抜けていた。早く作っておけばよかったのだ

が、これも僕の甘さから来るものであろう)

マイクの不調

事前に端子を購入し、マイクが機能するかどうか確認しておいたのだが、なぜか会場でマイクを動かそうとすると妙な音がしてマイクが機能しなかった。幸い、準備終了予定時間ぎりぎり何とか沢口さんのおかげで機能するようになった。沢口さんいわく、スピーカーとマイクをつなぐ端子を差し込む部分の接触が悪かったそう。

工学部 8 号館前の道の微妙な傾斜

自転車発電は発電機と自転車のタイヤがしっかり接触しなければ機能しないが、道の微妙な傾斜によって自転車が少し安定しにくくなり、来場者にとっても自転車をこぎにくくなったと思われる。自転車の配置が変わったことによって、全体をうまく機能させるために全体の配置を変えざるを得ない状況になった。しかし、事前に詳細に検証していれば防げたことかもしれない。

看板の一時紛失と配置場所の変更

生ごみ堆肥化実演コーナー用の立て看板が一時紛失した。これによって準備時間を割かれてしまった。また、立て看板の設置場所を全体の配置を変えたことに伴って変更せざるを得なかった。

人員の配置に関して

事前に誰がどのコーナーを担当するかを割り振ったが、一箇所に集約していることもあり、かなり流動的であったし、そのほうが良かった面もあった。しかし、参加するスタッフの立場にたてば混乱を招いたのではないと思われる。

スタッフジャンパーの着用

スタッフがスタッフジャンパーを着用したままイベントを行っているのと来場者がイベントに参加しにくいのではないかと指摘があった。そのため、2 日目はスタッフジャンパーを着用せずにイベントを開催した。やはり、どちらかと言うとスタッフジャンパーを着用しないほうが来場者にとっては親しみやすかったのではないと思われる。

反省点を列挙してみると、全体の配置が変わったことによる影響が大きいと思われる。しかし、全体の配置はいろいろな要素が絡むことが多いので、事前に事態を予測して配置を決定することは困難であったと思う。でもそれは適宜状況を見て変更していけばいいことであり、今年度の企画は何とか対応できたのではないと思う。人を相手に行うイベントである以上、マニュアルどおりにうまくいかないことは当然といえば当然である。あまり、マニュアルを重視することはこの企画に関しては必ずしも当てはまらないと痛感した。

6、次年度に向けて

結果だけを見れば、昨年度のようなオリエンテーリング形式でなく、一箇所に集約しても多くの来場者に企画に参加してもらうことが出来たし、来場者にも喜んでいただく場面もあったので、実験的な意味で、また、イベントという意味ではある程度成功したといえるかもしれない。しかし、根本的に僕にかけていたものは、企画とはどうあるべきか、11 月祭環境対策委員会が企画を行うことはどういうことか、などということについて深く考えるということであったと思う。

昨年度の環境企画のイベントとしての成功(スタッフによって意見が分かれるが)によって、今年度もその必要性を疑うことなく同じような企画を行うことになった。そこに根本的な問題を孕んでいたのかもしれない。

書けば長くなるので、ここで筆を置くことにするが、なぜ企画をやるのか、企画は何を目指すのか、企画はどう位置付けるのか、などの問題を自分の中で整理しない以上は企画を行っても、つらい部分が少なからず出てくると思う。しかし、経験が無いとこのような問題には深く踏み込めない……。そこが一番難しい……。

D．ごみ減量部門

a．ごみ減量部門総括

ごみ減量部門部長 三輪さち子

1、部門紹介

ごみ減量部門では11月祭当日の実質的な環境対策を主に扱った。来場者や各企画者と協力してより環境負荷の少ない11月祭を創りあげ、またそういった活動に参加した人に環境への配慮を考えるきっかけとなるような活動を目指した。具体的には以下の3担当をおいて作業の分担を行った。

洗い皿担当

繰り返し洗って使える皿、洗い皿の模擬店への貸し出しを主に扱った。洗い皿の使用は11月祭のごみの多くを占めている使い捨て容器ごみの削減につながる。またそれを使うことで来場者が環境に配慮するきっかけとなることも、この企画の狙いである。今年度洗い皿の参加模擬店数は約13企画、実際に5970枚の使い捨て容器の節約となった。この企画に参加する模擬店が増え、ごみが減ることは望ましい。しかし模擬店の協力によって成り立つ企画であるので、ただコストの節約だけを狙って利用する模擬店ばかりが増えると、トラブル等を招きやすい。企画の趣旨をもっと広め、模擬店とのよい協力関係を築き上げていくべきだろう。

分別・リサイクル担当

11月祭において祭りに関わる人全員が環境対策に参加できるようなシステムを考案した。具体的には来場者はごみを分別して捨てることで環境対策に関わった。今年度の会場内の分別は7分別であったがその際の分別の種類などを、処理フローに基づいて考案した。特に今年度はごみ箱を専門に扱う担当者を置き、よりわかりやすいごみ箱の分別表示や配置などについて改良を行った。また模擬店などの各企画はごみ分別と会場のごみ回収、発泡トレ洗淨の作業を行った。近年このようなシステムを通して模擬店や来場者の意識も向上しているようである。分別して捨てること、資源をリサイクルすることが当たり前のことになれば、より効率的に環境対策がなされるようになるのではないだろうか。

生ごみ堆肥化担当

生ごみを堆肥にして再利用する取り組みに関する諸作業を扱う。11月祭で出される生ごみは全量堆肥化している。生ごみに米ぬかを混ぜ入れ、EM(発酵を助ける菌)を加え、1ヶ月ほどで堆肥となる。例年、京都大学有機農業研究会(以下有機農研)の方々に堆肥化からその利用までほとんどをしてもらっていたが、今年度から有機農研と協力しながら市内の中学校にも堆肥を利用してもらうことになった。11月祭の環境対策が大学内だけに終わらず、地域社会とのつながりをもつきっかけとなったという点で一つの進歩であるだろう。ただ他の企画に比べて生ごみ堆肥化はあまり来場者や模擬店に知られていないようである。生ごみが堆肥となってまた新たな命の栄養となること、そういった資源の循環が行われていることを今後はもっとPRする必要があるだろう。

各担当の詳細については各項を参照

2、反省と今後の展望

部長の役割について

洗い皿、分別・リサイクル、生ごみ堆肥化の各担当の進行状況を把握し、必要に応じて補助をすることが部長としての役割であったと思う。しかし実際にやってみると各担当者の経験値はそれぞれ異なるし、私自身も担当の内容ごとに理解度が違ったため、結局はその担当ごとに異なった関わり方をしていた。たとえば担当者にはほとんどを任せて部長としてあまり細部まで把握できなかった担当もあれば、担当内で責任あることを部長がやりすぎてしまった担当もある。1年を通して私なりの感想としては、やはり部長と担当が話し合っ、会議において全体で討議するための素案を作成したり、もしくは担当内で判断する詳細な部分を決めたりすることが理想的な部長と担当との形ではないだろう

か。したがって当然、部長と担当との意思疎通は重要である。

作業分担について

各担当に1回生を割り振ったが、上回生が何をしたのかということをもっと意識するべきであったと思う。なぜこれをしているのか、なぜこの方法なのかという問題意識なしに環境対策を行なっている、今後発展していかないし、トラブルに対処できないだろう。よって上回生だけで決定してしまうのではなく、1回生にわかるように説明した上で1回生の意見を取り入れる形が望ましいと思う。

部門の意義について

この部門は冒頭に述べたように当日の実質的な環境対策を扱った。しかし当日の作業という共通点はあったものの、部門としてなかなかそれを活かせなかったように思う。

具体的な方法として、一つには部門ミーティングを活用して、もっと担当の作業内容を共有することである。それによって、担当間の意見交換ができ、より幅広い検討ができる。また、当日に模擬店などの各企画が行なう複数の作業について、企画担当者会議などで説明する際に、よりわかりやすく、効率的にできるのではないだろうか。もう一つの方法は、当日の責任者を部門内で交代で行なうことである。今年度の反省として、当日作業について担当者しか内容を把握していないために、一人の担当者に負担が偏ったことが挙げられると思う。当日の各作業の責任者を明確に決めておき、その責任者になる人は、部門ミーティングなどで担当者と話合って作業内容を把握する。また、当日の変更点などについては、当日の朝や前日の反省会などで引継ぎをすることも必要だろう。

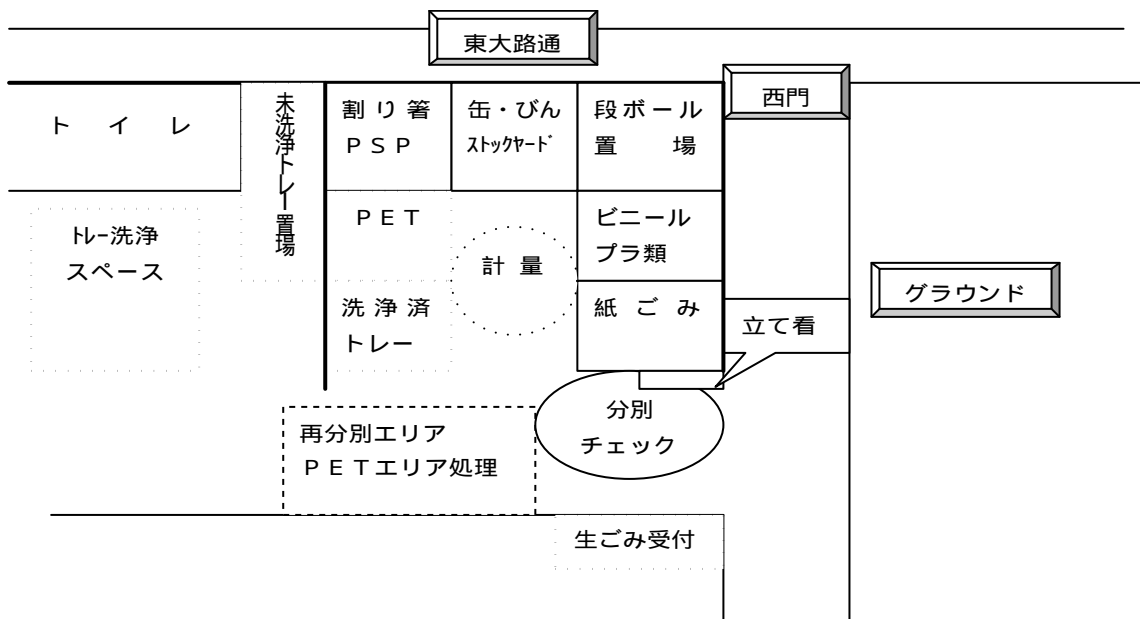
11月祭の環境対策においては、すべての担当が関わりあっている、担当ごとの縦割りだけでなく、横のつながりをもっと強めていくことが必要だろう。来年度以降の部門編成はわからないが、部門という枠はそういった横のつながりを形成するものとして存在意義はあるのではないだろうか、というのが私の個人的な意見である。

b . 集積場全般報告

文責 三輪さち子

1、目的

11月祭全般のごみが運ばれてくる集積場において、各企画参加者と協力して、ごみの削減、適正処理等の活動が円滑に行うことができるようにする。また、それらの活動を通して、11月祭の各企画者のごみ問題への意識向上を目指す。



2、作業時間

- ・前夜祭 18:00 ~ 20:30 (終了)
- ・本祭
- 昼の部 13:00 ~ 16:00
- (1日目 ~ 3日目) 夜の部 16:00 ~ 20:30 (終了)
- (最終日) 夜の部 16:00 ~ 22:30 (終了)

3、作業内容

朝の部 (9:00 ~ 13:00)

朝の部の作業についてはここでは詳しく記述しない。以下のページを参照。

- ・ 組成調査 (p 25)
- ・ 模擬店トレイ洗浄 (p 62)

昼の部 (13:00 ~ 16:00)

- ・ 3セット分の再分別表示を吉田食堂の壁に張り付け、下にごみ袋を取り付ける。
- ・ 廃油の缶を準備する。
- ・ 模擬店がごみを持ってきたら、分別チェックをする。
- ・ 必要に応じて再分別をしてもらう。
- ・ 時間のある時に計量をする。
- ・ 16:00 までには夜の部の準備をしておく。(投光機、トレイ洗浄など)

夜の部 (16:00 ~ 終了時)

(1)分別チェック 2人(混雑時には3人)

- ・ 模擬店が持ってきたごみ袋をチェックして合格・不合格を判定する。

判断基準

缶・ビン、割り箸、PETボトル、発泡トレイはリサイクルするので、100%の分別で合格とする。
洗い皿、ガスボンベの混入には特に注意する。

ビニール・プラスチック類については焼却する際に温度を下げるもの(生ごみなど)以外の混入については特に厳しくしない。

- ・ 合格のものはストックヤードへ誘導する。
- ・ 不合格のものは再分別エリアへ誘導する。
- ・ 会場のごみ箱の発泡トレイは未洗浄トレイ置き場へ誘導する。
- ・ 模擬店の中で出た発泡トレイは洗浄エリアへ誘導する。
ごみ袋を受け取らないで、相手がごみ袋を持った状態でチェックを行う。

(2)ストックヤードの整理 1人

- ・ ごみ袋を持ってきた人に、各ストックヤードの位置を指示する。
- ・ トロ箱(発泡スチロール製の大きな箱)はつぶして、袋に入れてもらうように説明する。
- ・ 時間の空いているときに、段ボールを紐で束ねておく。
- ・ すでに計量が終わったものをストックヤードに入れる。

(3)再分別エリアの整理 3人(混雑時には5人程度必要)

- ・ 再分別の仕方を説明する。
- ・ 必要なときは軍手・火バサミなどを貸し出す。
- ・ 再分別が完了したかをチェックして完了すればストックヤードへ誘導する。
- ・ PETボトルはキャップ・ラベルを剥がして、つぶしてから袋に入れるように説明する。汚れている

場合はバケツの水で洗浄してもらおう。中にタバコなどが入っているような特に状態の悪いものはビニール・プラスチックごみとして分別する。

・PET ボトルの処理は場所をとるので、再分別エリアの端(一番南の方)に PET ボトル専用の処理エリアを設ける。

・再分別用の袋が一杯になったらストックヤードにもっていき、新しい袋を付け替える。

(4)店内発泡トレー洗浄 1人

・模擬店が運んできた発泡トレーのうち、それが店内から出された発泡トレーであれば、すぐに洗浄してもらおう。

・模擬店に発泡トレーの洗浄を説明する。

・バケツ、水、手袋、スポンジ、ざるなど、洗浄の準備をしておく。また、不純物を入れて置けるように、紙ごみ、ビニール・プラスチック類のごみ袋をトイレの壁に貼り付ける。

・油污れのひどいものなどは洗わず、ビニール・プラスチック類に入れる。

・洗い終わったトレーは、模擬店にビニールシートの上に並べて置いてもらい、水をきる。

・バケツの水が汚れたら、ざるを通して水を流し入れ替える。



(5)生ごみ受付 1人 + 京都大学有機農業研究会 (以下有機農研)

・模擬店が運んできた生ごみに、紙やビニールなどの不純物が混ざっていないかをチェックし、混ざっている場合は分別してもらおう。タバコの吸殻やつまようじなどの小さなものでも分解できないものは細かく分別する。

・ざるを使って水を切り、袋に入れていく。

・生ごみに米ぬかを混ぜ入れる。(堆肥化模擬店の分は米ぬかがすでに混ぜられているので入れる必要はないはずだが、足りないようであれば入れる。)

・EM (発酵を助ける菌)を入れて混ぜる。

(6)計量 2人

・各分別ごとに秤を使って計量し、記録用紙に記入していく。

・PET ボトルは緑と透明を分けてカウントする。

(7)交通整理 1人

・ごみを持ってきた人が分別チェックに並べるように、ロープなどで準備する。必要に応じて、事務局員と自転車の撤去などの整理を行う。

・混雑してきたら、人を2列に並べる。車やバイクの出入りに注意し、集積場全体の人々に呼びかける。

・段ボールや生ごみ、廃油など、分別チェックを通らなくてもよいものは、直接ストックヤードに持っていくように呼びかける。

4、シフト 以下の人数は今年度のシフト数

前夜祭

18:00 ~ 19:00 4人 (集積場の設営、自転車の撤去、整理)

19:00 ~ 20:00 9人 (自転車の整理)・・・シフト過剰ごみ。4 ~ 5人でよい

20:00 ~ 22:30 (終了) 12人 (模擬店対応)・・・20:30 ~ 21:30 が特に忙しい。

22日(1日目) ~ 24日(3日目)

13:00 ~ 16:00 2 ~ 3人 ……15:30 ごろまでは1 ~ 2人でよい。

16:00 ~ 20:30	13人 ~ 15人・・・模擬店の営業終了後1時間が特に忙しい。
	営業終了後に会場に残されたごみを事務 局が回収し集積場に運び込むのが19:30 ~ 20:30 ぐらい。
25日(最終日)	
13:00 ~ 16:00	3 ~ 4人・・・15:30 ごろまでは1 ~ 2人でよい。
16:00 ~ 22:30	12 ~ 15人

5、当日に改良した点

- ・米ぬかが足りなくなったので、最終日の昼に米屋に回収に行った。集積場の作業で20袋(4日間)必要であった。(11月祭全体に必要な米ぬかの数は集積場の20袋 + 生ごみ堆肥化参加模擬店の数 × 1袋)
- ・PETボトルの処理は場所をとるので、PETボトルの処理は再分別エリアの一部を専用の場所として決めた。また、それでも一杯になっている時は集積場の中で処理作業を行ってもらった。スタッフの中でカッター専属の人を決め、カッターの管理をするようにした。
- ・トレー洗浄エリアで不純物の再分別ができるように、紙ごみ、ビニール・プラスチック類のごみ袋を用意した。
- ・トロ箱はつぶして袋に詰めてほしいとケルンから言われたため、トロ箱を持ってきた人には集積場内でつぶして袋に入れてもらった。
- ・会場に設置している生ごみバケツの汚れがひどく、洗うのが大変だったので、ビニール袋を取り付けた。袋の端を切れば水を切ることもできバケツの洗浄負担も減った。
- ・廃油は分別チェックに並ばなくてもいいように、廃油を入れる缶を分別チェックの列の最初の方に置いた。
- ・分別チェックを通った後にごみ袋をもったままうろうろしている模擬店があったので、分別チェックで行き先をちゃんと説明するようにした。

6、反省

ここでは、集積場全体の反省と、各担当についての評価および反省について記したので、今後担当を置く際の参考にしてもらいたい。

<分別チェック>

- ・分別チェックの際の合格基準について、個人差が出ることが事前から予想されていたため、いくつか統一した基準を定めた。しかしやはり誰もが納得できる客観的な判断は難しかったように思う。PETボトルや缶・びん、割り箸のごみの中の不純物を取り除くことはわかりやすいし、意義も理解されやすいが、紙ごみ、ビニール・プラスチック類に関してはどこまでを合格とするのかは難しい。なぜ分けなければいけないかということ、まずはスタッフがきちんと理解し、個人的な感情ではなく、意義に基づいて判断をすることが望ましい。

<ストックヤード整理>

- ・混雑時には、計量し終わったごみと、模擬店が持ち込んだごみとが混乱しないように整理する役割は重要である。またストックヤードにごみを押し込みながら入れたり、段ボールの整理をしたり、計量の手伝いをしたりと、さまざまな作業を臨機応変にこなしていく役目を果たしていた。

- ・PETボトルコンテナがあふれた。来年度からはつぶしてから入れることを徹底する方がよい。

<再分別エリアの整理>

- ・この担当は行なう作業が多いため、臨機応変に、



ある程度の役割決めをするのがよいだろう。よって、当日スタッフをリードするようなコアスタッフが一緒に作業を行なうのが望ましい。

< 店内発泡トレー洗浄 >

- ・ おおむね作業内容通りであった。模擬店に作業意義の説明を求められることもあった。

< 生ごみ受付 >

- ・ 有機農研の人と協力して行なう作業であるが、模擬店の対応や、集積場総指揮への伝達など、環対スタッフとしての果たす役割も重要である。
- ・ 生ごみの受付場所がせまく、またごみを持ってきた人にわかりにくかった。来年度以降はトイレの前辺りなども検討した方がよいだろう。
- ・ 生ごみは米ぬかを混ぜてから計量しようとしたが、重すぎて測れなかったため、袋数を数えた。

< 計量 >

- ・ おおむね作業内容どおりであった。比較的単純作業なので、当日スタッフ中心で行なった。

< 交通整理 >

- ・ 集積場に人が混雑し、車や自転車などの通行がしにくくなることもあったので、常にそれらの通行に注意し、呼びかける役割は重要である。

< 全体 >

- ・ 前夜祭の集積場の準備の際、吉田食堂西側の壁付近と集積場トイレ前に大量の自転車やバイクが置かれていたため、応援団とともに撤去したが作業は非常に手間取った。事前に応援団とその点について話し合うか、もしくは当日の早い段階からロープなどで駐輪できないようにこちらで対策をするべきだった。
- ・ 応援団による前夜祭の後片付けが当日中に終わらず、本祭 1 日目まで続いたため、1 日目朝に臨時集積場シフトを組んだ。応援団の片付けがいつまでに終わるのかということについて事前の話し合いが必要だった。
- ・ 有機農研とシフトの時間や人数についての連絡が不十分だった。生ごみが多く持ち込まれてくる時間、事務局のごみ回収の時間などについて詳しく連絡をする必要があった。

7、後片付け日について

(1) 作業内容

後かたづけ日では大量のごみが出されるため、吉田グラウンドと集積場の両方で以下のようにごみを集める。

集積場 …… 缶・びん、PET ボトル、割り箸、生ごみ、廃食油
吉田グラウンド …… 紙ごみ、ビニール・プラスチック類、段ボール

< 集積場 >

- ・ 基本的には本祭と同様に分別チェックをし、必要ならば再分別をしてもらう。
- ・ 店内トレーの洗浄は行なわない。トレーはビニール・プラスチック類とする

< 吉田グラウンド >

- ・ グラウンド南側にロープで 3 区分に仕切りを入れ紙ごみ、ビニール・プラスチック類、段ボールの 3 種類を集める。
- ・ 分別チェックを行ない、必要ならば再分別をしてもらう。

(2) 作業人員と作業時間

< 集積場 >

9:00 ~ 13:00(終了) 3人 …… 12:00 以降は 1 人でも対応できる程度だった。

< 吉田グラウンド >

9:00 ~ 13:00(終了) 3人 …… 12:00 以降は 1 人でも対応できる程度だった。

8、今後の展望

11 月祭中の集積場にはいろいろなものが凝縮されたある種の雰囲気がある。ストックヤードに入りき

らないほどの大量のごみの山、奮闘する各企画者、忙しく動き回る環対スタッフ、遠くのステージから流れるバンド演奏、投光機の光、それらの雰囲気の中にと、ここにもまた祭りがあることを実感する。ここもまた祭りの一部なのだ。はしゃいで終わるだけではない。楽しんで、きちんとごみを分けて、祭りが終わる。そう自然に誰もが思えるようになればいいと思う。また、環境対策は多くの人に参加し協力しなければ達成できない。多くの人々が環境対策を祭りの一部だと自然に考え、それに参加できるようになるために最も重要なことは、私たちの活動理念を一人でも多くの人に理解してもらうことだと思ふ。私たちの活動や各企画者が集積場でごみを分けていることを今後も伝えていきたい。

c. 洗い皿報告

洗い皿担当 花ヶ崎裕洋

1、目的

- ・洗って何度も使える皿を模擬店に貸し出すことにより、使い捨て容器の使用を減らしごみの減量を図る
- ・実際に目で見て洗い皿を利用してもらうことにより、来場者や模擬店担当者にごみの減量・環境負荷の軽減という意識をもってもらう

2、企画説明

- ・環境対策委員会から洗い皿参加模擬店に皿を貸し出す。
- ・洗い皿使用模擬店で食べ物を買った客は、食べ終わった皿をその店に返却する。
- ・生協の洗浄機を使って皿を洗浄しているので、模擬店担当者は使用した皿が増えてきたら吉田食堂に運び、きれいな皿と交換する。
- ・皿の洗浄は洗い皿模擬店でシフトを組み本祭中四日間行う。
シフトは各模擬店一回、二名で2時間半、同時に2～3模擬店に入ってもらった。

3、時系列

7月下旬	皿の枚数・種類の確認
9月10～14日	企画申請(洗い皿参加希望受付)開始 皿のサンプル展示
9月下旬	洗い皿参加模擬店抽選 一次募集での洗い皿使用模擬店決定
10月5日	第一回模擬店企画担当者会議 洗い皿企画説明 希望皿調査票配布
10月19日	第二回模擬店企画担当者会議 希望皿調査票回収 二次募集説明
10月26日	第三回模擬店企画担当者会議 二次募集説明 一次募集皿調整
11月6日	第四回模擬店企画担当者会議 二次募集説明 一次募集皿決定
11月8日	二次募集締め切り
11月16日	第五回模擬店企画担当者会議 企画最終説明 シフト発表

当日の流れは当日マニュアル(別冊)を参照

4、報告

2模擬店が事前にキャンセルし、一つはキャンセル費を払いもう一つは洗浄のみ。本祭中にも2模擬店がキャンセルし、同じく一つがキャンセル費を払いもう一つが洗浄のみ参加した。4模擬店が店内でのみ皿を使用し洗浄シフトには参加。実際にはあまり使用していない模擬店が2つあり、二次募集で3模擬店参加。

最終的に皿を使用したのは13模擬店。皿の使用はのべ5970枚。紛失・破損は13枚であった。



5、反省点

広報について

洗い皿希望模擬店を多くするためにコスト面を強調して説明ビラを書いたが、参加模擬店から模擬店の仕事などについての説明が少ないとの文句が出た。洗浄シフトや紛失費の未知さを考えるとあまり模擬店にコスト面で役に立っているとは言えないので、参加希望模擬店数は減るだろうが、もっと環境面や啓発面での宣伝をして模擬店に参加を呼びかけるほうがいいかもしれない。洗い皿参加模擬店担当者の環境意識も低く、コスト面のことしか考えていない人達が多いように感じられた。

キャンセルについて

毎年キャンセルの問題は公平さの問題にもなっている。事務局から「吉田地区の場所を取りたいがために、洗い皿を使う気がないのに、洗い皿を希望してキャンセルすることは模擬店間の公平さを失うのであってはならない」とのことだ。また洗い皿を希望したのに選ばれなかった模擬店が使えなくなる責任を考えるとキャンセル禁止は当然だと思う。今年はキャンセル出来ないことを強調して広報活動をしたがやはりキャンセル団体がいくつか出てしまった。メニューが変わった、容器を間違えて買ってしまったなどがその理由だ。キャンセル費のため店内のみで皿を使い、洗浄シフトには参加してくれた模擬店が多かったが、皿の使用枚数が減ることに変わりはなく、洗い皿企画の趣旨に反する。また希望の皿を選択できなかった模擬店にも迷惑がかかるのでキャンセルが無くなるよう出来る限りの努力が必要だろう。絶対に使用する模擬店が優先的に皿を選べるシステムにしてもいいかもしれない。

本祭中の吉田食堂について

トイレの使用を禁止していたが張り紙を無視して使用する人が跡を絶たなかった。何らかの対応が必要だと思う。洗い皿の受付場所が吉田食堂の入り口に近かったためいろいろな質問を受けることが多かった。使用できるトイレや水道の場所、あと生協の利用できる食堂はどこかなどの質問が多かったので洗い皿の受付に地図などを準備しておくといいと思う。

洗浄シフトについて

洗浄シフトが長いとの意見が多い。忙しいとき暇なときの差が激しいが、いつ忙しくなるかわからないので現状の人数は入ってもらったほうがいいと思う。洗い皿参加模擬店の数を増やせば一つの模擬店あたりのシフト時間を減らすことが出来るが、これは広報のところに書いた意見に反することになる。皿の枚数なども考慮して洗い皿参加団体の数をもう一度考えて直してもいいだろう。

6、次年度への展望

共同回収について

毎年、共同回収してほしいとの意見が模擬店や来場者から多数出ており、今年も11月祭環境対策委員会でそのことについて話し合ったが結局実施されないこととなった。確かに客にとっては便利かもしれないが反対意見も多い。まず同じ皿を複数の模擬店で使用している場合の紛失補償費をどうするかということ。これはお金が絡む問題なので一度は納得していても後に問題となる可能性が高い。次に共同回収場所をどこに設置するかという問題。大通りで11月祭が行われているなら簡単だが、洗い皿は吉田地区内の模擬店で使用されており、ほぼ正方形なので一つ二つ設置してもあまり効果がないのではないと思われる。また数を増やしても吉田の洗浄場に持ってくるのが大変になり皿の循環がうまくいなくなる可能性がある。啓発面からもごみのように簡単に共同回収場所に返されても、あまり環境に対する意識の啓発にはならないのではないかとということだ。このように反対意見は多いが事実共同回収を望む声は多数出ているので、これらの問題を解決し実施する価値はあると思う。来年度また話し合う必要があるだろう。

反省点にも書いたが、本当に模擬店の環境意識は低い。コスト面ではなく環境面、啓発面で洗い皿参加模擬店を募ってみて、希望する模擬店が少ないようであるならこの企画を止めるのも一つの選択であると

思う。

7、洗い皿模擬店アンケートに関する考察

文責 南昌宏

回収できたのは約14店舗中たった4店と洗い皿模擬店アンケートについては回収率が著しく低かった。来年はこの点を改善すべく何らかの策を講じなければならない。

(1) 実施要領

「環境虎の巻」の巻末にアンケート用紙をつけ、事務局において保証金返還時にアンケート用紙を提出してもらった。

(2) 洗い皿アンケート

「洗い皿を希望した理由」について（複数回答）

コスト面から・・・4店

見栄えが良い・・・2店

ごみを減らすことが出来るから・・・2店

以上のことから、洗い皿としてはやはり低コストということが受けたようである。

「募集の仕方について感じたこと」について

皿の種類が少ない・・・1店

場所を決めるのが執行部による抽選であることはおかしい・・・1店

説明不足である・・・2店

皿の種類が少ないことは致し方ないことかもしれない。「場所を決めるのは執行部～」との指摘は事務局との話し合いが必要だと思われる。大きな問題は説明不足との指摘が出たことである。またサンプル数が少ないことから潜在的にはより多くの模擬店が「説明不足である。」と感じているように思える。来年は募集回数を減らすなどしてより多くの時間をかけた説明が必要であろう。特に今年はキャンセル店が多く出たこともこれに起因しているところが少なくないと思われる。

「洗い皿を使用して感じたメリット、デメリット。」について

1) お客様の反応

洗い皿を返すのが不便・・・2店

特に不便ではない・・・2店

2) 皿の管理、洗浄、運搬について

特に問題なかったようである。「遠いと運搬が大変であるが仕方ない」と答えているところがあったが、遠い近いはある程度やむをえないところであろう。

3) 洗浄シフトについて

特に負担にならないと答えた模擬店・・・2店

仕方ないと答えた模擬店・・・1店

一日あたりの作業時間を減らしたほうがい

い・・・1店



やはり2時間半という作業時間は意外と長く感じるようだ。来年はこの点を再考すべきであろう。

洗い皿についてのご意見、アドバイス等

企画自体は素晴らしいが、もう少し改善すべきである・・・1店

洗い皿を利用している店のアピールをもっと行って欲しい・・・1店

企画担当者会議の招集手際が悪い・・・1店

二番目の指摘について今年のような宣伝状況であっても、事務局から「やりすぎ」との指摘を受けている。このようなバランスをとることが非常に重要になってくる。

また、三番目の指摘については特に注目すべきであろう。今回の招集方法は模擬店会議後、どこに集まるかをその場で決めマイクで招集をかけるというものであったが、来年はどこに集まるのかをはじめに決めておき、会議終了後もその場所が空かないようなら、どいてくれるように頼むなどあらかじめ準備するべきではないだろうか。確かに今年はそういった細かいところで粗が目立ったように思える。

d . ごみ分別・リサイクル

ごみ分別・リサイクル担当 増田・古賀・早川(智)・田辺

1、はじめに

文責 増田大美

11月祭では、大量の「ごみ」が出される。広報や洗い皿活動などでその発生を抑える一方、出された「ごみ」に対してはどう対処するのだろうか。この担当は、11月祭会場・模擬店・企画で出されたごみをリサイクル業者・ごみ処理業者に渡すまでを扱った。担当の目的は、

・「ごみ」を再資源化にまわしたり、適切に処理したりできるように、分別・リサイクルのシステムを確立する。

・11月祭に参加する多くの人にごみ分別に関わってもらうことで、日常生活でもごみに対する意識を大事にしてもらえるような協力体制作りをすすめる。

である。具体的にはまず再資源化・回収に関して各業者と交渉し、処理ルートを確認にした。同時に、それに沿って分別しやすいようにごみ箱作成・設置案、更に出されたごみの回収・リサイクル処理ルートと諸作業案(ごみ回収およびトレー洗浄)をたてた。

本報告書ではまず今年度の「ごみの分別」「ごみ回収システム(本祭、前夜祭、片付け日)」の企画から結果までを述べ、その後特に本祭中模擬店と関わりのあった「ごみ箱とPOP」「リサイクル処理」について報告する。

2、ごみの分別

文責 増田大美

今年度各企画でのごみ分別は、以下の9分別とした。

「紙ごみ」「ビニール・プラスチック類」「缶・びん」「発泡トレー」「割り箸」「PETボトル」「生ごみ」「廃食油」「段ボール」

ただし会場に設置されたごみ箱は廃食油と段ボールを除いた7分別、校舎内ごみ箱は更に生ごみを除いて6分別とした。

上記分別は、各ごみ処理業者と連絡をとりつつ詳細を決めた。以下に時系列を示す。

7月中旬 上記9分別を仮決定、11月祭事務局(以下事務局)に提案(7.26)
王子製紙、レポインターナショナル(以下レポ)に引き取り確認。
ごみ収集・中間処理業者ホーム・ケルン(株)(以下ケルン)を見学

9月初旬 今年度の分別・学生部の業者選定要望を事務局と学生部へ文書提出
生協時計台地下購買部に発泡トレー業者要望の書類提出・「緑太郎」推薦
トレー業者はトカイ・トータルパッケージ(以下トカイ)に決定。

各業者と、回収・特別な指定がないか・再分別基準の確認を始める
(段ボール 有愛商店、割り箸 王子製紙、廃食油 レボ。段ボールは学生部選定業者に
願うする。)

- 9月下旬 学生部選定業者、ケルンに決定(9.29)
- 10月中旬 学生部・ケルンと話し合い(10.12)
レボに再度確認(タンクを借りる・回収状態について)
- 10月下旬 トカイと回収状態・別メーカーの有無・回収日時を確認。王子製紙に確認。
- 11月祭前週 レボに連絡、タンク10個を借りる。
- 11月祭翌週 レボ、廃食油6タンク引き取り。トカイ、洗浄済み発泡トレー26袋回収。割り箸整理、
王子製紙春日井工場へ送付。

次に、各分別の回収について詳細を示す。

発泡トレー

生協の発泡スチロール容器の卸業者は「引き取り業者が11月祭で排出された容器を無償で引き取り、
環境負荷のより少ないリサイクルルートにのせることができる業者」であるよう、今年度も願うの文書
を提出した。今年の11月祭においても生協の発泡トレーの総売上げは26200枚となっており、多く
のトレーが生協を通して購入されているとわかる。今年は前年に比べ生協のトレー卸業者の決定が早め
だったが、卸業者がトカイと決定してから連絡をとり、回収状態は「一般にスーパーで回収しているくら
いまで洗う」又「かさを減らす」こと、別メーカーのものでも「発泡」であれば回収すること、回収日時
などについても確認した。また、柄のあるトレーについても回収して頂くことができた。回収したトレー
は、新しいトレーの原料となる。

割り箸

今年も王子製紙春日井工場に引き取りを願うした。条件は送料は送る側の負担となること、不純物の混入を避
けることだった。大量の割り箸は、片づけ日に安全センター
裏旧テント倉庫へと運ばれ、翌週休日に当委員会スタッフ
によって段ボール箱にきっちり詰め込まれ、翌々週、日本
通運のアローボックスにて運ばれた。これらの割り箸は再
生紙の原料となる。



廃食油

今年も、レボインターナショナルに引き取りを願うした。以下、時系列を示す。

- 7月下旬 天かす・水などの不純物の混入はやめてほしいと連絡を受ける
- 9月下旬 ポリタンク10個を借りることを決める
- 11月祭4日前 タンク受け取り
- 11月祭期間中 留学生センター前および集積場で回収
- 11月祭終了2日後 タンクの回収

回収は、まず一斗缶の上にざるを置き濾し入れてもらう。そして油が冷めてから、環境対策委員会
スタッフがポンプでポリタンクに流し入れた。全廃食油の回収に使ったタンクは7個だった。廃食油はリサ
イクルされ、バスの燃料などに使われる。

紙ごみ、ビニール・プラスチック類、缶・びん、PETボトル、段ボール

学生部に業者選定を願うした結果、ケルンに決定した。事前に、総合人間学部のごみ処理を請け負
っているケルンを見学させていただいた。各分別の処理フローは以下の通り。

PETボトル(透明・緑)と缶・びん(透明・茶)

手選別されている。PETボトルのキャップ・ラベルは一緒に粉碎、その後水に浮かせて分離し、中国
の工場へと送っている。

紙・不燃ごみ

紙(一般廃棄物)は焼却、軟質プラスチックはサーマルリサイクル。

見学後、これらの処理工程と 11 月祭での分別を適合できるように考えた。分別種類を決める際の論点は、

・PET ボトルのキャップ・ラベルをはがす必要があるか

処理の際の影響および分別意識向上効果を考え、11 月祭では剥がすこととした。またボトルの色(透明・緑)による選別は、環境対策委員会スタッフが数をカウントする際に行った。

・紙ごみとビニール・プラスチック類を分けるのか

上記の工程と、紙ごみは一般廃棄物扱いであることから分別する。

回収の詳細は、学生部・ケルン・事務局とともに話し合った。10 月中旬に各ごみの回収頻度、PET ボトル用コンテナ、集積場扉の鍵、各ごみの最終処分方法の資料請求、分別基準、集積場内の配置を確認した。また回収状態の条件は、紙ごみへの不燃物混入とビニール・プラスチック類への生ごみの混入を避けること、PET ボトルは緑色のものは別袋にすること、段ボールは油・汚れ・コーティングのあるものを避けることなどだった。それをもとに集積場での再分別基準を決定した。10 月下旬、ケルンより最終処理フローをいただいた。

段ボールについては、現在総合人間学部での段ボール処理を請け負っていて、昨年度の 11 月祭でも無料で引き取っていただいた関西故紙回収共同組合の有愛商店に今年も連絡をとった。総合人間学部施設・管理掛の紹介で聞いてみたところ、有料に変わったということだった。

当日の回収時刻は、

紙ごみ、ビニール・プラスチック類

本祭中毎朝、片づけ日は朝・午後の 2 回

缶・びん

3 日目と片づけ日の朝の回収

PET ボトルコンテナ

前夜祭の午後に設置、片づけ日の回収

当日は、最終日すでにあふれていたの、来年の PET ボトル排出状況によっては更にもう一つ必要であろうか。

段ボール

本祭 1 日目と片づけ日の回収とした。

その他

乾電池を集積場にて回収する、卵パックを回収という案が 7 月中旬にはあったが、うやむやになってしまった。卵パックは生協で回収してくれるような卸売業者選定をお願いすることもできるかもしれない。また、紙パックの回収もスーパーや中央食堂に聞いてみると可能かもしれない。

全体の反省点としては、

- ・発泡トレーの回収の際、柄つきのものが回収可能かどうかがあやふやであったこと
- ・乾電池、卵パック、紙パックなどの回収を試みなかったこと
- ・廃食油の具体的な回収方法を決めるのが遅れたこと

である。いずれも準備期間を早める等、改善することができると思う。また、ごみ処理施設の見学は分別を考える際に重要だと思う。来年度も行っていきたい。

3、ごみ回収システム

文責 増田大美

今年度のごみ回収・リサイクル処理システム～会場内～

(1) システムの背景

11月祭で排出されるごみは、その多くが模擬店由来のものである。また、11月祭は多くの参加者がごみ分別に関わる機会でもある。それをふまえて昨年度から、模擬店側に会場内のごみ回収およびリサイクル処理（発泡トレー洗浄）をしてもらうシステムが導入された。昨年度は4模擬店が共同で一つのごみ箱エリアを担当し、2模擬店がリサイクル処理作業に当たるといった6模擬店制をとった。しかし、ごみ箱担当とリサイクル処理の割り当ては不公平であるという意見も出された。今年度は、基本的に全ての模擬店がごみ箱担当とトレー洗浄の両作業にあたることを決めた。



(2) 概要

ごみ箱の担当

本祭中4日間、一つのごみ箱ステーションに置かれている6分別のごみ箱を、以下のようにな6模擬店（A～F）で担当する。担当は、分別の種類による作業負担を考慮して決めた。

	A	B	C	D	E	F
22日	プラ	缶びん	トレー	割り箸	紙ごみ	PET
23日	プラ	缶びん	トレー	割り箸	紙ごみ	PET
24日	缶びん	プラ	割り箸	トレー	PET	紙ごみ
25日	缶びん	プラ	割り箸	トレー	PET	紙ごみ

各模擬店の作業は、担当ごみ箱を一定の時間に点検及び回収すること・夜間にテント内などで保管することである。

リサイクル処理（トレー洗浄）

本祭2日目から片づけ日までの4日間実施。各模擬店はそのうち2日間の午前中約20分間、トレー洗浄作業に当る（ただし、洗い皿参加模擬店はトレー洗浄の代わりに洗い皿洗浄作業を行う）。

生ごみバケツについては、朝・夜に当委員会スタッフが設置と回収を行った。

また、各模擬店は作業用のごみ袋が必要になる。ごみ袋の購入については、会場内作業の一つでもあるため模擬店負担を避け事務局より配布という提案を行ったが、模擬店側の購入と決まった。そこで、最低限必要なごみ袋の数（40枚と計算）については9月下旬に事務局に確認の書類を提出した。模擬店側に当委員会から説明を行ったが、当日には買う事を知らなくてごみ袋が足りない模擬店や、ごみ袋が余って多すぎると言っていた模擬店もあった。

(3) 関係者への説明

【事務局】

回収システム案自体は7月中旬から検討し、下旬に案がまとまった。その後11月祭事務局にごみ分別とともに提案した（7.26）、9月初旬に模擬店配置が決定した後に具体的な割り振りを行い、9月下旬には完成した。

今年は総合人間学部構内の工事のため模擬店配置と数に変更が生じた。また、事務局が終了後の見回りの際に、不法投棄されたごみを回収することとした。事前及び当日に事務局との連絡をとったため、集積場での引き渡しはスムーズに行われ、模擬店から来るごみのラッシュが過ぎた頃だった。また、放置ごみ箱を見つけた場合は緊急措置でごみ箱を畳むか逆さにしてもらった。

【模擬店】

会場内のごみ分別・回収には、模擬店の協力が必須である。各模擬店企画担当者に対しての説明は、

「環境虎の巻」(模擬店配布資料集)に模擬店作業割り当て一覧とごみ箱配置地図を載せ、早めの説明を心がけた。また、直接には第一回模擬店企画担当者会議にて概要を、第五回にて詳細を説明した。しかしながら、会議のみでは不十分であること、また当日になって生じる問題もあることなどから、今年もPOP(Point of Purchase)の取り付けと巡回を行った(3節参照)。また、当日の午後ごみを集積場に持ってくる模擬店に対し、ごみに関する諸作業の注意を書いた看板を置いておくという案があったが、実現できなかった。集積場は模擬店がごみに触れる貴重な機会であり、注目度も高いと思われるので、次年度は置いてよいと思う。

(4) 報告と問題点

- ・キャンセル模擬店への対応が不備だった。当初はキャンセル模擬店ごみ箱を巡回朝で設置し、回収を午後の巡回で行えれば、と思っていた。しかし本祭の数日前に臨時ごみ回収のシフトが組まれた。当日は、一日目でキャンセルまたは営業していない模擬店8店舗が確認された。
- ・ごみの不法投棄は今年も多かった。会場内ごみ箱は今年度は模擬店が管理することとなっている。しかし、管理の一つである営業終了後のごみ箱保管がなされなかった場合、放置されたごみ箱に不法投棄が行われる。これらのごみ回収を事務局にお願いしていたが、模擬店がテント内に保管しているごみ箱中のごみ袋についても途中まで回収されていた。このことを想定していなかったが、回収の必要がないことを事前に言うべきだった。三日目には吉田ショップ前に大量のごみが、また工学部6号館前にも不法投棄されているのを当委員会スタッフが発見した。ごみの管理は容易ではない。
- ・模擬店ごみ箱担当について模擬店アンケート結果から「やや大変」という意見への偏りが見られた。巡回した限りでは、ごみの回収・箱の保管よりも回収したごみの再分別の負担が大きいようである。また、ごみ回収頻度においては紙ごみ、ビニ・プラ、トレーの3分別の負担が大きい。各分別について回収頻度と再分別の両方の負担を考慮した上で、担当を決める必要がある。
- ・トレー洗浄の詳細は4.に譲るが、出席率が50~70%と低かった。確かに、今年度のように2種類の作業が日を変えてあるというのはわかりにくかったと思う。また、トレーを使っていない模擬店が洗浄するのはおかしいという意見がある。今後も検討を重ね、平等性を保ちつつよりわかりやすい単純なスケジュールを作りたい。

会場内巡回

(1) 目的

模擬店へのごみ回収・トレー洗浄作業確認と徹底

(2) 内容

- ・本祭期間中、毎日朝に営業開始前の模擬店を巡回し、担当ごみ箱設置とトレー洗浄作業時間を呼びかける。
- ・毎日昼、以下のごみ箱点検回収時刻前後に模擬店を巡回し、担当ごみ箱の点検回収を呼びかけると同時に、作業が行われているかどうかをチェックする。最終巡回時にはテント内へのごみ箱保管も呼びかける。

14:00 ~ 15:30 ~ 17:00 ~

原則として14:00と17:00は模擬店を個別に回り15:30はトランジションメガホンを用いて一斉に呼びかけた。

(3) 当日報告と問題点

- ・朝9:30は早く夜17:00は遅い。模擬店がいる時間を確認する必要がある。
- ・夜間の不法投棄されたごみの回収、キャンセル模擬店のごみ箱設置(朝)などの対応に追われるため、設置後の巡回も必要。
- ・模擬店チェックリストを当日になって作成したが、リストには模擬店名と地図を載せたが、更に団体名とメニューがあると使いやすい。また、巡回が滞った場合と予備のため、リストは複数部必要である。

- ・ごみ箱保管のできていない模擬店が多く、翌日巡回で注意した。
- ・点検回収時刻で点検する模擬店が少ない。2日目から、特に量の多い3分別(紙・ビニプラ・トレー)の即時回収と、早い段階でのごみ分別を呼びかけた。
- ・店頭ごみ箱が今年も多かったが、店内ごみと同様に扱われるため、トレーは洗浄して持ってくることになる。それを2日目からの巡回でも呼びかけた。
- ・最終日はお祭り広場が20:30までの営業となるが、巡回で呼びかける時間・内容が不準備だった。
- ・片づけ日は企画のごみ回収と段ボールごみ箱回収が特別であるため、片づけ日朝も巡回が必要である。

模擬店以外のごみ回収

【校舎内ごみ回収】

校舎内に関しては、当委員会がごみ箱設置(校舎内は6箇所のごみ箱エリアがある)を行い、11月祭事務局総合企画局教室企画担当にごみ箱の管理(ごみ回収・袋の再設置・ごみ箱回収)をお願いした。教室内ごみ箱の地図(A,D,E及び1号館)については9月末から10月下旬にかけて事務局教室企画担当へと確認をとり、連絡した。また、校舎内ごみ箱のいくつかは、元々置いてあるポリごみ箱を使用したため、10月中旬に総人施設・管理掛にごみ箱設置の連絡文書を提出し、確認を取った。

【教室企画・グラウンド企画のごみ回収】

教室企画・グラウンド企画に対しては、「一般企画虎の巻」に各企画が責任をもってごみを回収・分別して持参することと、回収場所などのレジュメを掲載し、各企画担当者会議最初の回で説明を行った。また、当日にごみ分別を書いたビラを事務局を通して配布した。

4、前夜祭のごみ分別・回収

文責 古賀啓一

(1) 目的および企画説明

前夜祭とはいっても出るごみについては11月祭のごみとして処理される。その量は本祭と比べて少なく、応援団が前夜祭の運営を行うことから、応援団と協力して行った。又、前夜祭では発泡トレーの分別を無くし、ごみとして出た場合はビニール・プラスチック類で回収した。

<店内>

「紙ごみ」「ビニール・プラスチック類」「缶・びん」「PETボトル」「割り箸」「段ボール」「廃食油」の7分別

<会場内>

「紙ごみ」「ビニール・プラスチック類」「缶・びん」「PETボトル」「割り箸」の5分別

会場内ごみ箱は店頭にごみ袋を設置し、二つの模擬店に1セットのごみ袋を分担して管理してもらった。

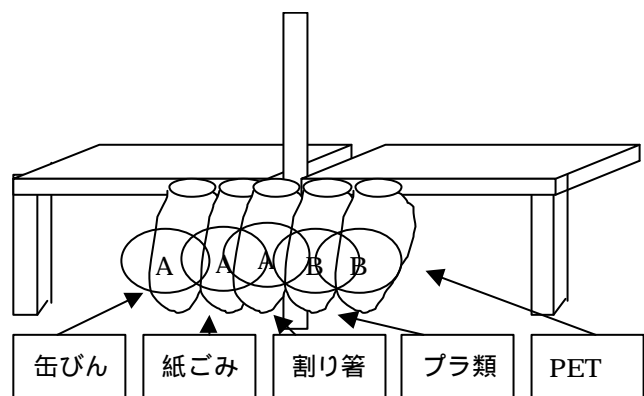
(模擬店番号が偶数の模擬店)

ビニール・プラスチック類、PETボトル

(模擬店番号が奇数の模擬店)

紙ごみ、割り箸、缶びん

会場内ごみ箱に使用のごみ袋は応援団に購入してもらった。



【応援団と環境対策委員会とで行った作業】

当日開始前に、模擬店の店頭にごみ袋を設置

当日開始前に、模擬店に対する分別及びごみの集積場への回収の説明

前夜祭中における分別の呼びかけと、模擬店への注意の連絡
 営業終了後の模擬店のごみの回収に関する周知徹底
 鉄製ごみ箱内のごみ袋の回収

【模擬店が行った作業】

模擬店店内のごみ分別
 模擬店店頭のごみ袋の管理、および分別と回収
 店内用透明ごみ袋の用意、及び使用
 ごみ集積場へのごみの持参
 店頭ごみ袋の再設置
 来場者への分別の注意

【環境対策委員会が行った作業】

前夜祭における会場内ごみ回収・環対と応援団と一緒にまわった
 集積場運営

(2) 前夜祭時系列

- | | |
|--------|--|
| 10月8日 | えこみっと内で問題点整理
店頭ごみ袋 or 本祭と同じ様式 or 従来と同じ様式 |
| 10月12日 | 応援団と以下の点で打ち合わせ
・前夜祭の環境対策（模擬店による店頭ごみ回収・トレー禁止）
・会議で模擬店へ説明すること（分別・持参・ごみ袋について）
・応援団にお願いする作業 |
| 10月15日 | 店頭ごみ袋の具体的設置案を考える |
| 10月19日 | 応援団にあらかじめ書類を渡す |
| 10月23日 | 担当者説明会用の書類と、店頭ごみ袋の詳細を応援団へ渡す |
| 10月26日 | 担当者説明会にて模擬店へ説明
内容：前夜祭ごみ分別の種類・方法・処理フロー
店頭ごみ袋の説明 |
| 11月6日 | ごみ袋購入・巡回・パンフについて、応援団へお願いと確認 |

(3) 反省点とその対策

前夜祭での反省点は主に以下の4点である。

模擬店店頭ごみ袋の設置

表示は今年度はじめて実施した店頭ごみ袋制度であるが、下記に挙げるような技術的な問題が残っているものの、危惧していたほど破綻していた場所は少なく、概ね初期の目的は達成されたと考えてよい。模擬店への事前説明の徹底やレジュメの充実により改善できるだろう。

- ・表示は三角柱状ではなく、板のようなものをごみ袋の中に貼っても効果がある
- ・紙ごみとプラごみは隣接していたほうが良い
- ・ごみ袋はガス等の火気に近いと問題である
- ・店頭のスペースが十分でない模擬店があった
- ・幾つかの模擬店のごみ袋は一杯になっていた
- ・昨年度までの公設ごみ箱よりは分別率が上がっていたように思える
- ・ごみは溢れると見栄えが悪くなる
- ・分別表示の三角柱がスペースを圧迫していた
- ・5つのごみ袋が離れているところがあった
- ・風で袋がとばされそうだった



・割り箸、トレーなどを売っていないのに、店頭ごみ袋が割り当てられていることに問題はないのか

風の問題以外は模擬店の協力で改善できる。風に関してはごみ袋を店頭につるという形態をとっている以上やむをえないだろう。

集積場周辺の自転車整理

18:00の時点では既に自転車が溢れている。集積場周辺の自転車であるが、設営が始まった18:00の時点で自転車の整理に追われていた。時間的・労力的なロス、またこちらが移動させた自転車・バイク等の破損があれば問題となるので、できる限り早い段階にロープ等で総人西口、食堂西側、トイレ前までを確保するべきであり、最低1人は人員を配置すべきである。また、応援団にも1人程度でも配置してもらいたい。

集積場の運営

詳細な報告は集積場運営の項を参照。

・設営 18:00、本格受入 19:00 で行ったが、それぞれ1時間遅らせてよい
ただし、上述の自転車整理だけは忘れてはならない

(4) 次年度への展望

前述の反省点でも述べてあるように環対が本祭の仕事に十分な時間が割けられるように応援団との前夜祭の仕事の分担を積極的に行うことは重要だろう。将来的には前夜祭当日から本祭の朝にかけての仕事を応援団が全て行うのが理想的だと思う。発泡スチロールトレーの回収・リサイクル処理に関しては時間的な余裕と人員の余裕の無さから前夜祭では実施されなかったが、本祭一日目の朝に応援団や模擬店の協力が得られるならば実施したほうがよいだろう。

5、片づけ日のごみ回収

文責 増田大美

11月祭翌日(片づけ日)は、9時から13時までごみ回収を実施した。場所は集積場と吉田グラウンド南西の両方で、どちらも再分別を行った。

吉田グラウンド南西では、3分別(紙ごみ、ビニール・プラスチック類、段ボール)を回収した。段ボールは最終日の教室企画等からかなりの量が出たが、準備段階のうちにロープで区画を作っておいたために混乱が少なかった。来年度も区画を準備する必要がある。また店内POPの回収も行ったが、段ボールとして持ってきたり紙ごみに混じていた場合も見受けられた。



【問題点】

・朝の大清掃について事務局との連絡がうまく取れていなかったため、いつ、どこで、どんな分別で、誰が再分別するのかについて不明確だった。事務局側は「段ボール、不燃物、可燃物」という指示を行ったが、名前がわかりにくいということもあってか分別状態はよくなかった。ごみ袋の数にも限りがあることを考えると改善案としては、各企画担当者に分別を割り振ることが考えられる。

・校舎内ごみ箱は前日持ってきたいという要望もあったが、原則の片づけ日持参でお願いした。
・原則13時までの回収としたが、それ以降も持ってくる企画が見られた。回収業者の時間の都合もあるため、事前にごみの受付時間を各企画に対して連絡しておく必要がある。

6、ごみ箱の作成について

文責 早川智恵

(1) 目的

来場者を含むNF参加者に分別してごみを捨ててもらうことによって、ごみの正しい分別や分別することの意義を知ってもらい、今後の実生活においても参考にもらえることを期待する。また、会場的美観を保つためでもある。

(2) 必要物品

段ボール、製作工具、紙(表示用)、糊、ペットボトル、ガムテープ、サンプル用品など

(3) 作業概要

分別表示について

分別表示は、ごみ箱の本体作成後、ごみ箱の中央上部(ごみ箱の両面)に貼り付けた。分別表示の用紙はB4版。また、分別ごとに色を変えた。

分別表示の種類は以下(8種類)の通り。

<u>表示の種類</u>	<u>種類名以外の表示内容</u>
紙ごみ	紙皿・紙トレー・紙コップ・ピラ・紙パックなど
ビニール・プラスチック類	アルミホイル・ストロー・PETボトルのフタ・ラベルなど
PETボトル	フタ・ラベルは外してビニール・プラスチック類へ捨てること
発泡スチロールトレー	生ごみはバケツへ捨てること。発泡トレーだけであることを強調
空き缶・空き瓶	瓶のフタは外してビニールプラスチック類へ捨てること
割り箸	串、楊枝、竹箸は付属の容器へ捨てること。割り箸だけであることを強調
生ごみ	水分はよく切ってから捨てること。食べ物だけであることを強調

ごみサンプルについて

ごみサンプルは、分別をわかりやすくするために、今年度試みたことの1つである。サンプルは、次の物を作成した。

<u>サンプルの種類</u>	<u>サンプルの内容</u>
ビニール・プラスチック類	フードパック(半分に切ったもの)、PETボトルのフタとラベルを台紙に貼ったもの
発泡スチロールトレー	発泡スチロールトレーを台紙に貼ったもの。形状は様々だが、色は白で統一した。(スーパーで回収しているトレーを頂いた)

ごみサンプルは、ごみ箱の本体作成後、分別表示の真下(ごみ箱の両面)に貼り付けた。台紙は、サンプルを目立たせるため黄色にした。

ごみ箱(本体)について

ごみ箱の種類について

<u>ごみ箱の種類</u>	<u>材質・サイズ等について</u>
紙ごみ	主に段ボールを使用。サイズは大～中。
ビニール・プラスチック類	同上。

発泡スチロールトレイ	同上。c地区では一部木製ごみ箱を使用。
空き缶・空き瓶	主に段ボールを使用。サイズは中～小。一部地区で鉄製ごみ箱を使用。
PETボトル	同上。
割り箸	同上。付属として竹串・竹箸入れを設置。
生ごみ	バケツを使用した。

大きさ別に段ボールを仕分けし(小さい順にA～Fまで)、ごみの種類に応じて大きさを調整して作成。その後、箱の上部に表示やサンプル、担当模擬店欄を貼り、完成。

生ごみ用バケツは事前に洗浄し、取っ手に表示をつけて固定した。

竹串・竹箸専用ごみ入れは、ペットボトルを利用して作成した。これは、割り箸との分別率を高めるための補助として使用した。

木製ごみ箱は、以前に作成したものを使用した。



(4) アンケートから

「分別が細かすぎる」との意見もあったが、ごみの回収を「大変」と感じている模擬店は少数であった。また、「紙ごみの箱に竹串を捨てることと、ジュースのストローを抜くことを書いてほしい」、「紙と串や木を分ける意味が不明」、「どうして竹以外の串は割り箸と同じではダメなのか」などもあった。捨てる側から見てわかりやすい分別表示を心がける必要があるだろう。また、「環境虎の巻」など一部の人のみに渡る冊子だけでなく、一般の来場者にも分別方法や意義を理解してもらえよう、広報面での工夫も必要だろう。

(5) 反省点

ごみ箱の大きさによってごみサンプルの位置が低くなり、見にくいこともあった。また、サンプルがはがれやすく、NF中何度か補修しなければならなかったため、最初から梱包用テープで貼るなど改善が必要だろう。

竹串・竹箸専用ごみ入れは、その扱いを模擬店に知らせていなかったため、ごみ回収時に誤って取り外してしまう、処理方法がわからないなどこちらのミスによる問題点はあったが、割り箸と串類を分別する意識を持ってもらうという点でよく機能を果たしていたと思う。

生ごみバケツは、本祭中の反省会より、途中から袋を取り付けた。

木製ごみ箱は、ごみ袋の中身がよく見える造りのため、同じ分別の段ボールごみ箱と比較すると、分別率が高くなっていったと思う。

段ボールは、一度切り開いて裏返してガムテープでとめなおすが、その際、強度の問題から、裏表両方とめた方がよい。また、今年は幸いにも好天に恵まれたが、それでも夜露で段ボールの強度が弱くなっていることもあり、湿気対策は事前準備の段階から検討しておいた方がよいと思う。

7、ごみ箱設置について

文責 田辺 文子

(1) ごみ箱の数と位置

1分別につき1つ、計7個のごみ箱+標識マット(後述)で1つのごみ箱ステーションとした。

ごみ箱ステーションの数は以下の通り。

会場内	26箇所	校舎内	8箇所
a地区	10箇所	A号館	2箇所

b 地区	8 箇所	D 号館	2 箇所
c 地区	8 箇所	E 号館	1 箇所
		1 号館	2 箇所

設置数は、会場内については6模擬店につき1つのステーションをおくことを基本とした。設置場所は模擬店配置が決定した頃決定した。校舎内および本部構内は昨年度と同様だが、吉田構内は工事により模擬店配置が変更したため、人の流れを新たに予測して決めた。

模擬店配布冊子「環境虎の巻」にのせられるように10月までにゴミ箱地図を作成し、第一回模擬店企画担当者会議には報告できるようにした。

【反省点】

当日、一部企画(グラウンドおよび教室)とゴミ箱の場所が重なる、地図に書いてあるゴミ箱の場所がわかりにくい、設置場所が模擬店の前や通路前となっている、足場が不安定などの問題が生じた。そこで来年からは、事務局と合同で場所の現場検証を行い、事務局から各企画の地図をいただいた上で正確で適切な位置を決定したい。

(2) ゴミ箱設置作業

事前にごみ箱やサンプルなどを作業班ごとに分けておき、前日にごみ箱撒き(鉄製ごみ箱移動を含む)・標識マット撒き・担当模擬店欄記入をし、当日朝に段ボールごみ箱の組立・サンプル貼りなどをした。

前日の作業では、各地区1つのグループが、段ボールごみ箱はリヤカーで、生ごみバケツ・標識マットなどは手で運び、鉄製ごみ箱は1グループがすべて運んだ。またごみが入られないよう、生ごみバケツは裏返し、段ボールごみ箱は畳んで置いておいた。



【反省点】

全地区

鉄製ごみ箱の担当模擬店欄をセロテープで貼ったが、はがれていた箇所が数カ所あったので、ガムテープの方がいいだろう。

当日朝の作業は、全体的に30分~1時間程度の遅れが出てしまった。後述する問題点の改善によってある程度は所要時間を抑えることができそうだが、もう少し多めに時間をみておいた方がよいかもわからない。

a 地区

(前夜祭)模擬店の営業終了時刻にごみ箱撒きを開始したが、まだ終了していない模擬店があって撒けない箇所があった。もう少し開始時刻を遅らせた方が良いのではないかと。

b 地区

当日朝に前夜祭のごみが鉄製ごみ箱に多量に入っていたため作業に時間をとられてしまった。結局、急遽応援団に前夜祭のごみを回収してもらい、その後にごみ袋を取り付けた。前日の鉄製移動の時間が早かったため移動先でごみを入れられたので、移動時間を遅らせる(所要時間は30分強だったので十分可能だろう。)か、蓋をさかさまにするなどの工夫が必要である。

また、鉄製ごみ箱移動時に表示も貼ると、その後の担当模擬店欄記入がスムーズに行われるのではないだろうか。

校舎内

当日朝の作業時に、ごみ箱として使用するポリごみ箱に、多くのごみが溜まっていた。前日にごみ箱を撤収または蓋をしてごみが入れないようにするか、環対でごみ回収のシフトを組んだり、応援団に回収に協力してもらう必要がある。回収の場合は前夜祭の夜が良いと思われる。

(3) 標識マットについて

模擬店が担当ごみ箱を翌朝出す際に設置場所がわかるよう、また各ごみ箱の担当模擬店がわかるように、各ごみ箱ステーションにつき一つの標識マットを作成した。大きさはB4よりやや大きく、各標識に書かれた内容は、ごみ箱番号、各ごみ箱の日ごとの担当模擬店、ごみ箱の並べ方である。また、模擬店がごみ回収をする際使うガムテープをビニル紐でこれにくくりつけておいた。

【反省点】

標識は前日夜にガムテープで地面に貼り付けたが、グラウンドでは固定できず裏返ってしまう、又は紛失するという問題が起きた。更に、段ボールだったためかなり破損してしまった。来年はビニールコーティングを施したい。

また、より模擬店にとってわかりやすくするために、より目立つ色にする、大きさを変えるなどの工夫も考えられる。

8、POP について

文責 田辺 文子

(1) POP とは

店内ごみの分別方法と、模擬店の作業(会場内ごみ箱の点検回収、トレー洗浄など)スケジュールを示したもので、大きさはA3。これを見れば上記のことが一目でわかるようにし、模擬店側の混乱を減らすことを目的として作成した。また今年度は2模擬店1POP(片面に1模擬店分)として各テントの中央の梁に吊した。

学園祭当日の作業としては、1日目の朝、各模擬店を廻ってPOPを模擬店のテント内に吊し、その際に各模擬店責任者にPOPについて簡単に説明した。

【反省点】

・POPの存在に気付いていない模擬店が多々あった。(POPが外れたまま1日中気づかない模擬店もあった。) 吊す場所を変えるなどの工夫が必要だろう。POPを毎日更新して模擬店に注意を促すことも考えられるが、配布したビラをなくされると困るし、POPに貼るよう頼んでも実際に貼る模擬店は殆どないのではないだろうか。

・POPにごみ箱地図もつけて欲しいという意見があった。

・POPを見るときに隣の模擬店を見るようではばかれるという意見があった。

・自転車置き場(b地区)は梁が太いので、POPの紐はもう少し長い方がよかった。

・ある模擬店が営業場所を間違えていた(テント内の右・左)が、隣の模擬店がまだ来ていなかったため場所を変えるよう注意してPOPはそのままにしておいた。しかし、結局模擬店はそのまま営業しており、結果としてPOPの向きが逆になってしまった。移動したかどうかの確認をするべきだった。

9、リサイクル処理(トレー洗浄)について

文責 早川智恵

(1) 目的

11月祭で大量に廃棄される発泡トレーをリサイクルするため、洗浄する。また、模擬店に参加してもらうことにより、リサイクルの意義を知ってもらい、少しでもトレー削減の努力をしてもらう。

(2) 準備する物

バケツ、スポンジ、手袋、ビニール袋、出席表、ブルーシート、ざる、石鹼、消毒液、リサイクル処

理の意義と作業手順の説明書

(3) 当日までの準備

- バケツ、ブルーシートの洗浄
- 必要物品の購入、保管
- リサイクル処理企画書、スタッフ用マニュアル、出席確認表の作成

(4) 実施日時と場所

- 11月23, 24, 25, 26日(本祭2日目~4日目と後片付け日)
- 集積場南トイレ前

(5) 当日の作業概要及び手順

洗浄場所の準備

- ビニール手袋とスポンジ、消毒液を受付場所に用意する。
- リサイクル処理の意義と作業手順の説明書は見やすいようにトイレの壁に貼る。
- バケツに水を入れて適当に配置し、石鹸はトイレに置いておく。ブルーシートは適当な箇所に広げておき、ざるは排水溝の上に設置する。
- 汚れがひどく落ちそうにない物と汚れが落とせる物とを仕分け、バケツの横に一定量ずつ置く。

洗浄

- 受付後、手袋とスポンジを渡し、トレーを洗浄してもらおう。洗浄時間は、最大で20分。
- ノルマが終わったら作業終了。最後にバケツの水はざるでこしてもらおう。時間内に終わらなかった場合でも、担当時間が終わったら、そこで終了とする。(ただし、あくまでも原則)
- 遅刻の場合も原則洗浄してもらおうが、バケツの込み具合によってはすすぎをしてもらおう。
- 地区ごと(a地区はさらに2つに分けた)の担当時間に各模擬店から1人以上来てもらおう。地区の割り振りとは時間は下記の通り。

担当地区 時間

a地区	10:00 ~ 10:20, 10:30 ~ 10:50
b地区	11:00 ~ 11:20
c地区	11:30 ~ 11:50, 12:00 ~ 12:20

洗浄場所の片付け

- 洗浄済みトレーは袋に詰めて保管する。
- 未洗浄のトレーをまとめ、元の置き場に片付ける。
- ごみは分別して捨て、バケツ、ざる、手袋、スポンジ、ブルーシートは水で洗った後、それぞれ適切な場所に保管する。その他の物品をまとめ、本部に持ち帰る。

(6) アンケートから

作業の負担について、「ふつう」と回答した模擬店と「大変」または「やや大変」と回答した模擬店はほぼ同数であった(さすがに「楽」という模擬店は皆無だった)。また、模擬店からの意見として、「全てのトレーを洗うなら洗い皿を全団体化してほしい」、「行く時間によって分担量に差がある」、「作業担当の割り振りがわかりにくい」、「発泡トレーを使用していないのにどうして洗わなくてはならないのか」等があった。

(7) 反省点

当日、変更した点について以下、いくつか列挙する。

- 手袋について、当初はポリエチレン製を使っていたのだが強度に問題があったため、途中からゴム

製に変更した。

- 受付について、2日目から机(代用品)を設置した。
- ざるとブルーシートについて、1日目は1つであったが、翌日から追加し、2つ使用した。
- 作業手順について、2日目から模造紙に書いてトイレの壁に貼った。

(その他の点について)

作業中に「腰が痛い」という声がよく聞こえた。これについては椅子を用意するなど検討する必要があるだろう。また、手袋が小さく、使いづらいという人もいたので、サイズをもう1ランク上げる必要もある。

出席率について、最も低かった1日目で50%、最も高い3日目ではほぼ70%だった。3日目は担当模擬店に作業直前に呼びかけを行ったことがよかったと思う。アンケート結果から考えても、作業担当の割り振りの説明やわかりやすいPOP作成など、準備の段階での改善が必要だろう。

また、アンケートの意見にも見られるように、リサイクル処理をすることの意義についてより深く理解をしてもらうために、広報等においてさらに工夫をしていくことが求められるだろう。

10、終わりに

文責 増田大美

この担当をやってきて反省点はたくさんあるが、「どのようにごみ分別を自分自身の問題として考えるか」がNFごみ分別に関わる上で問われてくるのではないかと思った。分別するなら、ごみの最終処理形態についても知っておきたい。また、ごみ回収システムを行う上では、模擬店を始めさまざまな人との協力が欠かせない。当たり前のことだが、11月祭環境対策委員会だけでごみ分別を収束させるのではなくて、多くの人の意見を取り入れた、より気持ちのいいごみ分別・回収の関わり方が作れたらと思う。

e、生ごみ堆肥化について

生ごみ堆肥化担当 柳泉亮太

1、目的

この生ごみ堆肥化は、毎年莫大な量になる、NFの模擬店から排出される生ごみを少しでも再利用できるように、1996年度から始められたものである。

本来は土に還る生ごみを焼却処分すると、非循環の問題があるだけでなく、生ごみの水分によって焼却炉の温度が下がり、また食品中、NaClからダイオキシンなどが発生するという問題も起こりうる。また、「食べ物を粗末にしない」という観点から考えても、単純に廃棄するのではなく、最大限に利用することが大切なのではないだろうか。その実現のために、この企画ではNFで出た全ての生ごみを堆肥化することを目標とした。

しかし、いくら堆肥化しても使わなければ意味がない。これまでは学内の団体に堆肥作りとその利用をしてもらっていたが、今年度は近隣の高野中学校でも生ごみ堆肥を使ってもらうことになっている。

2、実施内容

(1) 活動の大まかな流れ

米ぬか集め・・・10月の初め頃から、堆肥化に用いる米ぬかを複数の米屋から、リヤカーを用いて、数回に分けて集めた。

京都大学有機農業研究会(以下、有機農研)との打ち合わせ・・・毎年、生ごみの堆肥化作業に協力してもらっている有機農研の人達に、堆肥化の知識を教えてもらったり、NF当日の作業の協力をお願いしたりした。

堆肥の引き取り先探し・・・毎年堆肥を使ってくれている有機農研から全堆肥の3分の1ほどしか引き取れないと言われ、新しく、堆肥を利用してくれるところを探した。その結果、高野中学校に堆肥を引き取ってもらうことになった。

生ごみ堆肥化参加模擬店の募集・・・自分の模擬店から出た生ごみに、予め米ぬかを混ぜることで、堆肥化の作業に協力してくれる「生ごみ堆肥化参加模擬店」を模擬店企画担当者会議で募集した。計

2 1 模擬店が参加してくれた。

必要物品の準備・・・生ごみ堆肥化参加模擬店に配る P O P (堆肥化に協力していることを示す表示) や米ぬかすくい用のカップ、また EM(生ごみの発酵を助けてくれる菌)など、堆肥化に用いる物品を NF 当日までに用意した。

NF 期間中の仕事

1)NF 初日の朝 9 時頃から堆肥化参加模擬店に米ぬか、P O P などの必要物品を配り、簡単な説明を行った。

2)毎日、集積場で有機農研の人と共に生ごみ回収&分別チェックし、米ぬかを混ぜ、EM をかけた。

注) NF 期間中に有機農研の方から、米ぬか不足と EM の培養の失敗が指摘されたため、臨時に米ぬか集めと EM の培養を行った。

堆肥化作業・・・有機農研の畑だけでは堆肥化を行うスペースが足りなかったため、片付け日に有機農研の軽トラで生ごみを高野中に運び、そこで堆肥化を行った。

(2) 活動内容の詳細

の「米ぬか集め」とは?

生ごみは水分含有率が高く(80%以上)、堆肥にするには扱いにくいので、水分含有率の低い米ぬか(10%程度)を混ぜることで、水分をうまく調節している。また、生ごみ:米ぬか=1:1の割合で混ぜるとよいとされているが、水分が多そうなものには多めに加えるようにする。

今年度の米ぬかの集め方

・米ぬかは、近衛通りを東に行った付近にある米屋を中心に行った(詳しくは、生ごみファイルを参照)。この付近の3軒と中谷酒店は全て無料でくれた。ただし、1回につきもらえる量が不定なものと集める量がとても多いので、10月の初め頃から集め始めた。この4店から1週間に1回米ぬかをもらう作業を5週間続けると、当初の目標であった30袋以上の米ぬかを集めることができた(合計31袋集めた)。

・回収の事前に、それぞれのお米屋さんに堆肥化のために米ぬかが必要であることを伝え、無料で米ぬかを譲ってもらえるように頼んだ。店によっては、あげるのは構わないが、集めに来る日は事前に連絡して欲しいという店もあった。

・米ぬかは学生部厚生課から借りたりヤカーで集めた。この際、大き目のリヤカーを借りると操作が大変なので、軽量型のリヤカーを借りたほうがよい。

米ぬかの臨時回収< A の 注)を参照 >

NF 2 日目の夜に、集積場に入ってもらっていた有機農研の人から、米ぬかが不足との報告を受け(全31袋のうち堆肥化参加模擬店21店舗に配った残りの米ぬか10袋だけでは集積場では足りないとの事だった)、3日目の午前中に臨時に米ぬか集めを行った。この日は土曜日のため米屋さんは休みであったが、電話で事情を説明すると気前よく分けてくれた。結局、3店から8袋の米ぬかを集めることができた。来年以降は、模擬店数+20ぐらいの米ぬかが必要であるようだ。

の「京都大学有機農業研究会との打ち合わせ」とは?

有機農研の人達に、10月の初めに今年度の協力と堆肥の引き取りについての話し合いをした。すると、堆肥化には協力してくれるが自分たちだけではNF中の生ごみを全量堆肥化した場合、その内の3分の1程度しか引き取れないと言われたので、他に堆肥を利用してくれるところを新たに探し始めた(この内容は次の で)。また、NFの直前には、有機農研の生ごみ堆肥化の勉強会に参加した。

の「堆肥の引き取り先探し」とは?

Bの に書いたように有機農研から、自分たちだけでは堆肥を消費し切れないとされたので、新たな引き取り先を探した。そこで、大学の近隣にある小中学校の中で、グリーンベルトなどを持ち、緑が豊かそうな市立高野中学校に頼んでみた。

10月の中頃に、高野中学に電話をしてみると教頭先生が相手をしてくださり、「花が多いため肥料に年間10万円近くかかり、市からの補助もないので堆肥を無料でくれるならありがたい。」との返

事をもらい、途中からはこの話に興味を示した校長先生も電話に出てください、快くこの申し出を引き受けてくださった。

10月の末に、今度は生ごみ堆肥についてのレジュメを作成し、さらに有機農研から分けてもらった生ごみ堆肥のサンプルを持って、より詳しく説明するために高野中に行った。その時は校長先生が相手をしてくださった。

の「生ごみ堆肥化参加模擬店の募集」とは？

生ごみ堆肥化のアピールと模擬店にも作業の一部を手伝ってもらうことを目的として、NF期間中に自店舗から出た生ごみを集積場にもってくる前に、予め米ぬかを混ぜてもらい、生ごみ堆肥化参加模擬店を今年度も募集した。

まず、始めに第2回模擬店企画担当者会議(以後、企担と略)で模擬店担当者たちに、堆肥化参加模擬店の説明をし、次の第3回会議で参加希望調査票を提出してもらうことを伝えた。第3回企担では調査票を提出してくれなかったところもあったので、第4回企担でも引き続き、希望調査票を回収することにした。

第4回企担では、生ごみ堆肥化に協力してくれることになった模擬店(計21店舗のうちこの企担に出ていた19店)の前で、用意しておいた生ごみに米ぬかを混ぜるという、生ごみ堆肥化実演を行った。また、今回は有機農研の人にも来てもらい、補足説明などをしてもらった。残りの2店舗については、NFの初日に米ぬかを配る際に説明を行うことにした。

堆肥化参加模擬店に配るもの(NF初日の9時頃から配布)

- ・米ぬか 1袋
- ・米ぬかすくい用のカップ 1つ(牛乳パックの底で製作)
- ・生ごみ堆肥化のPOP 1つ

の「必要物品の準備」とは？

NF中に生ごみ堆肥化参加模擬店に取り付けてもらうPOP(その裏には生ごみ堆肥化の手引きを貼った)や生ごみ堆肥化たて看板の作製は、物品製作時に行った。

また、堆肥化参加模擬店に配る米ぬかすくい用のカップは、環境対策委員会のメンバーが持ってきた牛乳パックで、参加模擬店数分(21個)作った。

EMの培養の仕方

- ・EM = Effective Micro-organisms のことで、生ごみの発酵を助けてくれる菌のことである。
- ・EMは、NFが開催される2~3週間くらい前から培養し始めた。必要物はEMの素(毎年、有機農研から分けてもらっている)、PETボトル(1.5Lか2L)、砂糖、汲み置きしておいた水である。培養法はまず、1.5LPETボトルに20分の1程度のEMの素を入れ、汲み置きしておいた水(EMは生物なので、水道水を直接、使わない方がよい)で希釈し、そこに砂糖を大量に入れる。その後、暖かいところに置いておき培養した(最高40℃くらいまで。あまり、温度が高すぎるとEMが死んでしまうので注意する)。
- ・正常に培養が出来ていればEMが呼吸して二酸化炭素を発生するので、ふたを開けたときに炭酸飲料のように「プシュー」という音がする。また、においの方も、少し柑橘系のにおいになるそうだが素人にはわかりにくいそうだ。とりあえず、最初は1.5LPETボトル2本分のEMを培養してみた。

の「NF期間中の仕事」とは？

1)NF初日は、朝の9時頃からリヤカーを使って、各堆肥化参加模擬店に米ぬかなどの必要物品(Bの参照)を、予め作っておいた参加模擬店の所在地を示した会場地図を見ながら配り歩き、同時に簡単な説明も行った。ほとんどの模擬店がすでに来



ていたために、予定時間内に全 21 模擬店に配ることが出来た。また、第 4 回企担に来ていなかった 2 模擬店にもきちんと説明することが出来た。

2) NF 期間中は毎日、有機農研の人と共に集積場で生ごみの回収と分別を行った。割り箸などの異物や水分や塩分の含有率が高いものなど、堆肥化に不適当な物を取り除いた後、米ぬかを混ぜ、均一にかかるようにスプレーを用いて EM をかけた(スプレーは有機農研から借用)。

の「堆肥化作業」とは？

片付け日の午後に、有機農研が引き取りきれなかった分の生ごみを持って高野中に行った。当初は全ての生ごみを有機農研の畑で堆肥化した後、有機農研だけで使いきれない堆肥を高野中学に渡す予定であったが、NF の直前になって有機農研から「自分たちの畑だけでは全部の生ごみを堆肥化するスペースがないので、生ごみの一部を高野中学の敷地を使って堆肥化をすることはできないだろうか？」と言われた。そのため、急遽その旨を高野中学校に伝え、ありがたいことに高野中学校で直接、堆肥化を行うことを了承してくれた。

高野中学には、有機農研の人が軽トラを使って生ごみを運んでくれた。そして、校長先生の立ち会いの下、有機農研の人達と共に高野中学校で、生ごみの堆肥化を行った。

作業は 30 分ほどで終了し、1 ヶ月ぐらいたら再び堆肥の様子を見に来ることを校長先生に告げた。

3、反省点 & 次年度への展望

の「米ぬか集め」について

・当初、米ぬかは去年と同数の 30 袋を集めるのを目標にして活動し始めた。第 1 回目の回収で、一気に 9 袋も集まったので予定よりも短い期間で回収できると思ったが、それ以降は 1 回に 4 袋しか集めることが出来ない時もあり、結局、目標数に達するには、5 週間かかってしまった。このようにお米屋さんが 1 度にくれる量はかなり変動するのを考えると、やはり早めに回収し出すのが必要になってくると思う。

・(2) の B の で書いたように、NF 期間中に有機農研から米ぬかが不足だとの指摘を受けた。臨時回収のおかげで最終的には全部で 38 袋分の米ぬかを集めたことになるのだが、片付け日に高野中学で堆肥化作業をしている時にも、再び有機農研からもう少し米ぬかがあったほうがいいと言われた(思っていたよりも果物の生ごみが多かったため、予定より大量の米ぬかが必要になったとのことだった)。

・今年は天気もよく、また時間の空いている人もいたおかげで、なんとか NF 中に臨時回収が出来たが、来年度はこんなあわただしい事を避けるためにも最初から 40 袋以上を目標にしておいた方がいいかもしれない。そのためには、もう少し早めに回収し始めるのと今年の 4 軒以外にも米ぬかを分けてくれるところを探し出す必要があるかもしれない。

の「京都大学有機農業研究会との打ち合わせ」について

・今年度も有機農研には知識面や技術面でとてもお世話になったが、終わってみて、有機農研としっかり話す機会がやや少なかったように思える。そのためか、NF の 1 ~ 2 週間ほど前にやってもらう事になっていた堆肥化の勉強会が NF 2 日前に延期されたり、その勉強会で急遽、「高野中で堆肥化をやれないか？」と言われることなど、直前になって話が変わることが、たびたびあった。

・このようなトラブルを避けるのと有機農研の人達とこれからよりよい関係を築いていくためにも、来年度は有機農研との話し合いの場をより多くより早い段階から設ける必要があると思う。

の「堆肥の引き取り先探し」について

・また、有機農研からは「生ごみ堆肥は本来、花ではなくて野菜を育てるためのものなので出来るだけ、野菜を育てるのに使って欲しい。」との要望もあった。これらのことから、来年度は高野中だけでなく、別の(できれば野菜を育てるのに使ってくれる)引き取り先を探す必要が出てくるかもしれない。

の「生ごみ堆肥化参加模擬店」について

- ・去年と同じように、堆肥化参加模擬店を模擬店企画担当者会議で募集したが、a, b, c地区ともだいたい同じような割合で模擬店が参加してくれた。これらの模擬店には必要物品をきちんと用意することが出来たが、直前になってユニセフの団体も参加したいと言ってきた。来年度は、参加したいところは必要物品を確実にそろえることができるように、前もってしっかりと把握しておく必要があると思う。
- ・c地区の参加模擬店から、生ごみと米ぬかを1:1混ぜたもので、ごみ袋をいっぱいにと非常に重く、集積場まで運べないとの意見があった。来年度は事前に、c地区の参加模擬店にはごみ袋に半分くらいたまったら集積場に持ってきてくれるように伝えておいた方がよいかもしれない。
- ・各参加模擬店にはそれぞれ米ぬかを1袋ずつ渡し、余った場合はNFの最終日に集積場に返してもらうことにしていたが、実際使い切れずに米ぬかが余った模擬店も多く、また、集積場のほうでは逆に米ぬかが足りなかったことを考えると、来年は1模擬店につき1袋というのは、少し調整する必要があるかもしれない。
- ・今年も生ごみ堆肥化参加模擬店に対して、参加した感想などを聞くアンケートをしなかった(去年の報告書にもこのように書かれていた)。確かに、当事者たちの意見を聞くことは非常に重要であるので、来年は堆肥化参加模擬店に対して、アンケートをやったほうがよいであろう。

の「必要物品の準備」について

- ・現在、生ごみ堆肥化参加模擬店につけてもらっているPOPは、以前からのデザインのままなので新しいデザインを思いついたなら次は変えてみるのもよいかもしれない。
- ・第4回模擬店企画担当者会議で、参加模擬店の前で堆肥化実演を行った際、完成した堆肥のサンプルがあったほうがよいのではないかと感じた。これは、予め有機農研に頼んで分けてもらうとよいであろう。

の「NF期間中の仕事」について

- ・模擬店企画担当者会議の際に、初日の9時頃から必要物品を配り始めることを伝えておいたために、去年のように米ぬかなどを配りに行っても、誰もいなかったり参加しているの知らない人しかいなかったという事態は避けることが出来た。
- ・当日マニュアルにはc地区(本部キャンパス)の模擬店に配る物品は、安全センターから運ぶように書いておいたのだが、連絡が徹底していなかったためか、他の地区の物品と一緒に吉田食堂まで運ばれてしまっていた。c地区には安全センターの方が近いので、来年は事前連絡を徹底しておくとういと思う。
- ・(2)のAの で書いたように、NF中に有機農研の人からEMがうまく培養されていないことを指摘され、急遽、1.5LのPETボトル2本分のEMを新たに培養し始めた。時間がないので、有機農研の人に言われた通りに、大量の砂糖を加えた後、お湯の中に入れたり、ほっかいろなどを使って、出来る限り40℃近くに保つようにした。NF前から培養していたはずのEMはあまり暖かなところにおいて置けなかったためか、菌がうまく育たなかったらしく、PETボトルを揺すっても泡がでなかった(うまく出来るとEMの呼吸でた二酸化炭素のために、炭酸飲料のように泡が出るらしい)。来年は培養に失敗しないように、こまめにEMの様子を見るのが大切である。

の「堆肥化作業」について

- ・本来は、有機農研の畑で作った堆肥を高野中学に届けるという方針だったが、有機農研の都合で急遽、高野中でも堆肥化を行うことになった。突然のことではあったが逆にこのおかげで、有機農研の畑から堆肥を高野中に運ぶ手間が省けたのでその点ではよかった。
- ・その代わりに、高野中での堆肥化に失敗した時はそれらをどう処理するかが問題となってくる。この報告書を書いている時点では、堆肥化がうまくいくかどうかは分からないがとりあえず成功を祈りたい。
- ・また、成功しても1年間では使い切れず、堆肥が余ってしまった場合、来年は引き取ってくれなくなる可能性もある。ただ、校長先生の話では「肥料などの予算はなかなかもらえないので堆肥の欲しい学校は他にもあるだろう。」と言っていた。いずれにせよ、来年度以降も新しい引き取り先を探し続ける努力はした方がよいであろう。

E . スタッフの感想、エピソード集

a . スタッフアンケート集計

文責 松山直樹

1、目的

11 月祭環境対策委員会の活動に参加してもらったスタッフの感想・意見などを回収することにより次年度以降の参考とする。

2、実施内容

各スタッフ最終のシフトの後にスタッフアンケートを渡し、その場で記入、回収した。

3、集計結果

総回収枚数 36 枚

(1) スタッフの属性

今年度関わった全スタッフよりアンケート回収できなかったため、スタッフ名簿をもとに報告する。

今年度コアスタッフ	18 人
環対経験者	10 人
生協学生委員	12 人
スタッフの友人	14 人
他大学より	3 人
計	57 人

(2)(問い)今回入りました、シフトを下記の群(省略)の中から選んで記入し、そのシフト作業の感想・意見・改善を望む点等ご記入ください。

文面は基本的にアンケート用紙に書かれたものをそのまま打ち込んでいますが、「ゴミ」については全て「ごみ」に統一しました。また、句読点は必要に応じて補っております。

<POP設置>

・なんかうまくチームプレーができなかった。

<ごみ回収>

・a 35(だったと思う)のごみがすごかった(もっと回収回数を増やす)

<組成調査>

・朝はけっこうつよいのでがんばれた。来年以降は4日目もがんばりたい。
・さむい。ねむい。結構時間かかる。

<模擬店調査>

・これは予想とうらはらにはるかにつらかった。もぎてんの人の視線がいたい

<ごみ箱設置>

・2時間の余裕が見積もられていたが、担当が吉田Gだったこともあり20分で終了。感想特になし。
・リヤカーを引き出す際に、自転車が吉田食堂付近に大変多く、それを避けるのに苦労しましたが、それが無い時間帯に行くか、自転車整理が実施されている時間帯を狙って行くかするとスムーズにできるのでは？
・楽しかったです。

- ・朝早いので疲れた
- ・予定外に時間がかかりましたが、特に問題なかったです。ただ、ビニール袋設置と表示貼りは同時にやった方がいいでしょう。1回まわっている間に違うところに捨てられることがあるので。あと、セロハンテープは2つあった方が作業が速く進みます。
- ・校内など早く終わるところもあれば、a、cは時間を延長してしまった
- ・7分別なら7分別で普段のごみ箱もそうするいい機会では。

<発泡トレ洗浄>

- ・2, 4日目に手伝った。4日目のほうがスペースがせまくみえた。
- ・すぎ3.5時間、仕分け3.5時間等、スタッフ負担が大きいです。効率が多少下がっても経験者を交替でいれるようにしたら、うめあわせられるのでは・・・。
- ・スポンジをもう少し工夫すべき。あのスポンジを使い続けると模擬店が嫌がる。
- ・時間が長かったのでつかれた。全体的につかれた。
- ・ゴム手袋使いまわしをきちんとすべき。きてくれた人はわりと楽しくやっている人も多いよう。
- ・午前中で晴れだったのでよかった。来ないモギ店も多かった。

<レスト設置・回収>

- ・イスが盗られるのは無理もない。せめてヒモでイス同士結ぶとかすればよいのに
- ・朝早くから力仕事だったのでつらかった。必要物品がそろっていなかったようで、少し時間がかかった。全体としては大きな問題はなかったと思う。
- ・予想以上に汚れていますな～
- ・非常に疲れる仕事。ごみが放置されている場合も多く、メリットとデメリットのバランスがとれていない。
- ・かなりしんどいと思う。つくえ・いすは重いし、よごれている
- ・ごみの放置が気になった。
- ・かなりしんどい。もっと人手を。4人じゃ足りない。

<企画>

- ・2回目は成功したようでよかったですな
- ・自転車発電がこんなに盛り上がるなんて思っていませんでした。凄く楽しかったです。生ごみ堆肥化も地道だけど知ってほしいことだと。全体的にスタッフの方もたくさんいてほんとに、いきいき活動できていることがいいなと思いました。私の大学でも是非来年やりたい。あまりお役に立ちませんが、みなさん優しくいっぱい勉強させてもらいました。ありがとうございます。
- ・自転車一本に絞り、中央食堂での洗い皿をするべき！

<吉田食堂清掃>

- ・眠くて疲れた

<集積場>

- ・4日目のごみ投げ。背高い人のほうがよさそう。
- ・9時まで暇だった(编者注:前夜祭)
- ・(生ごみ担当)クッキングペーパーが分別されていないものが多く、卵・小麦粉と一体化していて困った。堆肥化の詳しいやり方を、有機農研の人に初日に教わった人が次回以降伝えていくようにした方がいいのではないか。
- ・30分程度修羅場があって、すごかった
- ・あまりのごみの量に驚きました。計量の仕事をさせていただいたのですが、再分別の方が大変そうでした。
- ・すごくたくさんのごみが次々と運ばれてきた。でも、分類などの意識は、かなり浸透しているので

は、と思った。

- ・たいへんだったがやりがいある仕事だった。
- ・ひまなときはひまでしたね。今日はPETとたわむれて楽しかったです。
- ・ヒマな時と忙しい時の差が激しい。ペットボトルつぶしなどを躍起になってやった。やりがいがあって面白かった。
- ・ビニールごみは体積が多いのでできるだけ空気をぬかないと入りきらないです。
- ・言うことはない
- ・比較的模擬店が協力的だった。
- ・模擬店のごみ分別は、やはりどこでも悪いものだと感じた。PETのラベルのはがしが、完全に浸透していないと感じた。
- ・模擬店等の人にももっと仕事をしてもらってもいいのではないかと思います。スタッフが動くよりも模擬店の人にあれこれ指導のみをしていった方が分別も最初から意識的に行われなかな……。
- ・予想より楽だった。模擬店などがこっそり置いていくのは要注意。
- ・EM菌、米ぬかの量が不足。生ごみなのに紙とか卵パックとかあったのでチェックをきびしく！！
- ・大変だった
- ・分別チェックは各エリアにすすむよう模擬店に言うが、いくつもの行き先がある場合（生ごみ・再分別・店内トレ洗・OKなど）行き先がわからなくなるので、看板おきたいです。各エリアに。
- ・やっぱり暗い。また複数場所で作業するには少し範囲が狭い。
- ・再分別多し。作業がたいへん。分業化を図れば。
- ・もう一つ作るか広げてほしい

<巡回>

- ・思ったより楽
- ・模擬店の対応はよいがPOPを見ていないようだ。
- ・やはり疲れる仕事。ピンポイントするものとししないものの差を明確にした方がいいかも。

<洗い皿>

- ・2～3年前から洗い皿の担当をしてきましたが、だいぶ改良されて作業がスムーズに行えるようになってきたと思いました。
- ・そんなに仕事がなかったので……。
- ・どこの団体のお皿がどこにあるのかだいたい把握するまでもたもたしてしまい申し訳なかったです。一番手間だったのはおはしの勘定だったので、10ぜんごとなどにおいていただけるとさらなる効率化がはかれると思います。
- ・ひたすら皿を集めて提出。それなりにやる気がでた。
- ・パン箱は底が穴あきなので各模擬店で汁は捨ててほしい。食堂の床が汚れるから
- ・順調
- ・暇な時間と忙しい時間が両極端でした。持って来る分は、数えて持って来る、ということではできないのでしょうか。（おそらく、自分達で確認したい、ということなのでしょうが。）模擬店の数に対して、洗い皿を用いている店の数の少なさに驚いてしまいました。
- ・回収の方法がよいと思った（紛失の恐れが少ないため）
- ・トイレ使用防止対策がむずかしい。気を許しているとあっというまに入っていく。
- ・楽だった。
- ・結構暇だった。
- ・皿の交換にくる人が少なかったため、あまり仕事してなかったと思います。トイレに入っちゃいけないことをお客さんに伝えました。
- ・全体的にもっとおっきい声で皿の枚数を言った方がいいと思う。
- ・短時間で、それほど忙しい時間でもなかったため、それほど問題はなかった。3つくらいの模擬店が一度にくると大変だった。あと、はしたてが全く足らなかったようです。

- ・面白かった
- ・模擬店にペットボトルで作った箸入れを配布して(複数) それに入れて持ってきてもらおうと数えやすく後ろの人を待たせることもない
- ・シフト組みが甘かった(のかな?) 時間をオーバーしていた。
- ・基本的に皿の返却についてはスムーズだったと思う。一部、洗浄シフトのキャンセルあり。

(3)(問)その他11月祭環境対策委員会の活動・意見・改善を望む点等ありましたら、ご記入ください。

- ・割り箸もごみ箱の横に、たけ申込みたいに入れるのを作ったらよく回収できるかも(すぐにいっぱいになるかな?)
- ・事務局&模擬店の人々を環境色に洗脳してみる(笑)
- ・竹ぐし入れは存在がうすいです。
- ・お店の前にごみ袋がおいてあるのはいいことだと思うが、なんか見た感じがよくないし、商品を買っていないお店のごみ袋に捨てるのは違和感があった。全体部にあるごみ箱がもう少し多いほうがいいと感じた。
- ・洗い皿をもっと多くの団体に広めてほしい。
- ・みなさんおつかれさまです
- ・環対さんが集積場とかの仕事を引ききちんと計画立ててやってくださらなかったら大変なことになってる気がします。ごみの整理(分別)の重要性を痛感しました。
- ・今までこんな活動をなさっていると知らなかったので、今回参加できてとても楽しかったです。
- ・これからもがんばって下さい。活動内容の全体的なことを把握していないので、何とも言いえないのですが・・・スミマセン。
- ・大変な活動で、しかも目立たない仕事ではあるけれど、大切な活動だと思います。
- ・毎年たいへんそうですが、がんばってください。
- ・ごみ箱の設置箇所やごみ箱の色・形状の工夫などが出来ると思う(仕事量を見れば)関連した企画も同時に行えば、もっと客は引き込まれると思う。裏方ばかりで表に出た企画がないと、客は知らないまま終わるので。
- ・いい体験になりました
- ・分別が思っている以上に徹底していた。知らなかった。
- ・11月祭環境対策委員会って名乗る時も書くときもしんどいやけど、何とかありません?
- ・段ボールのごみはこは朝つゆによわいのもう少しなんとか・・・。
- ・洗い皿洗浄・乾燥のシフトを見直しては? 単純労働なので2時間以上もやっているといい加減あきてくる。
- ・雨対策のためにももっと鉄製ごみ箱を増やして。

4、まとめ

比較的スタッフの率直な意見が集まっているのではないかと考える。コアスタッフについては、本報告書の作成に当たり、自分の意見を反映させることが出来るが、当日スタッフについては、これらの意見を検討することが必要である。

もちろん、ここで出た意見が全て正しく、またその点を環境対策委員会が全く考えていなかったわけでもないこともあるのだが、そういった意見も含め全ての意見を真摯に検討する姿勢は必要である。各コアスタッフについてはこれを参考に次年度の活動に活かしてほしい。

b. 当日スタッフの感想

文学部1回生 森本美沙

11月祭では2日間だけのスタッフでしたが、大変お世話になりました。配属場所は集積場とお皿の貸し

出しでした。とにかく驚かされたのは集積場です。あまりのゴミの多さに圧倒されてしまいました。もし環境対策委員会のほうでゴミの分別をしなかったらきっと生ゴミ、プラスチック類などいっしょくたになったままなのだろうかと怖いものがあります。やはり、食べ物を扱っている団体が主なのでプラスチック容器のゴミが多かったです。あれは非常にかさばるので集積場に持ってくる前に各団体でもう使えなくなった容器はハサミで細かく切ったりしたほうがよい気がします。紙類もできる限り小さくまとめて持ってきてもらえれば集積場のスペースにももう少し余裕ができたのではないのでしょうか。しかしこう考えられたのも実際にその場にいたからだと思います。貴重な体験をさせていただいてありがとうございました。また機会があったらお手伝いさせて下さい。

農学部資源生物科学科1回生 田中智弘

クラスメートの誘いで環境対策委員に一般参加させていただいたわけだが、非常に貴重な体験をする事となった。まず驚いたのがNF開催中に出されるゴミの量とその種類だった。華やかなNFが終わった後に残るのは、溢れかえるゴミ・ゴミ・ゴミ……。紙コップ、紙皿、割り箸、油粕、ペットボトル、空き瓶、空き缶……。その種類を数え出したら切りが無い。それを細かく分類し、リサイクル出来るものはリサイクルしようというのだから、さぁ大変だ。しかし、環境対策委員の人々は分量まで計測しながらそれを難なくこなしていった。夜遅くまで、汚れることを気にもとめず、誰から言われるのでもなく自らの意志でやり遂げているのだ。そんな人達に交じって活動に参加できただけでも今回の収穫は大きかったと思う。リサイクル出来た量は、毎日世界でリサイクルされることなく廃棄されていく量からいえばたかが知れているかもしれない。しかし、積み重ねが大事なのだ。ゴミは心がけ次第で資源にもなる。それを心から痛感できた今回の一般参加であった。

農学部資源生物科学科1回生 上村洋平

僕は環境問題に少し興味があって、この問題に対して少しでも何かしたいと思ったので、11月祭環境対策委員会の活動に当日参加という形で参加した。僕がした仕事は、ゴミ分別のためのゴミ箱の設置と、出されたゴミがちゃんと分別できているかチェックし、再分別するというものだった。ゴミの再分別をしていて、そのゴミの量の多さに驚いた。いくら祭りだとはいえ、こんなにも出るものなのだろうか。そして、ふと自分の普段の生活を考えると、ゴミとなるものがたるところにあると、いまさらながら思った。スーパーや店で、何か買えば包装紙や箱など必ず、ゴミとなり得るものがセットになっている。この様なことが、もはや当たり前になっていることを痛切に感じた。ゴミを分別し、リサイクルをするのは、もちろん大切だが、ゴミをなるべく出さない様な生活をするのがより大事だと思う。これから自分の生活の中でそれを少しずつでも実践できたらなと思う。

工学部地球工学科1回生 佐藤慎子

(参加1日目・前夜祭)

吉田食堂に行く。蛍光の黄色のジャンパーを着る。少し目立ってなんとなく嬉しい。ゴミ集積場に行く。前夜祭はまだゴミが少ない方だとのこと。ゴミの分類の仕方を教えてもらう。割り箸と竹串は繊維の質が違うから別々にするとのこと。ふーん初めて知った。勉強になった。ゴミを捨てるのをじっと分別通りに捨てるかどうかを見てると怖がられた。反省。フレンドリーにいこうフレンドリーに。あっちがゴミを捨てる前にこやかに話しかけるのがポイントと見た。

(参加2日目・NF1日目)

参加する前にチャリで事故ってかなりブルー。でも頑張る。今日も私はこやかなおねえさんだ。私にとってこの1日はPETボトルに明け暮れた(そんなにシフト入ってないけど日だった。とりあえずキャップはずす。とりあえず足でつぶす。とりあえずラベルはずす。爽健美茶のラベルは異様にはずしにくかったことだけは覚えている。それ以外はそれなりに楽しい。終わり頃になると屋台の残飯が大量に捨てられる。もったいないのは勿論だが私達はご飯食べてないのでそれ以外の感情もわきでてくる。ハンバーガーが4つ

ほど手もつけられずに捨てられている姿がなぜか魅力的だった。(すみません)

c. エピソード集

今年も強者達が現れる……

< 模擬店編 >

感動秘話

「隣の模擬店の人がいないんで、そこの分もやりますよ！」

何でもします！

トレー洗浄に遅れてきたある模擬店。「すみませんでした！！今からでも洗わせてください！！NFのためなら何でもします！！」

仕事

トレー洗浄を忘れた模擬店さんが後で、「申し訳ありません。ほかのことならなんでもやります。」いや……何してくれるんですか？

トレー洗浄のすすぎの場で……

遅刻してきた模擬店員の人とすすぎをしていたところ、暇だったらしく、雑談を始め、そのうち、トレー洗浄・リサイクルの話に流れ、最後には、「お疲れ様です。がんばって下さい」と言って帰って行った。いい人だ……。

ワッフル屋の女2人

女の子二人連れが企画クイズに。解説を熱心に聞いた後、景品をもらって帰るかと思いきや、「ワッフル買ってください。」と言われた。エコスペースの前の模擬店だった。しかたがなく買った。が、横には同じ手口でやられたM君がワッフルを食していた……。2人ともだまされたのかな？

バイトじゃないんだから

トレー洗浄をしに来た模擬店の人に「これ洗ったらお金もらえるんですか。」と言われた。俺たちはもうこしゅうらいを忘れない

忘れない……

ていねいな模擬店

ごみ箱保管を忘れていた模擬店に注意しにいくと、スーツに身を固めた5～6人の人が出てきて、全員で謝られた。

感謝

ごみステーションを眺めていたら、担当ごみ箱（割り箸）を一生懸命分別している人が（後ろ姿）。おもわず拝みたくなった。

女帝伝説

去年のS Z 3よりも強力。子分はさすがに弱そうだった。あんた何もの？代表に気があるようだ。（代表注：そんな畏れ多い……）

キレル

洗い皿の乾燥をしていた某模擬店（しかも腰痛）が突然同じ模擬店の男にキレた。怒号は食堂中に響く。原因不明。

拍手（はあと）拍手（はあと）

「みんなごみ箱を運んでいるからこれも運ばないといけないのかなと思って……」と言って「生ごみバケツ」集積場にもって来てくれた模擬店。

そんなに邪魔か？

自転車置き場内の模擬店に吊るしてあったPOPが、ひっくり返して屋根にはさんであった。

ツケ

一人でのんびり休んでいた昼の集積場。クレープを売りにきた陽気な3人に、お金をもっていないと断ろうとすると「ツケでいいよ」というのでクレープを受け取った。結局払わず終いでNFが終わった。

ここには、いったい何が棲む？

<集積場編>

MちゃんPETボトル

後片付け日、ゆったりとPETボトルの山に座るMちゃん。さすが、ぶちょ～

そばめし

そばめしが世間でははやっていたようだ。僕は食べたことがなかったが、今回のNFで食すことができた。集積場で。

「まじぼーん？」

「段ボールは片付け日の回収となっておりますので、明日もう一度お願いします。」本当だってば。

「EM『菌』」

と有機農研のスタッフも言っていた。ニヤツ。

タイヤ

集積場の傍らに積まれたごみと紙一重のナゾなタイヤ。本祭では、PETボトルのプレス器として活躍。

水道

集積場の水道の簡易蛇口がぶっとんで、高さ1m以上の噴水と化した。必死で水をとめるため全身びしょぬれになった。疲れと寒さのピークに達していた時のハプニング。「泣いてもいいかも」と真剣に思った。

昼寝

シフトに入っているH君がいなくなったと思ったら、PETボトルベッドで昼寝していた。

ため息

晴れ続きで4日目には肌は焼け、唇の皮はびろびろにめくれる。ジーパンは汚れ、手にはにおいがしみつく。PETボトルを火ばさみでつまんで運ぶきれい系のお姉さんを見るとまたため息がでる。はぁ～あ。

破壊活動

ケルンに「ト口箱はつぶして袋に入れてほしい」といわれ、20個近いト口箱を蹴ってつぶすことに。でも、普通の人が見たら、集積場で破壊活動をするキレた人だったかも。

人知れぬところに苦労あり

<本部編>

代表徒然 1

携帯はNF中3回フル充電

代表徒然 2

着信履歴(20件)は2時間ともたずに流れる

代表徒然 3

そのうち、電話が鳴るのが怖くなる

代表徒然 4

実は腕章を気に入っている

トイレ

使用禁止の吉田食堂のトイレ。かけこむきれいなお兄さんに「使えません」と呼び止めると「もうがまんできないんです！！！！」と泣きそうになっている。何も言えませんでした。

oh!えんだん。。

Kさん(お馴染み応援団)は今年最後の前夜祭ステージ。記念の花束に環対代表のお言葉をもらう為、代表の一筆をお願いする。しかし代表「こういうの苦手なんだよねえ」と色紙を前に10分以上も放置。「何書けばいいんですか？」・プレッシャーに弱い代表だった。

お客様

今年はお客様が多かった。T取大、K都K育大、O阪大……。千客万来!?

人の数だけドラマあり

<スタッフ編>

負傷

W100地下に激突。コケル。今年のM氏は元気そうだ

3 hit combo

にはならなかった。今年のいきつけは「みかん」。「天一」は遠かった。

Kピー再び!!

前夜祭の日、吉田食堂本部を訪れると、背の高いスタッフの方が中から出てこられて、ハイ・トーン・ヴォイスで「すみませーん、あの一、ここ一般客お断りしてるんですよー(はあと)」と。去年に続いてやられました。Kピー。

高校の友達

3人ほど会いに来てくれた。「オーラは変わらない」と言われた。どんなオーラ?そのとき巡回中。すまん。

授業

ここへきて出席率急増中

体育実習(卓球)の友達

集積場に卓球の友達のごみを捨てにきた。彼が集積場から帰っていくとき、俺の顔を見て、苦笑いして帰っていた……。次回の卓球は荒れそうだ……。

「Iの会」の人

総人構内を走っていると、「Iの会」の友達がヘトヘトになって座っていた。何してたの?(後日談では現金つかみ取り大会!らしい)

角材

片付け日に看板用の板と角材をGET。角材を安CにもっていくためにはこんでいるとMさんとH君に遭遇。「似合いすぎ、似合いすぎ」何が?

にありいー

昨年度のnearly Mに続き、今年度はnearly M君&nearly Mさんが登場。(って、Mばっか……)

あなどるなかれ!

<ごみ箱編>

なぜ?

「竹串・竹箸入れ」に割り箸が山ほど入っていたところがあった。うによによによによ……。

見事!

竹串入れの2つのPETボトル。中身が見事にフランクフルト串と焼き鳥串に分かれていた。すばらしい。

くることができません!

<その他編>

定食

なぜ……

嗚呼EM

主人に餌を忘れられ、断食状態の続いたEMたち。主人が気づいた日にはほとんど元気がなくなっていた。ごめんね。

からあげ

K, H君, M君でレスト撤収におもむく「大量のごみ」皆、「めっちゃむかつく」「なめすぎ」レストの机の上に放置からあげ発見。唯一の収穫に皆涙してからあげを完食!

パンチだ、ロボッ！

仮装行列も一つの企画。ごみテルで我らも参戦！？

チャリ

自転車発電に使われたチャリは俺のチャリ。タイヤがすりへって、タイヤの粉が山盛り。おつかれさんです。

合格鉛筆？

企画のクイズを見に来た高校生くらいの男の子とその母親が、クイズの解説を熱心に聞いてくれた後、鉛筆をわたすと「京大生の鉛筆よ！大事に下さい！」と母親。鉛筆の箱には「 ック」のシールが・・・。

F . 編集後記

現在時刻 2002 年 3 月 4 日 10 : 02。印刷作業の直前までの編集となってしまいました。と、言っても夜を徹して作業していたわけでもなく、単に持ち前の先延ばし的な性格からです。

さて、編集作業をしていると、「あの写真も入れておけばよかったなあ」とか「もう少しレイアウトも工夫できるなあ」とか色々思ったりします。せめて、来年はもう少し余裕をもって編集したほうがよいですね。

今年度の報告書の分量は過去最高で・・・と思って確認したら 1998 年度の方が 1 ページ多いようです。まあ、多ければいいというものでもなくて、やはり読みやすく要点を押さえた報告書が望ましいのは、言うまでもないでしょう。

今年は、報告書と他の内部資料との関係を明確にできませんでした。せっかく毎年の活動があるのですから、それを次年度以降に活用できるよう、資料と報告書を工夫するのは大切でしょう。

余談ですが、新聞というのは恐ろしい力があるそうです。どんなに凄惨な事件でも、どんなに大きな出来事でも、その記事が新聞に載り、そして 2 , 3 日も経過すると、それも日常の一部として受け入れられてしまうというのです。

この報告書にそこまでの力があるかわかりませんが、報告書に載ったからといって、それが最善であり、既定事項であるとは考えないで下さい。既存の活動を守るだけしかできなくなったら、発展はありません。

最後になりましたが、11 月祭環境対策委員会の皆さん、当日スタッフの皆さん、11 月祭事務局をはじめとした関係諸団体の皆さん、どうもありがとうございました。

2002 年 3 月 14 日 月曜日 午前 10 : 19 : 50 (日本標準時)

第43回京都大学11月祭環境対策委員会報告書

第43回京都大学11月祭環境対策委員会



二〇〇二年三月四日 初版発行

発行 第四十三回京都大学十一月祭環境対策委員会

編集 松山直樹（工学部地球工学科二回生）

印刷 京都大学安全センター

〒六〇六 八五〇一

京都市左京区吉田本町官有無番地

電話 〇七五 七五三 七六〇九

製本 第四十三回京都大学十一月祭環境対策委員会

落丁・乱丁は、残部があればお取り替えいたします

無断複製・転載を推す

この冊子は、誇り高き新聞古紙一〇〇%再生紙の
エコペーパー一〇〇を使用しています

Printed in Japan

